HITACHI

FLORA 330W DX1

FLORA活用百科

1章　マニュアルやヘルプを使おう
2章　各部の名前と働きを知ろう
3章　パソコンを接続しよう
4章　Windowsを立ち上げよう
5章　ご購入時の状態に戻すには
6章　パソコンに機器を接続する
7章　パソコンを拡張するときは
8章　日常のお手入れ
9章　技術情報
10章 使い勝手を調節する
11章 消費電力を節約する
12章 付属ソフトウェアについて
13章 トラブルを解決するには
付録

マニュアルはよく読み、保管してください。
・製品を使用する前に、安全上の説明をよく読み、十分理解してください。
・このマニュアルは、いつでも参照できる状態にしておいてください。

はじめに

重要なお知らせ

・本書の内容の一部または全部を、無断で転載あるいは引用することを禁止します。
・本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。
・本書の記述内容について万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
・本製品を運用した結果については前項にかかわらず責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

パソコンの信頼性について

ご購入いただきましたパソコンは、一般事務用を意図して設計・製作されています。生命、財産に著しく影響のある高信頼性を要求される用途への使用は避けてください。このような使用に対する万一の事故に対し、弊社は一切責任を負いません。
高信頼性を必要とする場合には、別システムが必要です。弊社営業部門にご相談ください。
一般事務用パソコンが不適当な、高信頼性を必要とする用途例
・化学プラント制御、医療機器制御、緊急連絡制御など

規制、対策などについて

■ 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

■ 電源の瞬時電圧低下対策について

落雷等による電源の瞬時電圧低下に対して不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお勧めします (社団法人 電子情報技術産業協会のパーソナルコンピューターの瞬時電圧低下対策規格に基づく表示)。

■ ENERGYSTAR® について

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。
『国際エネルギースタープログラムは、コンピューターをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品はコンピューター、ディスプレイ、プリンター、ファクシミリ、複写機、スキャナ、複合機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク (ロゴ) は参加国間で統一されています。』
※本製品は、2007 年 7 月 20 日以後の国際エネルギースタープログラム適合基準には適合していません。

■ PC グリーンラベル制度について

本製品は、PC3R「PC グリーンラベル制度」の審査基準 (2007 年度版) を満たしています。
詳細は、Web サイトをご覧ください。
→ http://www.pc3r.jp

■ J-Moss グリーンマーク表示について

本製品は、資源有効利用促進法、及び JIS C 0950 が規定するグリーンマーク表示の基準に適合しています。
適合状況は、下記 URL をご覧ください。
→ http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/flora/policy/environment/index.html

■ 高調波電流規格：JIS C 61000-3-2 適合品

JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値 (1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

■ 輸出規制について

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。この装置に付属する周辺機器やソフトウェアも同じ扱いになります。
なお、ご不明な場合は、弊社「お問い合わせ先」にお問い合わせください。

■ 音楽 CD 再生について

ディスクレーベル面に COMPACT disc DIGITAL AUDIO マークの入ったものなど JIS 規格に合致したディスクをご使用下さい。規格外 CD を使用された場合には、再生の保証はいたしかねます。再生できた場合であっても、音質は保証いたしかねます。
なお、規格外 CD を再生した場合、色々な不具合が発生することがあります。

■ 液晶ディスプレイのドット抜けについて

表示するパターンによっては、微妙な輝点 (指定の色と関係なく光る) や黒点 (指定の色が表示できない) が見えたり、罫線や文字の一部が欠けることがあります。ただし、輝点や黒点の数については、弊社の規格によって制限しています。ご使用中、著しく増加することはありません。(社団法人 電子情報技術産業協会のパソコン用液晶ディスプレイのドット抜けに関する定量的表記ガイドラインに基づく表示)
詳細は FLORA ホームページ内の仕様表をご覧ください。
→ http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/flora/index.html

お使いになる前に

このたびは日立のシステム装置(以下、パソコン)をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。次の内容と各マニュアルの内容をよくお読みになり、安全に正しくお使いください。

基本ソフトについて

このパソコンには、次の基本ソフト(OS(オーエス)またはオペレーティングシステム)がインストールされています。インストールされている以外のOSは保証外です。

・ Microsoft® Windows® XP Professional Operating System(以下 Windows XP または Windows)

お問い合わせ先

■ パソコンの操作や使いこなしについてのお問い合わせ

HITAC カスタマ・アンサ・センタにお問い合わせください。技術的なお問い合わせについて回答いたします。ただし、各言語によるユーザープログラムの技術支援は除きます。

■HITAC カスタマ・アンサ・センタ（HCA センタ） TEL: 0120-2580-91（フリーダイヤル） 受付時間 : 月曜日～金曜日 9:00 ～ 12:00、13:00 ～ 17:00（土・日・祝日・年末年始を除く） ＊電話での対応は国内に限らせていただきます。

■ Windows XP のお問い合わせについて

インストールおよび各種設定項目などのお問い合わせについては、有償となります。
下記までお問い合わせください。

■Windows XP のお問い合わせ メールアドレス：supportservice-soft@itg.hitachi.co.jp ホームページアドレス：http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/soft1/service/index.html

上記のホームページは、ミドルウェアを含めた総合的なソフトウェアサポートサービスのホームページです。

■ 故障や保守サービスについてのお問い合わせ

トラブルが発生した場合は、本書の第 13 章をご確認ください。故障と判断される場合は、日立コールセンタまたはご購入先にお問い合わせください。併せて保守サービスのご案内をいたします。

■日立コールセンタ TEL: 0120-8824-40（フリーコール） 受付時間 : 9:30 ～ 19:00（平日） ＊土、日、祝日、年末年始は休ませていただきます。 ＊電話での対応は国内に限らせていただきます。

■ パソコンの廃棄についてのお問い合わせ

弊社では、事業者 (法人所有)、及びご家庭 (個人所有) の使用済みパソコンの回収リサイクルサービスを行っています。詳細については、日立リサイクルホットラインにお問い合わせください。

■日立リサイクルホットライン
TEL: 0120-12-5006（フリーダイヤル、携帯電話、PHS からも可）
受付時間 : 月曜日～金曜日 9:30 ～ 17:00（土・日・祝日、および弊社休業日を除く）
メールアドレス：e-kankyo@ml.itg.hitachi.co.jp
ホームページアドレス：http://www.hitachi.co.jp/pc-recycle/
＊本サービスは国内に限らせていただきます。

■ パソコンの廃棄・譲渡時のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきております。これらのパソコンの中のハードディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。
従って、そのパソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。
ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。
「データを消去する」という場合、一般に
・データを「ゴミ箱」に捨てる
・「削除」操作を行う
・「ゴミ箱を空にする」コマンドを使って消す
・ソフトで初期化 (フォーマット) する
・付属のリカバリー CD を使い、工場出荷状態に戻す
などの作業をすると思いますが、これらのことをしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータは見えなくなっているという状態なのです。

つまり、一見消去されたように見えますが、Windows®などの OS のもとで、それらのデータを呼び出す処理が出来なくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。
従って、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このパソコンのハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用される恐れがあります。
パソコンユーザが、廃棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、ユーザの責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス (共に有償) を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることを推奨します。
なお、ハードディスク上のソフトウェア (OS、アプリケーションソフトなど) を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、十分な確認を行う必要があります。

このパソコンには、HDD データ消去ユーティリティー「 CLEAR-DA 」を付属しています。

参照

・ 詳細について→ 12 章の「CLEAR-DA FLORA Edition」(P.182)

アプリケーションのお問い合わせ先

このマニュアルで説明していて次表に記載されていないソフトウェアについては、弊社の「お問い合わせ先」までお問い合わせください。

参照

・お問い合わせ先→「お問い合わせ先」(P.4)

アプリケーション名	問い合わせ先	電話番号	FAX 番号
Office Personal 2003	マイクロソフト 無償サポート	03-5354-4500 06-6347-4400	−
インターネットマーク	株式会社 日立製作所 公共システム事業部 インターネットマークス 事業推進 G	e-mail： internet-marks@ml.itg.hitachi.co.jp (e-mail のみのお問い合わせとなります)	
B's Recorder GOLD8 BASIC for HITACHI	BHA テクニカルサポートセンター	06-4861-8234	06-6378-3336
PowerDVD 6	サイバーリンクカスタマーサポートセンター	0570-080-110	03-3516-9559
CLEAR-DA FLORA Edition	(株)日立ケーイーシステムズ	047-472-8633	−
		e-mail： clear-da@ml.itg.hitachi.co.jp	
BACKUP-DA FLORA Edition	(株)日立ケーイーシステムズ	047-472-8633	−
		e-mail： backup-da@ml.itg.hitachi.co.jp	
SAVINGDA	(株)日立ケーイーシステムズ	047-472-8633	−
		e-mail： saving-da@hke.jp	
Norton AntiVirus 2006 (90 日版)	株式会社 シマンテック	次の URL よりユーザー登録が必要です。 http://www.symss.jp/jpo-hitachi-reg/	

＊お問い合わせ先はマニュアル制作時点のものです。
＊インストールされているアプリケーションは、機種によって異なります。
＊各ソフトウェアの責任元は、各開発元になります。
＊添付ソフトウェア以外の市販のアプリケーションについては、各開発元にお問い合わせください。

パソコンの最新技術情報

パソコンに関する最新情報をホームページに掲載しています。ご参照ください。

参照

・ 電子マニュアルからホームページを見る→ http://www.hitachi.co.jp/pc/ が表示されます。

マニュアルの表記について

⚠	これは、安全注意シンボルです。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用います。起こりうる傷害または死を回避するためにこのシンボルのあとに続く安全に関するメッセージに従ってください。
⚠警告	これは、死亡または重大な傷害を引き起こすかもしれない潜在的な危険の存在を示すのに用います。
⚠注意	これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
注意	これは、装置の重大な損傷、または周囲の財物の損害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
重要	重要事項や使用上の制限事項を示します。
ヒント	パソコンを活用するためのヒントやアドバイスです。
参照	参照先を示します。
用語	パソコンの用語を解説します。
CD/DVD ドライブ	このマニュアルでは、CD-ROM ドライブなどの光学式ディスクドライブをまとめて表記します。
HDD	ハードディスクドライブを表記します。
FDD	フロッピーディスクドライブを表記します。
FD	フロッピーディスクを表記します。
HDD リカバリーモデル	『Product Recovery CD-ROM』が同梱されておらず、HDD のリカバリー領域から再セットアップを行うモデルを表記します。
CD-ROM リカバリーモデル	『Product Recovery CD-ROM』、『活用』CD が同梱されており、再セットアップは、添付の CD-ROM から行うモデルを表記します。

マニュアルの説明している画面およびイラストは一例です。機種によっては、異なる場合があります。説明の都合で、画面のアイコンやイラストのケーブルなど、一部省略している場合があります。
URL、お問い合わせ先、画面などは、マニュアル制作時点のものです。

もくじ

はじめに 2
重要なお知らせ 2
パソコンの信頼性について 2
規制、対策などについて 2
お使いになる前に 4
基本ソフトについて 4
お問い合わせ先 4
アプリケーションのお問い合わせ先 6
パソコンの最新技術情報 6
マニュアルの表記について 7
もくじ 8
パソコンを安全にお使いいただくために 13
設置時のご注意 14
使用前のご注意 15
使用時のご注意 15
保管時のご注意 16
作業時のご注意 17
一般的なご注意 18
その他のご注意 19

1 章　マニュアルやヘルプを使おう 21
マニュアルの使い方 22
主なマニュアル 22
その他のマニュアル 22
電子マニュアルを使う 23
電子マニュアルを開く 23
知りたいことをマニュアルから探す 23
わからないときは、ヘルプで！ 24
項目から調べる 24
指定した用語から調べる 27
操作画面の項目の意味を調べる 28
作業の流れをつかんでおこう 29
はじめてパソコンを使うときは 29
トラブルが発生したときは 30
パソコンに何かを取り付けるときは 30

2 章　各部の名前と働きを知ろう 31
パソコンと付属品の名前を知ろう 32
パソコン正面 32
パソコン背面 33
キーボード 34
インジケーターランプの見方 35

3 章　パソコンを接続しよう 37
接続しよう 38
置き場所や姿勢について 38
パソコンの置き方を決めよう 39
パソコンを接続しよう 41

ほかの周辺機器を使うときは 43
キーボードの角度を変えよう 43
電源を入れよう 44

4 章　Windows を立ち上げよう 45

はじめて電源を入れるときは 46
電源を入れる 46
使用許諾契約に同意しよう 46
電源を入れ直す 49
電源を切る 49
電源を入れ直す 49

5 章　ご購入時の状態に戻すには. 51

準備する 52
このあとの作業の流れ 52
BIOS や Security Chip をご購入時の状態に戻す 53
一括セットアップする. 55
ご購入モデルと一括セットアップ方法について 55
一括セットアップの方法. 56
『BackUP CD-ROM』を作成する. 58
『活用』CD を作成する. 62
HDD を使った一括セットアップ 64
CD-ROM を使った一括セットアップ 69

6 章　パソコンに機器を接続する. 75

ディスクを使おう 76
ディスクの入れ方 / 取り出し方 76
DVD-RAM ディスクをフォーマットする 77
FD の入れ方／取り出し方 78
周辺機器接続時に必要な設定 80
LAN に接続する 81
LAN に接続する方は 81
スピーカー、マイクを接続する 82
接続方法 82
マイクを使って録音する 83
USB 機器を接続する. 84
接続方法 84
取り外し方法 85
その他の周辺機器を接続する 86

7 章　パソコンを拡張するときは. 87

内蔵周辺機器の増設 88
作業時の注意点 88
パソコンカバーの取り外し / 取り付け 89
メモリーボードを取り付ける 91
メモリーボードとメモリーボードソケットの組み合わせかた 91
拡張ボードを取り付ける. 95
取り付け手順 95

8 章　日常のお手入れ. 99

お手入れ 100
パソコン 100
CD/DVD ドライブ 100
FDD 101
マウス 102

9 章　技術情報 103
パソコン仕様一覧 104
ドライブとディスクの仕様 107
CD-ROM ドライブの仕様 107
DVD-ROM ドライブの仕様 108
DVD-ROM&CD-R/RW ドライブの仕様 109
DVD スーパーマルチドライブの仕様 110
FD の仕様 113
ドライブの使用について 114
その他の周辺機器の仕様 116
メモリーボードの仕様 116
有寿命部品 117
オプション一覧表 119
重要事項 120
パソコンおよび周辺機器を使用する環境について 120
パソコンおよび周辺機器の取り扱いについて 121
DVD スーパーマルチドライブについて 121
通信について 122
光学式マウスについて 122
ディスプレイについて 122
HDD の容量表示について 123
HDD の取り扱いについて 123
HDD パスワードについて 123
盗難防止用ロック取り付け穴について 124

10 章　使い勝手を調節する 125
マウスを調整する 126
[マウスのプロパティ] を開く 126
ダブルクリックの速度を変える 126
マウスポインターの動く速さを変える 127
文字を入力する 128
日本語入力をオン／オフする 128
特殊文字を入力する 128
ローマ字／かな入力を切り替える 128
キー上の文字を打ち分ける 128
英大文字と英小文字を切り替える 129
ディスプレイの表示を変える 130
[画面のプロパティ] の開き方 130
画面の領域、色、フォントの設定 130
リフレッシュレートの設定 131
ビデオメモリーの容量を増やす 132
音量を調整する 133
[音量] アイコンで調整する 133
[マスタ音量] で調整する 133
タスクバーに [音量] アイコンが表示されていないときは 134
マイクの感度を調整する 134
CD/DVD ドライブを設定する 135

DVD-Video を再生する 135
BIOS の設定を戻す.......... 136
BIOS メニューを表示する 136
BIOS 設定を初期化する 137
パスワードで保護する.......... 139
設定できるパスワード 139
BIOS メニューパスワードとハードディスクパスワードとの関連 142
BIOS メニューパスワードの設定方法.......... 142
ハードディスクパスワードの設定方法 144
Wake On LAN を設定する.......... 149
Wake On LAN できる状態 149
Wake On LAN の設定 149
別のディスクから立ち上げる 151
Security Chip を使う.......... 152
Security Chip の設定を有効にする 152
Security Chip をクリアする 153

11 章　消費電力を節約する 155

節電機能とは.......... 156
節電機能の種類 156
節電する 157
自動で節電する 157
すぐに節電.......... 159
節電状態から復帰する.......... 161
節電機能を使わないようにする 162
節電機能を使わないようにするとき 162
節電機能を使わないようにするには 162
CPU を節電する.......... 163
節電する 163

12 章　付属ソフトウェアについて.......... 165

ドライバーについて 166
Intel(R) Chipset Software Installation Utility 166
表示ドライバー 167
サウンドドライバー 169
LAN ドライバー 169
ホイールマウスドライバー 170
3 モード FD ドライバー 171
DVD-RAM ドライバー／フォーマットユーティリティー 173
BEAMSTAR 用ドライバー 176
DMA 設定 176
Security Chip ドライバー 177
アプリケーションについて.......... 178
インターネットマーク 179
Norton AntiVirus 2006 (90 日版) 179
Norton Ghost 2003 180
Java 2 Platform Standard Edition Runtime Environment 181
JP1/NETM/DM Client FLORA Edition 181
CLEAR-DA FLORA Edition 182
BACKUP-DA FLORA Edition 182
SECUREDA 184
SAVINGDA 185

POWER-DA 186
B's Recorder GOLD8 BASIC for HITACHI 186
PowerDVD 6....187
Office Personal 2003 187
Security Chip ユーティリティー 187
Adobe Reader 188
Windows ファイルを追加セットアップする.... 189
ソフトウェアの重要事項 190
Windows の使用について 190

13 章　トラブルを解決するには 195
電源を入れたときの異常 196
エラーメッセージが表示されたら 196
こんな状態の時は.... 197
パソコン 197
ディスプレイ 198
マウス....201
キーボード 203
電源 203
システムの動作がおかしい....204
アクセスランプ 207
BIOS メニュー....207
音が聞こえない、録音できない....208
プリンターで印刷できない....209
CD/DVD ドライブの異常 210
FD の異常 211
HDD のトラブル 212
その他の周辺機器のトラブル....212
ファイルがうまく管理できない....214
インターネット使用中のトラブル 214
インターネットブラウザーのトラブル....216
メールの送受信がうまくいかない 218
時計精度....219
その他のソフトウェアのトラブル 219
電子マニュアル 220

付録.... 223
サポート＆サービスのご案内.... 224
1. 納入時の欠品や初期不良について 224
2. 困ったときは 224
3. 製品保証について....225
4. 有償サポートについて 226
5. 補修用性能部品について 226
6. FLORA シリーズ修理依頼書....227

さくいん....228

パソコンを安全にお使いいただくために

● 安全に関する共通的な注意について

次に述べられている安全上の説明をよく読み、十分理解してください。
・ 操作は、このマニュアル内の指示、手順に従って行ってください。
・ 装置やマニュアルに表示されている注意事項は必ず守ってください。
これを怠ると、けが、火災や装置の破損を引き起こすおそれがあります。

● シンボルについて

安全に関する注意事項は、次に示す見出しによって表示されます。これは安全注意シンボルと「警告」および「注意」という見出し語を組み合わせたものです。

これは、安全注意シンボルです。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用います。起こりうる傷害または死を回避するためにこのシンボルのあとに続く安全に関するメッセージに従ってください。

これは、死亡または重大な傷害を引き起こすかもしれない潜在的な危険の存在を示すのに用います。

これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。

注意
これは、装置の重大な損害、または周囲の財物の損害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。

【表記例１】感電注意

△の図記号は注意していただきたいことを示し、△の中に「感電注意」などの注意事項の絵が描かれています。

【表記例２】分解禁止

⃠の図記号は行ってはいけないことを示し、⃠の中に「分解禁止」などの禁止事項の絵が描かれています。

【表記例３】電源プラグをコンセントから抜け

●の図記号は行っていただきたいことを示し、●の中に「電源プラグをコンセントから抜け」などの強制事項の絵が描かれています。

● 操作や動作は

マニュアルに記載されている以外の操作や動作は行わないでください。装置について何か問題がある場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと、お買い求め先にご連絡ください。

● 自分自身でもご注意を

装置やマニュアルに表示されている注意事項は、十分検討されたものです。それでも、予測を越えた事態が起こることが考えられます。操作に当たっては、指示に従うだけでなく、常に自分自身でも注意するようにしてください。

設置時のご注意

警告

日本国以外の使用

本パソコンは日本国内専用です。電圧の違いや環境の違いにより、国外で使用すると火災や感電の原因になります。また他国には独自の安全規格が定められており、本パソコンは適合していません。

使用する電源

使用できる電源は交流 100 V です。それ以外の電圧では使用しないでください。電圧の大きさに従って内部が破損したり、過熱・劣化して感電や火災の原因になります。

タコ足配線

同じコンセントに多数の電源プラグを接続するタコ足配線はしないでください。コードやコンセントが過熱し、火災の原因になるとともに、電力使用量オーバーでブレーカーが落ち、ほかの機器にも影響を及ぼします。

周辺機器の増設や接続

周辺機器を増設・接続するときは、電源プラグをコンセントから抜き、すべてのケーブル類をパソコンから外してください。また、マニュアルの説明に従い、マニュアルで使用できることが明記された周辺機器を使用してください。それ以外の周辺機器を使用すると、接続仕様の違いによる周辺機器やパソコンの故障から発煙、発火、火災や故障の原因になります。

湿気やほこりの多い場所での使用

浴槽、洗面台、台所の流し台、洗濯機など、水を使用する場所の近傍、湿気の多い地下室、水泳プールの近傍やほこりおよび油煙の多い場所では使用しないでください。電気絶縁の低下によって火災や感電の原因になります。

注意

信号ケーブルについて

- ケーブルは足などに引っかけないように、配線してください。足をひっかけると、けがや接続機器の故障の原因になります。また、大切なデータが失われるおそれがあります。
- ケーブルの上に重量物を載せないでください。
- 熱器具のそばに配線しないでください。ケーブル被覆が破れ、接続機器などの故障の原因になります。

パソコンの移動について

パソコンを移動させるときは、パソコン本体を持って移動してください。ゴム足やパソコンスタンド、フロントカバーを持って移動させると、パソコン本体からゴム足やパソコンスタンド、フロントカバーが外れ、けがや故障の原因になります。

不安定な場所での使用

傾いたところや狭い場所など不安定な場所には置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがをするおそれがあります。

パソコンスタンド、ゴム足の取り付け

- パソコンを縦置きでご使用になる場合は、必ず添付のパソコンスタンドを正しい位置に取り付けてください。取り付けないと転倒し、けがや故障の原因になります。スタンドを取り付ける時は、取り付けネジを根元までしっかりと固定してください。不安定な状態で使用すると、パソコンが転倒して、けがや故障の原因になります。
- パソコンを横置きでご使用になる場合は、必ず添付のゴム足を正しい位置に取り付けてください。正しい位置に取り付けないと傾いたりすべったりして、けがや故障の原因になります。

使用前のご注意

警告

温度差のある場所への移動

移動する場所間で温度差が大きい場合は、表面や内部に結露することがあります。結露した状態で使用すると、発煙、火災や感電の原因になります。使用する場所で、数時間そのまま放置してからご使用ください。

ほこりの除去について

・ほこりの多い場所では使用しないでください。本体内部にほこりが溜まることによって、内部の精密部品の冷却を妨げ、故障ややけどの原因になります。
・パソコンの周囲は、ほこりを吸わないようにこまめに清掃してください。パソコンの冷却用ファンユニットが目詰まりをおこし、過熱、発煙や故障の原因になります。

梱包用ポリ袋について

パソコンの梱包用エアーキャップなどのポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かないでください。かぶったりすると、窒息するおそれがあります。

電源コードの取り扱い

電源コードは必ず付属のものを使用し、次のことに注意して取り扱いください。取り扱いを誤ると、電源コードの銅線が露出したりショートや一部断線で、過熱して感電や火災の原因になります。

・ものを載せない
・引っ張らない
・押しつけない
・折り曲げない(束ねない)
・加工しない
・熱器具のそばで使わない
・束ねない
・他の機器に使用しない
・延長コードは使用しない

使用時のご注意

警告

異常な熱さ、煙、異常音、異臭

万一異常が発生した場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、感電、火災の原因になります。すぐに電源プラグを抜けるように、コンセントの周りには物を置かないでください。

揮発性液体の近くでの使用

マニキュア、ペディキュアや除光液など揮発性の液体は、パソコンの近くで使わないでください。パソコンの中に入って引火すると火災の原因になります。

通気孔

通気孔は内部の温度上昇を防ぐためのものです。物を置いたり立てかけたりして通気孔をふさがないでください。内部の温度が上昇し、発煙、発火や故障の原因になります。

⚠注意

小さなお子様などの使用時

小さなお子様などがお使いになるときは、必ず大人の方の見守りが必要です。トレイに指を挟んだりして、けがの原因になります。

眼精疲労について

ディスプレイを見る作業を行うときは、作業場を 300 ～ 1000 ルクスの明るさにしてください。また、連続作業するときは、1 時間に 10 分から 15 分程度の休息をとってください。長時間ディスプレイを見続けると、眼に疲労が蓄積されます。

ヘッドホンやイヤホン

ヘッドホンやイヤホン使用時は、適度な音量でご使用ください。音量が大きすぎると難聴になるおそれがあります。

光学式マウスについて

マウスの底面から発せられる赤い光を直接見ると、眼を痛める場合があります。赤い光を直接見ないでください。

トレイの開閉

CD/DVD ドライブのトレイはディスク（CD、DVD など）の装着、取り出しをするとき以外は、必ず閉じて使用してください。手などがぶつかったり指を挟んだりして、けがの原因になります。また、塵埃の侵入による故障の原因にもなります。

注意

屋外での使用

屋外では使用しないでください。故障の原因になります。

保管時のご注意

警告

ボタン電池の取り扱い

次のようなことは、行わないでください。電池は、取り扱いを誤ると過熱・破裂・発火・液漏れなどでけがをしたり、発煙・発火の原因になります。

- 分解しない
- 100 ℃以上に過熱しない
- 電池の＋－端子間をショートさせない
- 火中に投入しない
- 落下などによる強い衝撃を与えない

交換はお問い合わせ先にご相談ください。

ボタン電池の廃棄

電池を廃棄するときは、お買い求め先に相談していただくか、地方自治体の条例または規則に従ってください。

ボタン電池の保管

- ボタン電池を保管する場合は、端子に絶縁テープをはり、絶縁状態にしてください。絶縁状態にしないで電池を保管すると、端子間どうしが接触ショートし過熱・破裂・発火などでけがをしたり、火災の原因になります。
- ボタン電池は、小さなお子様が誤って飲み込むことのないような場所に保管してください。万一飲み込んだ場合は、息ができるようにしながら、ただちに医師にご相談ください。

作業時のご注意

⚠警告

拡張ボードの取り付け作業
拡張ボードやコネクタープレートは、必ずねじ止めしてください。拡張ボードを取り付けないときは、コネクタープレートを必ず取り付けてください。万一、部品が破損した場合、火災のおそれがあります。

⚠注意

部品の追加・交換
電源を切った直後は、カバーや内部の部品が熱くなっています。電源プラグをコンセントから抜き、約 30 分以上時間をおいてから行ってください。やけどの原因になります。

金属など端面への接触
パソコンの移動、部品の追加などで金属やプラスチックなどの端面に触れる場合は、注意して触れてください。または、綿手袋を着用してください。けがをするおそれがあります。

注意

ボードの取り扱いについて
ボードを取り扱う場合は、静電気をあらかじめ取り除くか、綿手袋などを着用してください。静電気を取り除かないでコネクター部などの電気部品に触れると、壊れるおそれがあります。

LAN コネクターについて
LAN コネクターには、LAN ケーブルを接続してください。LAN ケーブル以外のケーブルを接続しないでください。故障するおそれがあります。

ハードディスクの取り扱いについて
ハードディスクは精密機械です。ご使用にあたっては、大切に取り扱ってください。取り扱い方法によっては、ハードディスクの故障の原因になります。

・パソコンを持ち運ぶときは、振動や衝撃を与えないように慎重に取り扱う
・パソコンを移動させるときは、電源を切る

一般的なご注意

警告

修理・改造・分解
マニュアルの指示に従って行うオプションなどの増設作業を除いては、自分で修理や改造・分解をしないでください。火災や感電、やけどの原因になります。
特に電源ユニット内部は高電圧部が数多くあり、万一さわると危険です。

装置内部への異物の混入
通気孔などから内部にクリップや虫ピンなどの金属類や燃えやすい物などを入れないでください。そのまま使用すると、感電や火災の原因になります。

落下などによる衝撃
落下させたり、ぶつけたりするなど過大な衝撃を与えないでください。内部に変形や劣化が生じ、そのまま使用すると、感電や火災の原因になります。

装置上に物を置く
花びん、植木鉢など水の入った容器や虫ピン、クリップなどの小さな金属物を置かないでください。内部に入った場合、そのまま使用すると、感電や発煙、発火の原因になります。

パソコンカバーの取り外し
パソコンカバーを取り外すときは、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべてのケーブル類をパソコンから外してから行ってください。パソコンの電源を切っても、一部の回路には通電しているため、思わぬ接触など作業の不具合発生時に故障や劣化による火災の原因になります。

パソコンの電源 OFF について
パソコンの電源を切っても、一部の回路には通電されています。休暇や旅行など長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。万一、部品破損時には発煙、発火の原因になります。

接続端子への接触
USB コネクターなどの接続端子に手や金属で触れたり、針金などの異物を挿入したりしないでください。金属片のある場所に置かないでください。発煙したり接触不良などにより故障の原因になります。

電源プラグの接触不良やトラッキング
電源プラグは次のようにしないと、トラッキングの発生や接触不良で過熱し、火災の原因になります。

- 電源プラグは、根元までしっかり差し込む
- 電源プラグは、ほこりや水滴が付着していないことを確認し、差し込む。付着している場合は、乾いた布などで拭き取ってから、差し込む
- グラグラしないコンセントを使用する

電源プラグの抜き差し

- 電源プラグをコンセントに差し込むとき、または抜くときは必ず電源プラグを持って行ってください。電源コード部分を引っ張るとコードの一部が断線してその部分が過熱し、火災の原因になります。
- 休暇や旅行などで長期間ご使用にならないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。使用していないときも通電しているため、万一、部品破損時には火災の原因になります。
- 電源プラグをコンセントから抜き差しするときは、乾いた手で行ってください。濡れた手で行うと感電の原因になります。

⚠注意

目的以外の使用
踏み台やブックエンドなど、パソコン本来の目的以外に使用しないでください。壊れたり、倒れたりし、けがや故障の原因になります。

液晶ディスプレイ部の破損
液晶ディスプレイ部はガラスでできています。液晶ディスプレイ部が破損したときは、ガラスの破片には直接触れないでください。けがをするおそれがあります。

注意

バックアップについて
ハードディスク装置のデータなどの重要な内容は必ず補助記憶装置にバックアップを取ってください。ハードディスク装置が壊れると、データなどがすべてなくなります。

静電気について
パソコンや内蔵周辺機器は精密機器です。わずかな静電気も故障の原因になります。あらかじめ金属に触れるなどして、体から静電気を逃がしておいてください。

ディスクの取り扱いについて
割れたり変形したディスクをドライブに入れないでください。ドライブの故障の原因になります。

その他のご注意

⚠注意

アルミ電解コンデンサーについて
このパソコンに使用されているアルミ電解コンデンサーは有寿命部品です。設計寿命は、1日に8時間、1ヶ月で25日間使用で約5年です。寿命になると、電解液の漏れや枯渇が生じます。特に電源ユニットでの電解液の漏れは、発煙・感電の原因になることがあります。これらの危険を避けるために、設計寿命を超えて使用する場合は、有寿命部品単位で交換してください。また、業務用など昼夜連続運転相当では5年より寿命は短くなります。

注意

パソコンの廃棄

本製品を廃棄する場合は、適切なリサイクル処理をお願いします。「資源の有効な利用の促進に関する法律 (通称 : リサイクル法)」にもとづき、パソコン製造事業者である弊社は、お客さまのご依頼にもとづく事業者（法人所有）向けのパソコンの回収リサイクルサービスと、ご家庭（個人所有）向けの回収リサイクルサービスを提供しています。当該サービスでは回収リサイクルの効果を向上させるなど、法律の趣旨に的確に対応していますので、ご利用ください。

電波障害について

ほかのエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は、次のようにしてください。

・ テレビやラジオなどからできるだけ離す
・ テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える
・ コンセントを別にする

1章　マニュアルやヘルプを使おう

この章では、このパソコンの電子マニュアルの使い方について説明します。
パソコンと Windows の使い方について、もっと詳しく知りたいときにお読みください。

パソコンの電子マニュアル（本書など）は、ホームページに掲載しています。
ご参照ください。

参照

・　電子マニュアルについて→ http://www.hitachi.co.jp/flora-manual/

マニュアルの使い方

主なマニュアル

このパソコンには、紙のマニュアルと、画面で読む電子マニュアルがあります。

紙のマニュアル

- パソコンを接続してから、電源を入れてパソコンを動かすまでを説明しています。
  パソコンを購入時の状態に戻す方法などが含まれています。
- HDD リカバリーモデルには添付されません。

電子マニュアル

- 電子マニュアル（本書）は、日立のホームページに掲載されています。
- 周辺機器の取り付け方やパソコンの使いこなし方などが含まれています。
- 必要に応じて、操作前に該当ページを印刷してください。

その他のマニュアル

その他の電子マニュアル

本書以外の電子マニュアルも、ホームページに掲載されています。
必要に応じてお読みください。

- ● BIOS 一覧
- ●インタフェース仕様一覧
- ● Security Chip 取扱説明書

電子マニュアルを使う

電子マニュアルでパソコンの使い方などを調べましょう。
電子マニュアルは、『FLORA 活用百科』（本書）などがあります。

電子マニュアルを開く

ホームページから電子マニュアルを参照しましょう。

1 日立のホームページを開く。

参照

・ 電子マニュアルについて→ http://www.hitachi.co.jp/flora-manual/

2 読みたいマニュアルをクリックする。

選択した電子マニュアルが表示される。

3 参照先のページを開くときは、参照 部分などで、マウスポインターが指差しアイコンに変わったところをクリックする。

電子マニュアルを閉じるときは、画面右上の [×] ボタンをクリックする。

知りたいことをマニュアルから探す

電子マニュアルの中から、パソコンについて知りたいことを検索機能を使って探し出せます。

1 電子マニュアル『FLORA 活用百科』を開く。

2 [検索] ボタンをクリックする。

検索する場所や、検索する語句を入力する画面が表示される。

3 検索するキーワードを入力し、[検索] ボタンをクリックする。

検索結果が表示される。

4 検索結果をクリックする。

検索されたページが表示される。

わからないときは、ヘルプで！

Windows の使い方がわからないときは、ヘルプを使って調べましょう。
ヘルプを使うと、調べたい内容を目次から探したり、思いつく言葉で調べることができます。
ヘルプでの調べ方には、次の方法があります。

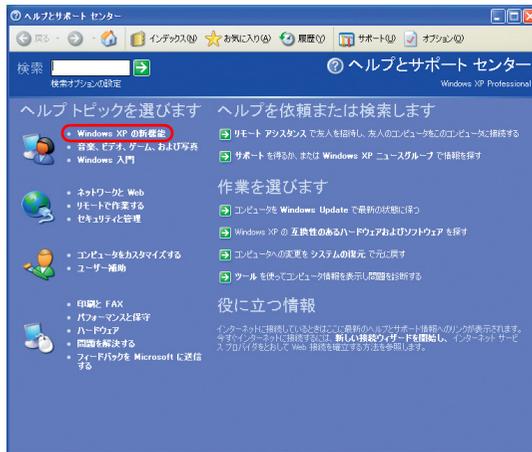
・項目から調べる
・指定した用語から調べる
・操作画面の項目の意味を調べる

項目から調べる

わからないことをヘルプから調べましょう。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［ヘルプとサポート］をクリックする。**

［ヘルプとサポートセンター］が表示される。

2　**調べたい内容を、項目から選ぶ。**
ここでは、Windows XP の新機能について調べるため、[Windows XP の新機能] をクリックする。

画面が切り替わる。

3　**「Windows XP の新機能」の [新しいトピック] をクリックする。**

画面が切り替わる。

4　**「新しいトピック」の [Windows XP の新機能] をクリックする。**

画面が切り替わり、説明が表示される。

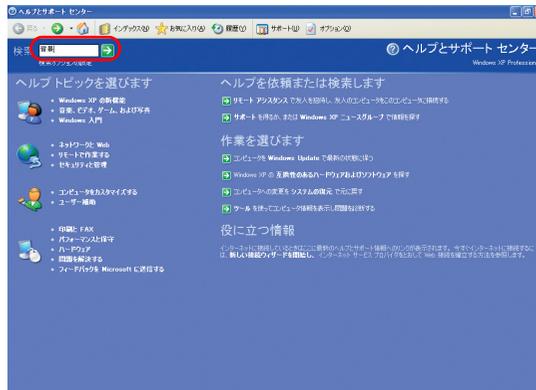
5 説明を読む。

ヘルプとサポート センター
戻る
インデックス(N)
お気に入り(A)
履歴(Y)
サポート(U)
オプション(O)
検索
検索オプションの設定
ヘルプとサポート センター
Windows XP Professional
Windows XP の新機能のみを検索
Windows XP の新機能
新しいトピック
ツアーとチュートリアル
Windows XP の記事：PC の使用方法のウォークスルー
ライセンス認証、ライセンス、およびユーザー登録
Windows コンポーネント
関連項目
Windows 用語集
Windows ショートカット キーの概要
ツール
Windows ニュースグループに移動する
お気に入りに追加(E)
表示の変更(V)
印刷(P)...
目次を表示(C)
Windows XP Professional の新機能
Windows XP Professional を使用していただき、ありがとうございます。すぐに利用できる新機能と既存機能が数多く用意されています。一部は Windows XP Professional で初めて装備された機能であり、そのほかは Windows の以前のリリース以降に強化された機能です。新しいツールによって、これまでのコンピュータの経験を最大限に活用することができます。また、バックグラウンドで動作するそのほかの技術によって、コンピュータの動作がより効率的で安定したものになります。
まず、ユーザーには見えない機能があります。つまり、Windows XP Professional には、コンピュータのバックグラウンドで実行される重要な機能があります。セキュリティ機能が全体的に強化されたので、インターネット上のショッピングやブラウズをさらに安全に行うことができるようになりました。また、プライバシーや個人データ ファイルが危険にさらされることを心配せずに、別のネットワーク上のユーザーと通信することもできます。パフォーマンスは常に高く保たれているので、より多くのプログラムをより速く実行できます。Windows XP Professional は信頼性と安定性が高く、コンピュータのパフォーマンスと有効性を常に期待することができます。ほかのプログラムとの互換性が特に強化されています。
ユーザーに見える機能もあります。Windows XP Professional には、多くの機能とツールが備わっており、コンピュータを簡単に効果的に、そのうえ楽しく使用することができます。たとえば、リモート デスクトップを使用すると、自宅からオフィスのコンピュータとそのリソースにアクセスしたり、自分のコンピュータのデスクトップのファイルやドキュメントを共同作業者のコンピュータから表示することができます。NetMeeting を使用すると、だれとでも、どこからでも仮想会議を行うことができ、オーディオ、ビデオ、またはチャットを利用して討論に参加できます。従来はそれほど簡単に支援を受けることができませんでした。しかし、リモート アシスタンスを使用すると、コンピュータに詳しい人やヘルプ デスク担当者に電子メールを送信して、そこから問題解決の支援を受けることができます。Windows XP Professional には、すべてのオペレーティング システム機能に関する広範なオンライン ヘルプと問題解決を補助するデジタル ツアーが用意されています。
これらのほかにも Windows XP Professional には数多くの新機能が備わっています 詳細については、"関連項目" をクリックしてください。
関連項目

指定した用語から調べる

わからないことを、指定した用語のあるページから調べましょう。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［ヘルプとサポート］をクリックする。**

2 **［検索］欄に調べたい用語を入力し、➡ボタンをクリックする。**

関連する項目が表示される。

3 **調べたい項目をクリックする。**

画面が切り替わり、説明が表示される。

4 **説明を読む。**

操作画面の項目の意味を調べる

いろいろな設定などを行う画面で、わからない項目の意味を調べてみましょう。
例として、[画面のプロパティ] 画面を説明します。

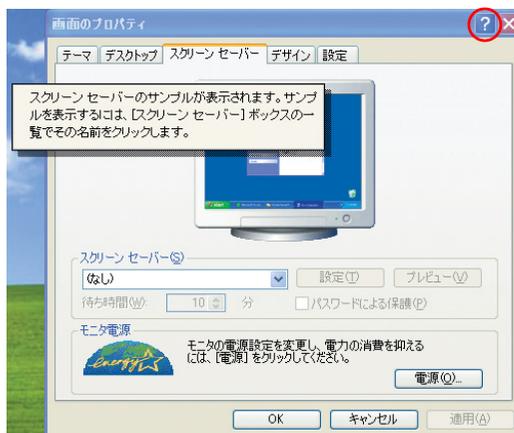
参照

・ ［画面のプロパティ］の表示方法→ 10 章の「ディスプレイの表示を変える」(P.130)

1 **画面右上の [?] をクリックする。**

マウスポインタの形が に変わる。

2 **調べたい項目をクリックする。**

説明のポップアップが表示される。

作業の流れをつかんでおこう

はじめてパソコンを使うときは

購入後、箱を開けてからはじめてパソコンの電源を入れるまでには、いくつかのステップがあります。

同梱品を確認する

付属の同梱品一覧

箱の中に入っている同梱品がすべてそろっていることを確認します。

接続して電源を入れる

「3章 パソコンを接続しよう」

パソコンを正しく使うために、パソコンを使うときに適した場所や姿勢を知っておきましょう。そのあとパソコンを動作させるために接続して電源を入れます。

使用許諾契約に同意する

4章の「はじめて電源を入れるときは」

電源を入れて、Windowsを使えるようにします。

電源を入れ直す

4章の「電源を入れ直す」

電源を入れ直して、デスクトップ画面が表示されるか確認します。Windowsの操作はデスクトップ画面から始めます。

これだけは覚えておこう

「1章 マニュアルやヘルプを使おう」
電子マニュアルの使い方やWindowsのヘルプの使い方を読んでおきましょう。

「2章 各部の名前と働きを知ろう」

パソコン各部の名前と、ディスクドライブの使い方を読んでおきましょう。

トラブルが発生したときは

次の順で対処してください。

● 「13 章 トラブルを解決するには」
電源が入らない、ディスプレイに表示されない、マウスが動かないなどの対処方法を説明しています。

● 「5 章 ご購入時の状態に戻すには」
パソコンを購入時の状態に戻す方法を説明しています。

パソコンに何かを取り付けるときは

● 「6 章 パソコンに機器を接続する」
パソコンの外部に周辺機器を取り付ける方法を説明しています。

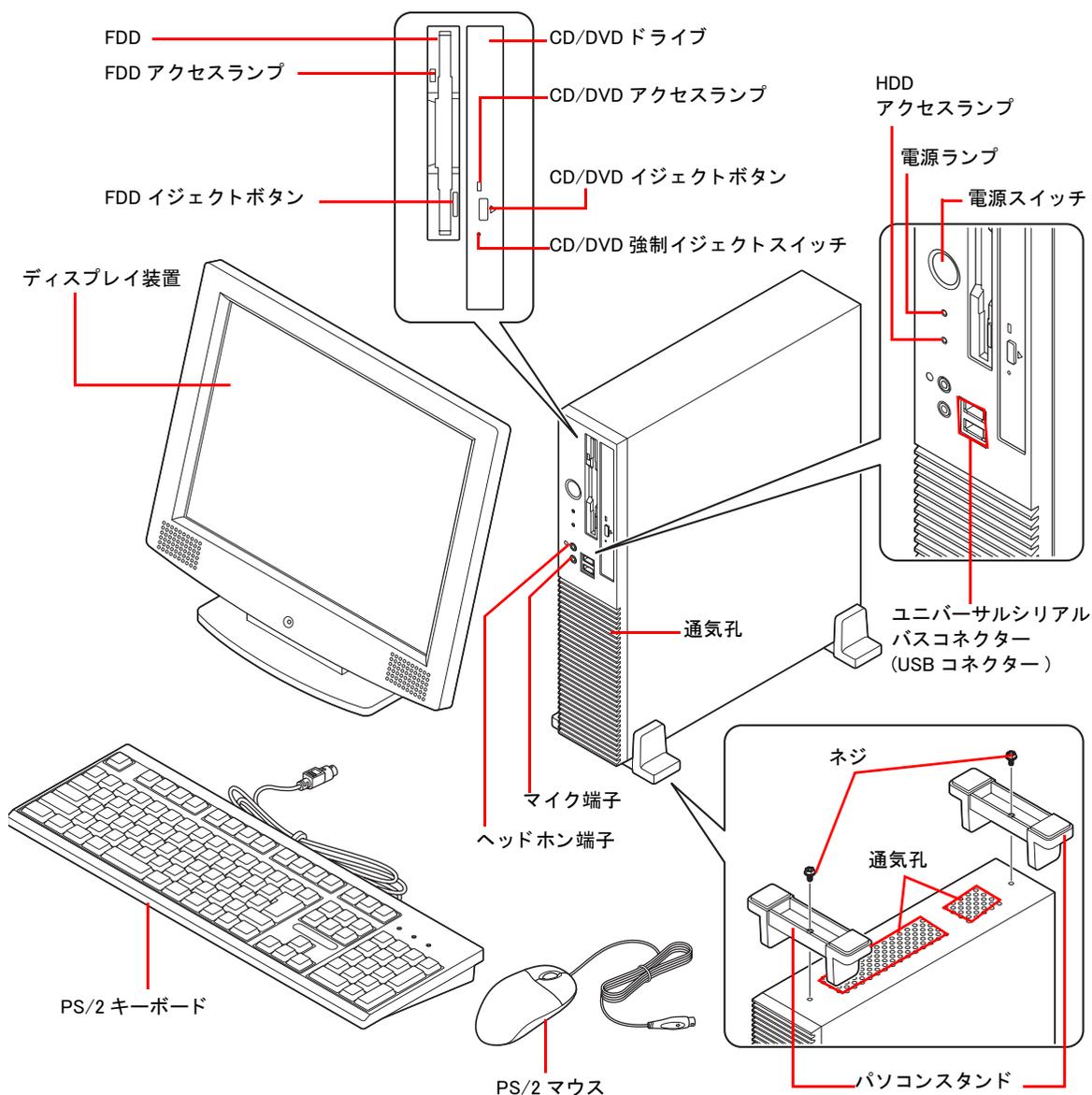
● 「7 章 パソコンを拡張するときは」
パソコンの内部にメモリーボードなどを取り付ける方法を説明しています。

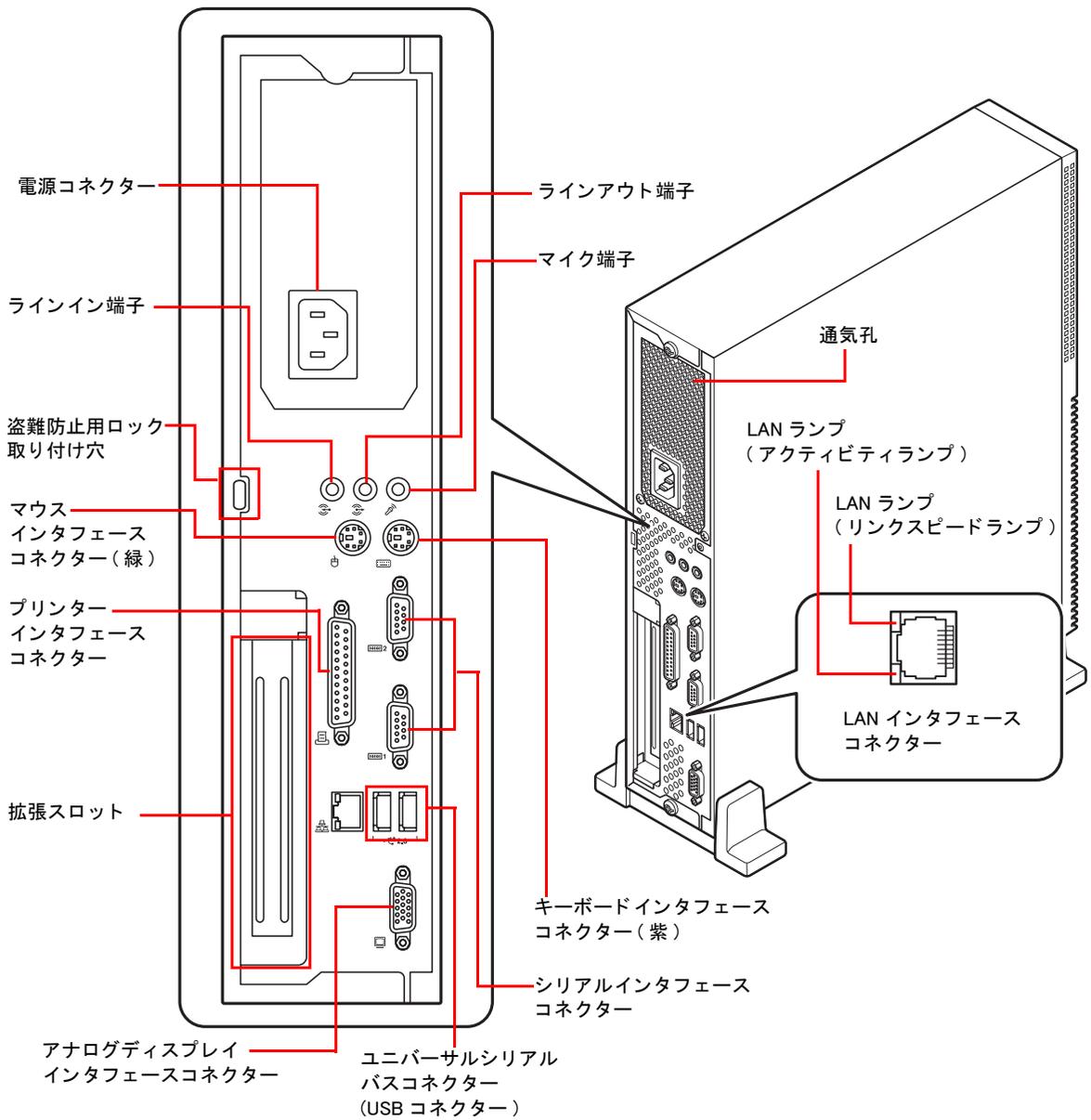
2 章　各部の名前と働きを知ろう

この章では、パソコン各部の名前について説明します。

パソコンと付属品の名前を知ろう

パソコンの各部の名称を覚えてください。ドライブの種類や組み合わせは、パソコン購入時の選択により異なります。

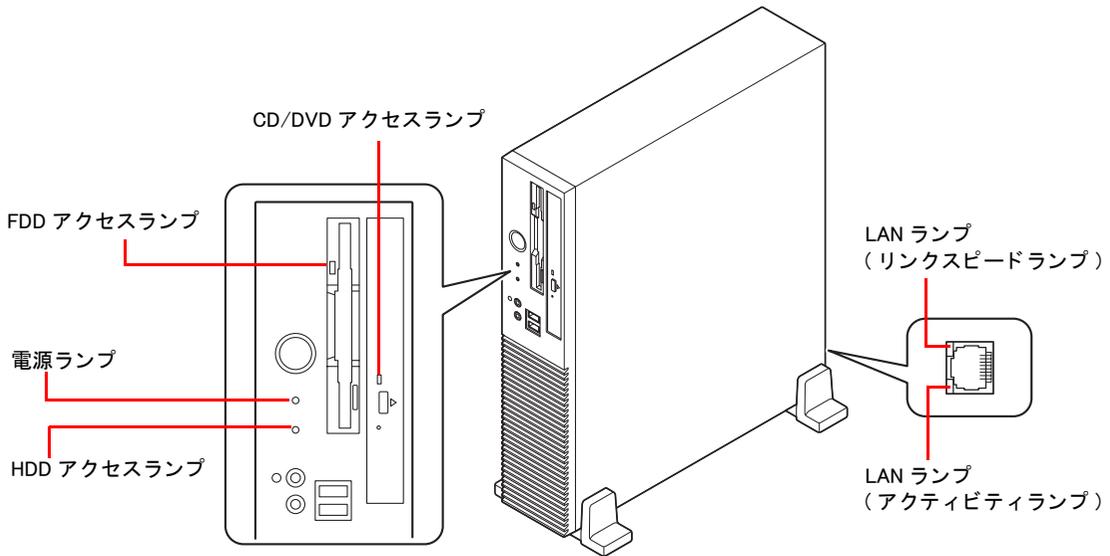
パソコン正面

パソコン背面

ヒント

- USB コネクターは USB2.0 対応です。
- 上記のパソコン背面図は一例です。購入時の選択により異なります。

キーボード

109 キーボード（PS/2 キーボード／ USB キーボード ）

インジケーターランプの見方

それぞれのランプの表示によって、パソコンの状態がわかります。

電源ランプ

電源ランプの状態で、パソコンの状態がわかります。

電源ランプ	パソコンの状態
緑色に点灯	電源が入っている
オレンジ色に点滅	節電状態 (システムスタンバイ)
オレンジ色に点灯	電源を切っている／休止状態
消灯	コンセントに接続していない

HDD アクセスランプ

HDD アクセスランプ (以下、HDD ランプ) は、HDD がデータの読み書きをしているときに点灯します。

重要

・ HDD ランプが点灯中は電源を切らないでください。HDD が壊れることがあります。
・ FDD 以外のドライブにアクセスしているとき、HDD ランプが点滅することがあります。

FDD アクセスランプ

FDD アクセスランプ (以下、FDD ランプ) は、FDD がデータの読み書きをしているときに点灯します。

重要

・ FDD ランプ点灯中は、電源を切ったり、FD を出し入れしないでください。
FDD または FD が壊れることがあります。

CD/DVD アクセスランプ

CD/DVD アクセスランプ (以下、CD/DVD ランプ) は、CD/DVD ドライブがデータの読み書きをしているときに点灯します。

重要

・ CD/DVD ランプ点灯中は、電源を切ったり、ディスクを出し入れしないでください。
CD/DVD ドライブまたはディスクが壊れることがあります。

LAN ランプ

●アクティビティランプ

ランプの状態	内容
点滅	データの送受信を行っている

●リンクスピードランプ (オレンジ色、緑色)

ランプの状態	内容
オレンジ色に点灯	1000Mbps で接続している
緑色に点灯	100Mbps で接続している
消灯	10Mbps で接続している／ LAN に接続されていない

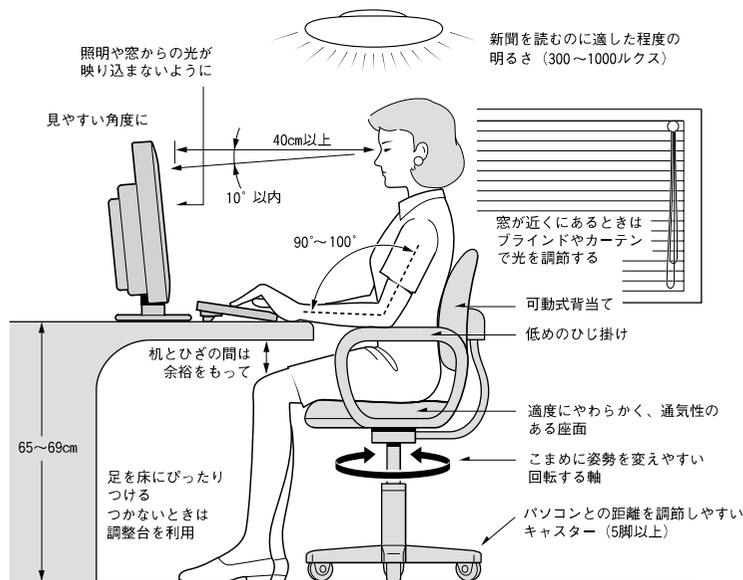
3 章　パソコンを接続しよう

この章では、パソコンの設置、接続方法、電源の入れ方について説明します。

接続しよう

まず『同梱品チェックリスト』で、すべての付属品がそろっていることを確認します。次に、パソコンの置き場所を決めて、接続しましょう。

置き場所や姿勢について

パソコンを使う場所によっては、パソコンに思わぬトラブルを起こす可能性があります。パソコンを正しく使うために、パソコンを使うときに適した場所と姿勢について知っておきましょう。

参照：日本人間工学会 ノートパソコン利用の人間工学ガイドライン（1998 年 労働科学研究所発行）

・パソコンのディスプレイは、体の正面に設置し、見やすい角度に調節する。
・ディスプレイの照度、明るさと周囲の照明を適度に調節し、ディスプレイの反射を抑える。
・明るさやコントラストなど見やすいように調節する。
・キーボードやマウスを使うときは、手首とひじは水平になるような位置を保つ。
・パソコンの作業時間は 1 日に最大 6 時間を目安とし、1 時間ごとに 10 ～ 15 分の休息をとる。
・キーボードは裏側の足で使いやすい角度に調節する。
・周辺機器を接続しても余裕のある、十分な作業空間を確保する。
・不自然な姿勢を避け、ときどき姿勢を変える。

⚠警告

・　浴槽、洗面台、台所の流し台、洗濯機など、水を使用する場所の近傍、湿気の多い地下室、水泳プールの近傍やほこりおよび油煙の多い場所では使用しないでください。電気絶縁の低下によって火災や感電の原因になります。
・　ほこりの多い場所では使用しないでください。本体内部にほこりが溜まることによって、内部の精密部品の冷却を妨げ、故障ややけどの原因になります。
・　パソコンの周囲は、ほこりを吸わないようにこまめに清掃してください。パソコンの冷却用ファンユニットが目詰まりをおこし、過熱、発煙や故障の原因になります。

⚠注意

・　傾いたところや狭い場所など不安定な場所には置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがをするおそれがあります。

パソコンの置き方を決めよう

パソコンは、縦置きにしたり横置きにして使うことができます。
パソコンを置く場所に合わせて置き方を決めましょう。

縦置き

パソコンを縦置きにするときは、次のようにパソコンスタンドを取り付けてください。

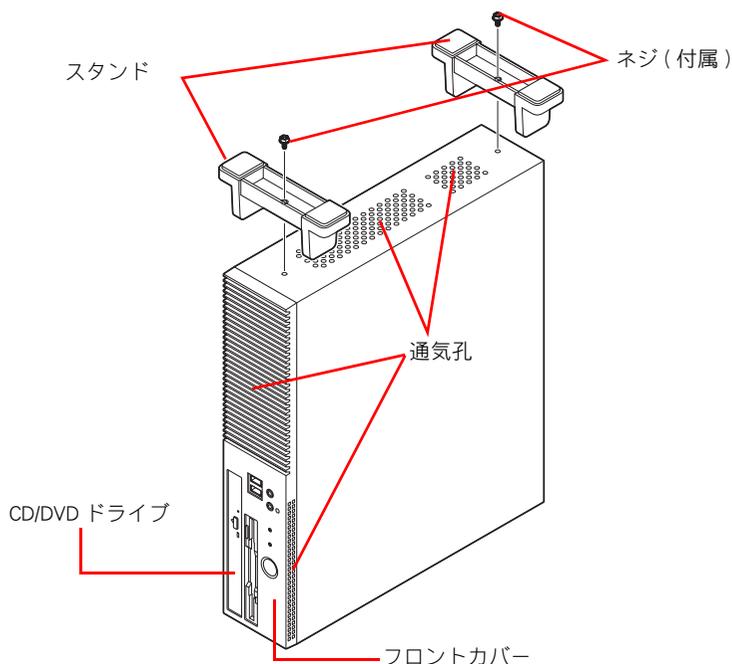
警告

・ 通気孔は内部の温度上昇を防ぐためのものです。物を置いたり立てかけたりして通気孔をふさがないでください。内部の温度が上昇し、発煙、発火や故障の原因になります。

注意

・ 縦置きで使用する場合は、必ず添付のパソコンスタンドを正しい位置に取り付けてください。取り付けないと転倒し、けがや故障の原因になります。スタンドを取り付ける時は、取り付けネジを根元までしっかりと固定してください。不安定な状態で使用すると、パソコンが転倒して、けがや故障の原因になります。
・ パソコンを移動させるときは、パソコン本体を持って移動してください。ゴム足やパソコンスタンド、フロントカバーを持って移動させると、パソコン本体からゴム足やパソコンスタンド、フロントカバーが外れ、けがや故障の原因になります。

1　**CD/DVD ドライブが下側になるように、パソコンを置く。**

2　**スタンドを溝にあわせて取り付け、付属のネジ 2 本で固定する。**

重要

・ スタンドを取り付けた状態で、パソコンを傾けないでください。スタンドが壊れることがあります。
・ スタンドを取り付ける時は、安定した水平な机の上で作業を行ってください。不安定な場所で作業すると、パソコンが転倒してけがや故障の原因になります。
・ 内蔵周辺機器の増設作業などで、スタンドを取り外し再度取り付けるときは、必ず取り外したネジを使用してください。別のネジを使用すると、故障の原因になります。

3　**スタンドを下にして、パソコンを縦に置く。**

横置き

パソコンを横置きにするときは、次のように横置き用ゴム足を取り付けてください。

⚠警告

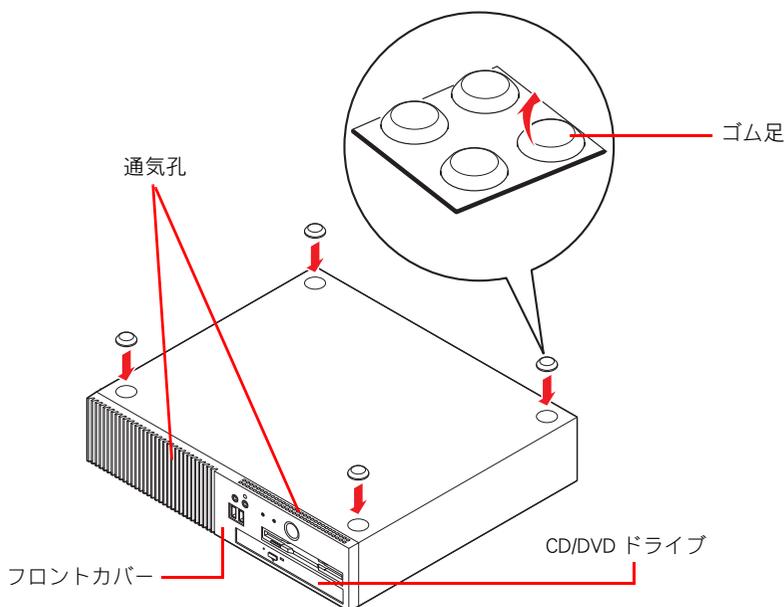
- 通気孔は内部の温度上昇を防ぐためのものです。物を置いたり立てかけたりして通気孔をふさがないでください。内部の温度が上昇し、発煙、発火や故障の原因になります。
- 横置きで使用する場合は、必ず添付のゴム足を正しい位置に取り付けてください。正しい位置に取り付けないとフロントカバー側面の通気孔がふさがれ、発煙、発火や故障の原因になります。

⚠注意

- 横置きで使用する場合は、必ず添付のゴム足を正しい位置に取り付けてください。正しい位置に取り付けないと傾いたりすべったりして、けがや故障の原因になります。
- パソコンを移動させるときは、パソコン本体を持って移動してください。ゴム足やパソコンスタンド、フロントカバーを持って移動させると、パソコン本体からゴム足やパソコンスタンド、フロントカバーが外れ、けがや故障の原因になります。

重 要

- パソコンを横置きで使用する場合、15 型 CRT ディスプレイ (15kg) 以上の重量物は載せないでください。
- ゴム足をはり付ける時は、はり付ける面が汚れていないことを確認してください。
  ゴミやほこり、油などが付着して汚れている場合は、乾いた布などでふき取ってください。
  汚れた状態でゴム足をはり付けると、ゴム足がはがれる原因になります。

1 CD/DVD ドライブが下になるようにしてパソコンを置き、ゴム足を台紙から取り、次のイラストを参考に、パソコンの四隅にゴム足をはり付ける。

ヒント

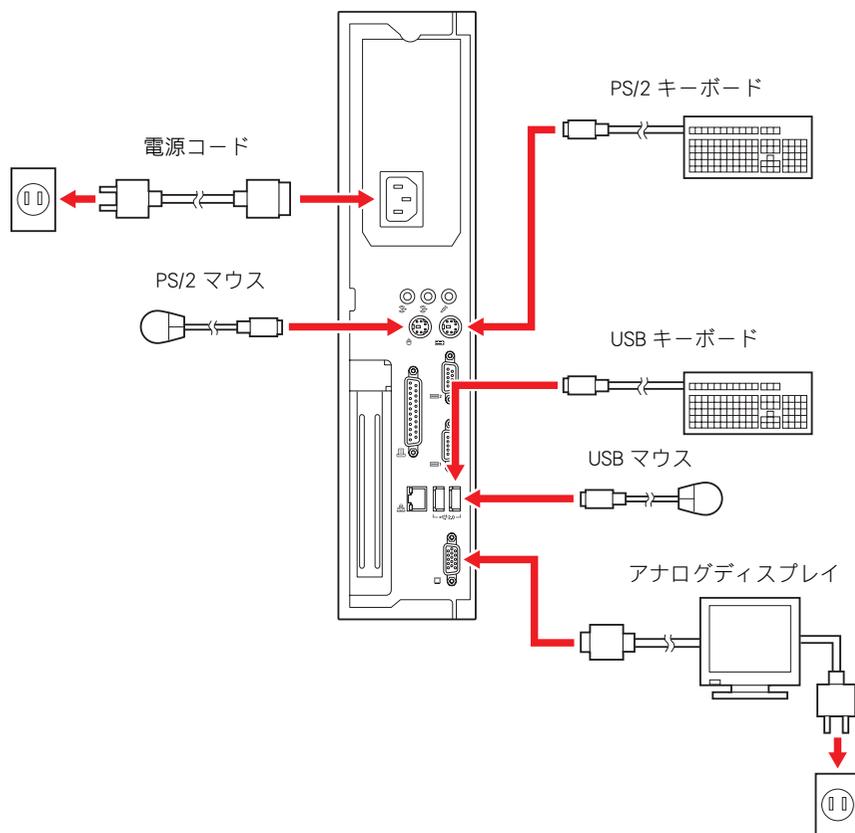
- 縦置きにしたパソコンの向かって左側面の四隅に、ゴム足をはり付けます。
  このとき、前面側ゴム足の先端が、通気孔より後ろにくるようにはり付けてください。

2 ゴム足を下にして、パソコンを横置きにする。

パソコンを接続しよう

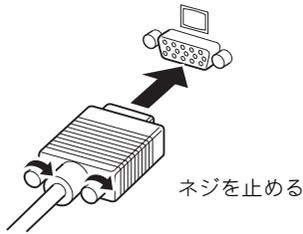
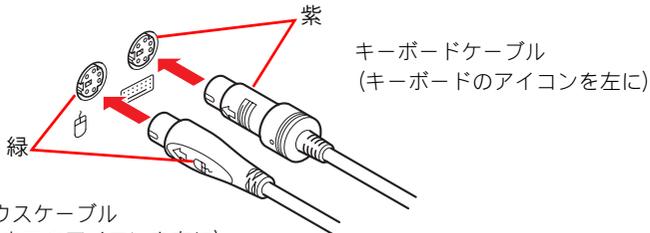
さっそく接続してみましょう。ここでは、縦置きを例に説明します。

1　パソコンに、ディスプレイ、キーボード、マウス、電源コードを接続する。電源コードのプラグは、ほかのすべての接続が終わったあと、最後にコンセントに差し込む。

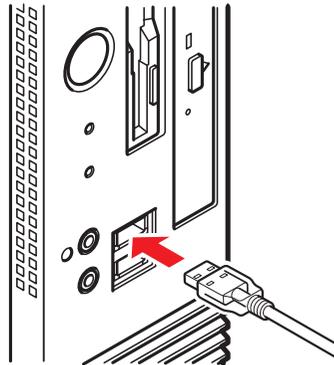
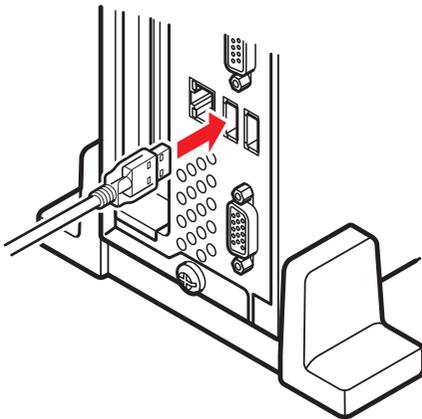
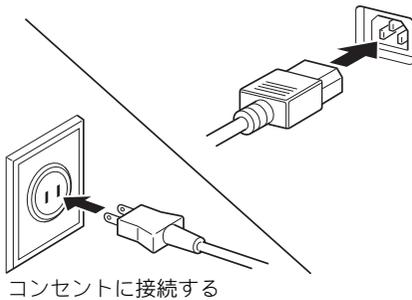
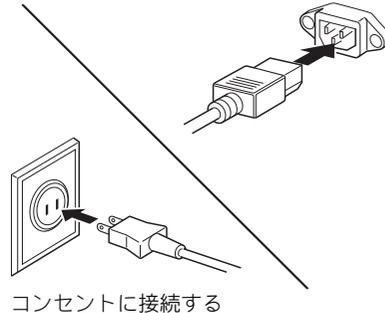
重要

・ 各コネクターは、向きが決まっています。パソコン側のコネクターの形と、ケーブル側のコネクターの形を正しく合わせて確実に差し込んでください。
・ ピンのあるものは、ピンを曲げたり折らないようにしてください。
・ USB マウス、USB キーボードは、パソコン前面・背面の USB コネクターのいずれにも接続できます。
・ 接続するディスプレイによっては、「HITACHI」ロゴおよび、BIOS メニュー、Windows の起動ロゴなどが画面全体ではなく、画面中央の一部に表示される場合があります。

⚠警告

・ 同じコンセントに多数の機器を接続しないでください。コードやコンセントが過熱し、火災の原因になります。また、電力の使用量がオーバーとなり、ブレーカーが落ちてほかの機器にも影響を及ぼします。

1. アナログディスプレイ

2. キーボードケーブル / マウスケーブル
(PS/2 キーボード / マウスの場合)

(USB キーボード / マウスの場合)

USB キーボード /USB マウスのコネクター
(パソコン背面への接続)

USB キーボード /USB マウスのコネクター
(パソコン前面への接続)

3. ディスプレイ用電源コード

4. パソコン用電源コード

ほかの周辺機器を使うときは

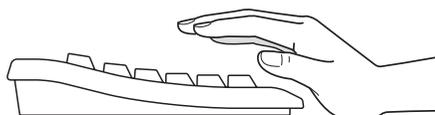
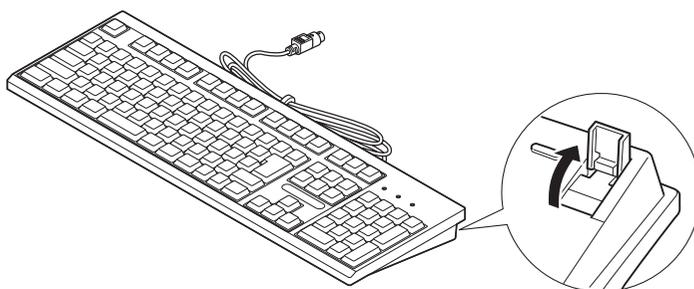
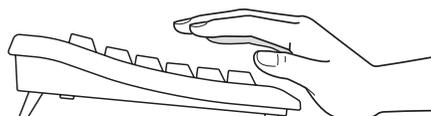
ほかの周辺機器を使うときは、「6 章 パソコンに機器を接続する」を参照して接続してください。設定などの詳しい説明は、周辺機器のマニュアルをご参照ください。

●スピーカー、マイクの接続について
　→ 6 章の「スピーカー、マイクを接続する」

● USB に対応した機器の接続について
　→ 6 章の「USB 機器を接続する」

●上記以外の周辺機器の接続について
　→ 6 章の「その他の周辺機器を接続する」

キーボードの角度を変えよう

キーボードの裏側には、キーボードの角度を変えるための足が付いています。この足を引き出すと、キーボードを置いたときの傾きを大きくすることができます。

足を出さない場合

足を出した場合

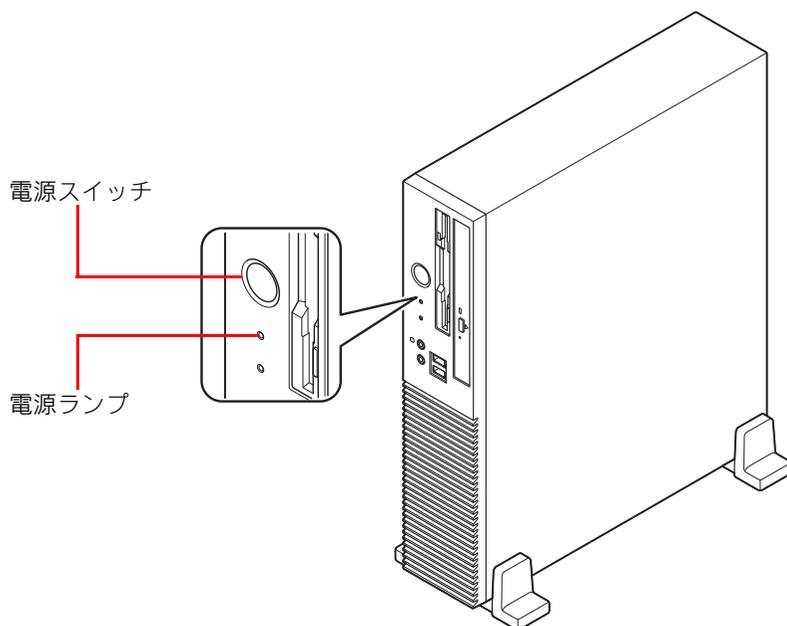
電源を入れよう

ここまででパソコンの電源を入れる準備ができました。
次に、電源を入れて Windows を使えるようにします。

ヒント

- 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてからパソコンの電源を入れてください。また、電源を切るときには、パソコンの電源を切ってから周辺機器の電源を切ってください。
- 電源ランプがオレンジ色に点灯している状態では、電源の一部の回路に通電されています。そのためパソコンから電源の動作音が聞こえる場合があります。
- 電源スイッチを一度 OFF にしたら、再度 ON にするのは必ず 20 秒以上経過してからにしてください。パソコンが立ち上がらないことがあります。

1 **ディスプレイなど周辺機器の電源を入れる。**

2 **電源ランプがオレンジ色に点灯していることを確認し、電源スイッチを押す。**
電源ランプが緑色に変わり、ディスプレイに画面が表示される。

はじめて電源を入れたときは、Windows の設定が必要です。引き続き、「4 章 Windows を立ち上げよう」をお読みください。

参照

- 電源の切り方→ 4 章の「電源を切る」(P.49)

4 章　Windows を立ち上げよう

はじめてパソコンの電源を入れるときの操作について説明します。

はじめて電源を入れるときは

はじめてパソコンの電源を入れるときは、Windows の使用許諾契約に同意して、Windows を使えるようにする必要があります。

電源を入れる

パソコンの電源スイッチを押すと、ディスプレイに［Windows XP Professional セットアップ］画面が表示されます。

重 要

・ はじめて電源を入れるときは、セットアップが完了するまで、パソコンを長時間放置しないでください。

参照

・ 電源の入れ方について→ 3 章の「電源を入れよう」(P.44)

使用許諾契約に同意しよう

1 [Windows XP Professional セットアップ] 画面で、マウスポインターを [次へ] ボタンに重ね、クリックする。

[使用許諾契約] 画面が表示される。

ヒント

・ ディスプレイによって、表示される画面が右寄りになっていることがあります。ディスプレイに付属のマニュアルを参照し、画面表示を調整してください。
・ Windows 立ち上げ時は、ディスプレイの周波数を変更しているため、画面が乱れることがあります。
・ 画面に表示されている を、「マウスポインター」と呼びます。
・ マウス左側のボタンを 1 回押すことを、「クリック」といいます。

2 [同意します] ボタンをクリックして、[次へ] ボタンをクリックする。

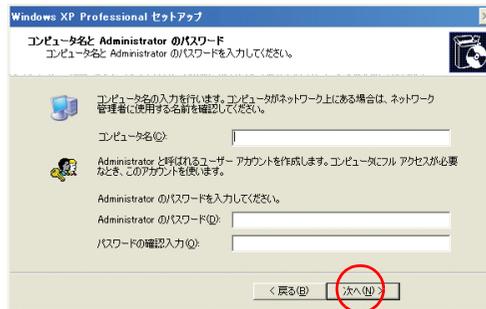
[ソフトウェアの個人用設定] の入力画面が表示される。

3 名前を入力する。必要に応じて [Tab] キーで [組織名] へカーソルを移動し、組織名を入力する。組織名は省略してもよい。
[次へ] ボタンをクリックする。

[コンピュータ名と Administrator のパスワード] の入力画面が表示される。

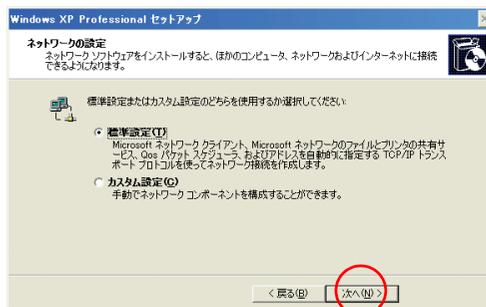
ヒント

・ 日本語を入力するには
　1. [半角 / 全角] キーを押し、日本語入力にする
　2. ローマ字で読みがなを入力する
　3. 目的の漢字になるまでスペースキーを押す
　4. [Enter] キーで確定する

4 **コンピュータ名を入力する。コンピュータ名はネットワークのほかのコンピュータ名、ドメイン名、ワークグループ名と異なる名称にする。
必要に応じてパスワードを入力し、[次へ] ボタンをクリックする。**

[ネットワークの設定] 画面が表示される。

ヒント

・ コンピュータ名は初期設定後でも変更できます。

5 **標準のネットワークコンポーネントをインストールする場合は [標準設定] を選択したあと、[次へ] ボタンをクリックする。標準ネットワークコンポーネントの設定を変更する場合やネットワークコンポーネントの追加／削除を行う場合は [カスタム設定] を選択したあと、[次へ] ボタンをクリックする。**

ヒント

・ [標準設定] を選択した場合、ネットワークの設定は自動で行われます。
・ 標準で次のネットワークコンポーネントをインストールします。
　＊ Microsoft ネットワーク用クライアント
　＊ Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有
　＊インターネット プロトコル (TCP/IP)

6　[カスタム設定] を選択した場合、ネットワークの設定を手動で行う。

[ネットワークの設定] 画面の設定終了後、[ワークグループまたはドメイン名] 画面が表示される。

ヒント

・　ネットワークコンポーネントのカスタム設定は画面の指示に従って行ってください。

7　ドメインまたはワークグループへの参加の選択を行い、参加する先のドメイン名またはワークグループ名をテキストボックスに入力する。

[Windows XP セットアップウィザードの完了] 画面が表示される。

8　[完了] ボタンをクリックする。

パソコンが立ち上げ直され、ネットワーク識別ウィザードの画面が表示される。

9　[次へ] ボタンをクリックする。

10　Windows のログオン時に常にユーザー名およびパスワードの入力を行うのかどうかを選択する。

11　[次へ] ボタンをクリックする。

12　[完了] ボタンをクリックする。

13　自動または手動で Windows にログオンする。

電源を入れ直す

Windows の使用許諾契約などが終わったら、電源を切ります。そのあと、もう一度電源を入れて、デスクトップ画面が表示されることを確認します。

重要

・ 電源スイッチを 4 秒以上押さないでください。Windows が強制終了されます。その場合、異常終了と判断され、次回立ち上げ時にチェックプログラムが動くことがあります。異常がない場合は、そのあと正常に Windows が立ち上がります。

ヒント

・ 電源スイッチを 4 秒未満押しても、手順 1 ～ 3 の操作と同じように電源は正しく切れます。
・ 工場出荷時の設定では、15 分以上電源を入れた状態で放置すると節電状態になり、画面の表示が消えます。20 分以上たつと、キーボードやマウスを操作しても復帰しなくなります。このときは、電源スイッチを押すと復帰します。

電源を切る

電源を切る操作はとても大切です。電源は、この操作で切ってください。

1 **[スタート] ボタンをクリックする。**

2 **[終了オプション] をクリックする。**
[コンピュータの電源を切る] 画面が表示される。

3 **[電源を切る] ボタンをクリックする。**
しばらくするとパソコンの電源が切れ、電源ランプがオレンジ色になる。

電源を入れ直す

重要

・ パソコンの立ち上げ時にキーボードを連打したり、押し続けないでください。エラーメッセージが表示される場合があります。

ヒント

・ Windows のスタート画面が消えたあと、カーソルが表示された黒い画面の状態が続きます。デスクトップ画面が表示されるまで、しばらくお待ちください。ディスプレイの種類によって、時間がかかる場合もあります。
・ ディスプレイによって、画面が中央に表示されないことがあります。このようなときは、ディスプレイに付属のマニュアルを参照し、画面表示を調整してください。
・ Windows 立ち上げ直後には、ディスプレイの周波数を変更しているため、画面が乱れることがあります。

1 **パソコンの電源スイッチを押す。**
[ようこそ] 画面が表示される。

2 **ログオンするユーザーのアイコンをクリックする。**
パスワードが必要な場合は、パスワードを入力して [→] ボタンをクリックする。
Windows が立ち上がり、デスクトップ画面が表示される。

追加セットアップ

次の機能を使う場合は、追加セットアップを行います。
ご購入時の選択をご確認の上、必要なソフトウェアを追加セットアップしてください。

■ 3 モード FD
・3 モード FD ドライバー

■ CD-R/RW 書き込み
(DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ、DVD スーパーマルチドライブ内蔵パソコンの場合)
・B's Recorder GOLD8 BASIC for HITACHI

■ DVD ± R/RW 書き込み
(DVD スーパーマルチドライブ内蔵パソコンの場合)
・B's Recorder GOLD8 BASIC for HITACHI

■ DVD Video 再生
(DVD-ROM ドライブ、または DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ、DVD スーパーマルチドライブ内蔵パソコンの場合)
・PowerDVD 6

■ DVD-RAM 書き込み
(DVD スーパーマルチドライブ内蔵パソコンの場合)
・DVD-RAM ドライバー / フォーマットユーティリティー

■ Security Chip
・Security Chip ユーティリティー

参照

・ ソフトウェアの使い方、追加セットアップについて→「12 章　付属ソフトウェアについて」(P.165)
・ Security Chip の使い方→ 10 章の「Security Chip を使う」(P.152)

5 章　ご購入時の状態に戻すには

パソコンをご購入時の状態に戻したいときは、パソコンをセットアップし直します。
パソコンの使用中にエラーが何回も発生したり、パソコンが立ち上がらないときも、
セットアップし直してください。

準備する

次の準備を行ってください。

必要なファイルをバックアップする

ご購入時の状態に戻すと、ご購入後に作成したファイルや追加したアプリケーションなどが削除されます。記録可能なメディアに必要なファイルをコピーしてバックアップを行ってください。バックアップしたファイルを戻せるように元のフォルダーなど保存先も控えてください。

ネットワークなどの設定を控える

ご購入時の状態に戻したあと、同じ環境で使う場合は、BIOS やネットワークの設定情報をメモしてください。

拡張機器を取り外す

拡張ボードなどの拡張機器を取り付けて使用している場合は、取り外してください。

このあとの作業の流れ

1 BIOS や Security Chip の設定をご購入時の状態に戻す。

BIOS や Security Chip をご購入時の状態に戻してください。

参照

・ 詳細について→「BIOS や Security Chip をご購入時の状態に戻す」(P.53)

2 一括セットアップする。

パソコンの HDD がご購入時の状態に戻ります。さらに、ドライブ C のサイズを変更したり、ドライブ C をご購入時の状態に戻すこともできます。

参照

・ 詳細について→「一括セットアップする」(P.55)

3 アプリケーションをインストールする。

ご購入時の選択により、アプリケーションが添付されている場合はインストールします。

参照

・ 詳細について→ 12 章の「アプリケーションについて」(P.178)

BIOS や Security Chip をご購入時の状態に戻す

一括セットアップを行う前に、次の操作を行ってください。

BIOS の設定をご購入時の状態に戻す (初期化する) ことで解決できる問題もあります。ご購入時の状態から設定を変更している場合は、設定内容をあらかじめ控えておき、BIOS を初期化したあとに設定し直してください。

重要

・ BIOS の設定を初期化しても内蔵タイマーの日付と時刻、パスワードは変更されません。

ヒント

・ 拡張ボードを増設しているときは、増設した拡張ボードをパソコンからすべて取り外してください。外さないと正しく動作しない場合があります。

参照

・ 拡張ボードの取り外しについて→ 7 章の「拡張ボードを取り付ける」(P.95)

1 **通信ポート (COM ポート) または、プリンターポート (LPT ポート) を増設している場合は、Windows のシステムのプロパティーの [デバイス マネージャ] − [ポート (COM と LPT)] を選び、増設したポートを削除する。**
増設したポートがどれか不明な場合は、ポートをすべて削除する。

2 **パソコンの電源を入れ、パソコンの立ち上げ中、画面中央に「HITACHI」または、画面下部にメッセージが表示されたら、[Delete] キーを押す。**
BIOS メニューが表示される。

3 **[F5] キーを押す。**
設定内容を初期化する確認のメッセージが表示される。

ヒント

・ [F5] キーを押しても確認メッセージが表示されない場合は、次の手順を行ってください。
1 [←]、[→] キーで [Exit] を選ぶ。
2 [↑]、[↓] キーで [Load Setup Defaults] を選び、[Enter] キーを押す。

4 **[Ok] を選び、[Enter] キーを押す。**
BIOS メニューに戻る。

5 **[F10] キーを押す。**
設定内容を保存する確認のメッセージが表示される。

ヒント

・ [F10] キーを押しても確認メッセージが表示されない場合は、次の手順を行ってください。
1 [←]、[→] キーで [Exit] を選ぶ。
2 [↑]、[↓] キーで [Exit & Save Changes] を選び、[Enter] キーを押す。

6 **[Ok] を選び、[Enter] キーを押す。**
設定した内容が保存され、セットアップメニューが終了し、パソコンが立ち上げ直される。

7 **Security Chip をご使用の場合、手順 8 に進む。**
Security Chip をご使用でない場合、手順 18 に進む。

8 **パソコンの立ち上げ中、画面中央に「HITACHI」または、画面下部にメッセージが表示されたら、[Delete] キーを押す。**

BIOS メニューが表示される。

9 **[←]、[→] キーで [Boot] を選ぶ。**

10 **[↑]、[↓] キーで [Security] を選び、[Enter] キーを押す。**

[Security] 画面が表示される。

11 **[↑]、[↓] キーで画面下部に隠れている [TPM Security] を表示させる。**

12 **[Security Platform] の設定値が [Enabled] の場合、手順 15 に進む。**
[Security Platform] の設定値が [Disabled] の場合、[Enter] キーを押したあと、[Enabled] を選択し、[Enter] キーを押す。

重 要

- Security Chip の状態によっては、[Security Platform] の設定値が [Enabled] に設定されていても、[Clear Security Chip] が選択できない場合があります。その場合、[F10] キーを押したあと [Ok] を選び、[Enter] キーを押してパソコンを立ち上げ直してください。そのあと、再度、手順 8 ～ 11 の操作を行ってください。

13 **[F10] キーを押したあと [Ok] を選び、[Enter] キーを押す。**

設定された内容が保存され、パソコンが立ち上げ直される。

ヒント

- [F10] キーを押しても確認メッセージが表示されない場合は、次の手順を行ってください。
  1 [←]、[→] キーで [Exit] を選ぶ。
  2 [↑]、[↓] キーで [Exit & Save Changes] を選び、[Enter] キーを押す。

14 **もう一度、手順 8 ～ 11 の操作を行う。**

15 **[↑]、[↓] キーで [Clear Security Chip] を選び、[Enter] キーを押す。**

16 **[↑]、[↓] キーで [Clear] を選び、[Enter] キーを押す。**

17 **[F10] キーを押したあと [Ok] を選び、[Enter] キーを押す。**

Security Chip がクリアされ、パソコンが立ち上げ直される。

ヒント

- [F10] キーを押しても確認メッセージが表示されない場合は、次の手順を行ってください。
  1 [←]、[→] キーで [Exit] を選ぶ。
  2 [↑]、[↓] キーで [Exit & Save Changes] を選び、[Enter] キーを押す。

18 **ご購入モデルに合わせて、一括セットアップを行う。**

参照

- 詳細について→「一括セットアップする」(P.55)

一括セットアップする

この作業を行うと、一部のアプリケーションを除いてドライブ C をご購入時の状態に戻します。さらに、ドライブ C のサイズを変更することもできます。

ご購入モデルと一括セットアップ方法について

ご購入されたモデルにより、一括セットアップ方法が異なります。ご購入モデルにあった一括セットアップを行ってください。

モデル名	添付 CD	一括セットアップ方法
HDD リカバリーモデル	なし	HDD を使った一括セットアップ
		HDD 内のリカバリーイメージから『BackUP CD-ROM』を作成し、『BackUP CD-ROM』からの一括セットアップ
CD-ROM リカバリーモデル	『Product Recovery CD-ROM』	添付の CD-ROM を使った一括セットアップ

HDD リカバリーモデルの場合

次の二つの方法があります。

・HDD を使った一括セットアップ

参照

・　HDD を使った一括セットアップについて→「HDD を使った一括セットアップ」(P.56)

・HDD 内のリカバリーイメージから『BuckUP CD-ROM』を作成し、CD-ROM を使った一括セットアップ

参照

・　CD-ROM を使った一括セットアップについて→「CD-ROM を使った一括セットアップ」(P.56)

CD-ROM リカバリーモデルの場合

一括セットアップ方法は「CD-ROM を使った一括セットアップ」のみになります。HDD を使った一括セットアップはできません。

・CD-ROM を使った一括セットアップ

参照

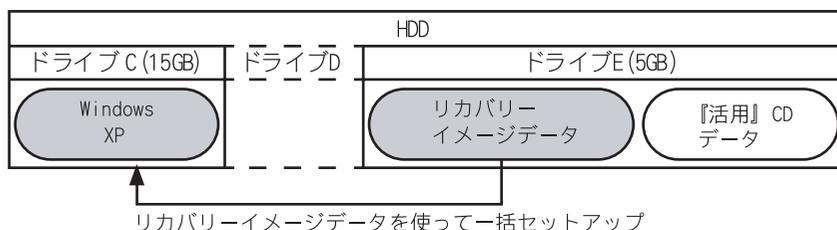
・　CD-ROM を使った一括セットアップについて→「CD-ROM を使った一括セットアップ」(P.56)

一括セットアップの方法

一括セットアップするには、次の方法があります。

HDD を使った一括セットアップ

この方法では、HDD 内の「リカバリーイメージデータ」を使って、一括セットアップを行います。次の特徴があります。

・「CD-ROM を使った一括セットアップ」に比べて作業時間がかからない
・作業時に、CD-ROM などのメディアを必要としない
・作業後もドライブ E の内容は削除されない
・ドライブ E(5GB) 以外は好みの容量でドライブを作成したり、領域の分け方を変更できる

重要

・ CD-ROM リカバリーモデルでは、HDD を使った一括セットアップはできません。同梱の『Product Recovery CD-ROM』から行ってください。
・ 保証期間内でも、HDD の故障などにより HDD を交換した場合には、OS、リカバリーイメージデータ、『活用』CD データを復旧することはできません。
・ HDD リカバリーモデルを複数台ご購入の場合は、最低一台は『BackUP CD-ROM』、『活用』CD を作成してください。作成した CD は大切に保管してください。ただし『BackUP CD-ROM』を作成したパソコンは、HDD を使った一括セットアップはできなくなります。
・ ドライブ E を削除したり、ドライブ E 内のファイルの削除・変更を行わないでください。HDD を使った一括セットアップができなくなります。
・ ドライブ E を含む HDD はダイナミックディスクに変換することはできません。

ヒント

・ ドライブ E のボリュームラベルは "HTCRECOVERY" です。

CD-ROM を使った一括セットアップ

この方法では、CD-ROM にあるデータを使って、一括セットアップを行います。
次の特徴があります。

・「HDD を使った一括セットアップ」に比べて作業時間がかかる
・作業時に CD-ROM が必要
・ドライブ E(5GB) を含め、HDD の領域をすべてを利用できる (HDD リカバリーモデルのみ)
　例：HDD の領域をすべてドライブ C(1 パーティション) として使用する
　　　HDD の領域をすべて自由に作成して使用する (ドライブ数を増やす)

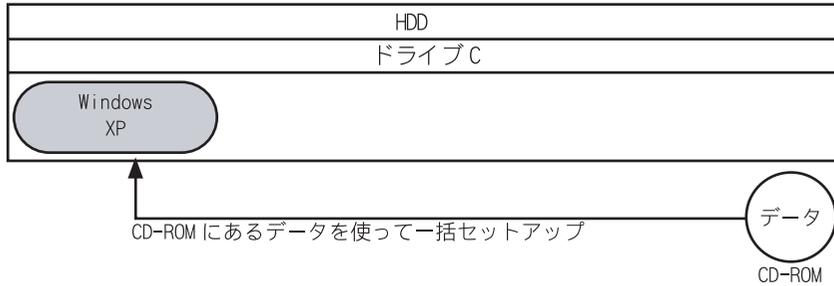
参照

・ パーティションの設定について→ Windows のヘルプ

Windows XP のセットアップは、添付の『Product Recovery CD-ROM』や、ご自分で作成された『BackUP CD-ROM』から一括セットアップします。『BackUP CD-ROM』の作成方法については、「『BackUP CD-ROM』を作成する」をご参照ください。

重要

・『Product Recovery CD-ROM』、『BackUP CD-ROM』より、OS の復旧はできますが、リカバリーイメージデータ、『活用』CD データの復旧はできません。

■『Product Recovery CD-ROM』、『BackUP CD-ROM』の場合

HDD の領域をすべて利用したい場合にのみ、この方法を行ってください。

『BackUP CD-ROM』を作成する

ご購入時の選択により、HDD リカバリーモデルをご購入の場合、ドライブ E から『BackUP CD-ROM』を作成することができます。
『BackUP CD-ROM』を使用することで、『Product Recovery CD-ROM』と同様に CD-ROM から一括セットアップを行うことができます。

重要

- 『BackUP CD-ROM』は現在の環境をバックアップするものではありません。
- 『BackUP CD-ROM』の作成は 1 部だけとなります。これは、パソコンを初めて立ち上げた時に表示される「許諾契約書」に基づくものです。一度『BackUP CD-ROM』を作成されると、再度の作成はできなくなります。『BackUP CD-ROM』作成後は、HDD を使った一括セットアップもできなくなります。ご注意ください。

準備する

『BackUP CD-ROM』を作成する場合、次のものが必要です。

■ CD-R、CD-RW メディア (5 枚)

『BackUP CD-ROM』のメディアです。

重要

- 必ず 700MB または 650MB の「CD-R」、「CD-RW」メディアを使用してください。DVD-R/RW メディアでは、『BackUP CD-ROM』を作成できません。

■ CD-R、CD-RW 装置

『BackUP CD-ROM』作成用のデータを CD-R、CD-RW メディアに書き込むために必要です。

ヒント

- CD-R、CD-RW 装置は、使用しているパソコンに接続されている必要はありません。『BackUP CD-ROM』作成用のデータをネットワークなどで転送し、CD-R、CD-RW 装置の接続されたシステム装置で『BackUP CD-ROM』を作成することができます。

■ CD-R/RW ライティングソフト

『BackUP CD-ROM』作成用のデータを CD-R、CD-RW メディアに書き込むために必要です。
弊社で推奨するライティングソフトは次のとおりです。

- 株式会社 ビー・エイチ・エー B's Recorder GOLD8 BASIC for HITACHI
- ロキシオ・ジャパン株式会社 Easy CD&DVD Creator 6
- 株式会社 アプリックス WinCDR7.0 Ultimate DVD
- プロジーグループ株式会社 nero6.0

ヒント

- 各ライティングソフトの使用方法については、製品に付属されているマニュアルをご確認ください。

作成前の注意

『BackUP CD-ROM』の作成中にほかのアプリケーションソフトが立ち上がっていると、CD-R、CD-RW への書き込み中にエラーが発生することがあります。作成を開始する前に、次の操作を行っておくことをお勧めします。

・スクリーンセーバーが立ち上がらないように設定する
・自動的にスタンバイ状態／休止状態にならないように設定する
・立ち上がっているアプリケーションをすべて終了する
・常駐プログラムをすべて終了する

『BackUP CD-ROM』の作成手順

ドライブ E 内に格納されているリカバリーイメージデータから、『BackUP CD-ROM』用データを作成します。
作成されたデータは、CD-R、CD-RW 装置とライティングソフトを使用して、CD-R、CD-RW メディアに書き込みます。作成手順は次のとおりです。

ヒント

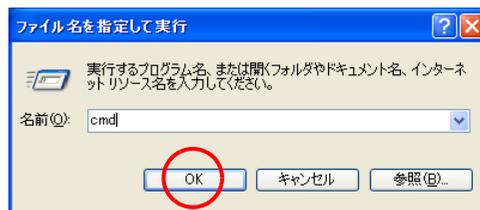
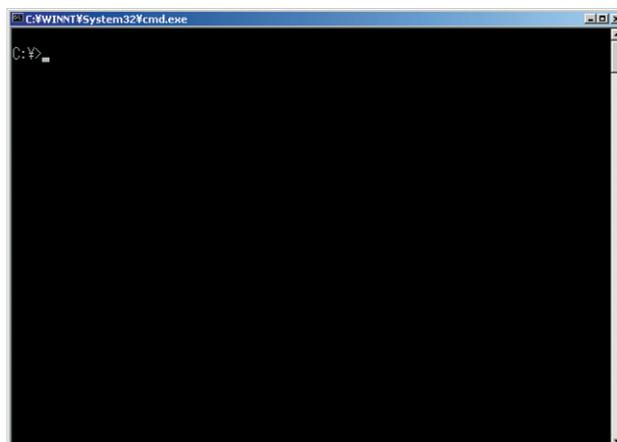
・『BackUP CD-ROM』用データは、ISO9660 イメージとして作成されます。

1　『BackUP CD-ROM』用のデータを保存する場所に十分な空き容量があるか確認する。

『BackUP CD-ROM』用のデータを保存するには、HDD に 3GB 以上の空き容量が必要です。

2　[スタート] メニューから「ファイル名を指定して実行」を選択する。

[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

3　"cmd" と入力し、[OK] ボタンをクリックする。

コマンドプロンプトが表示される。

4 e: と入力し、[Enter] キーを押す。

リカバリーイメージデータが格納されたドライブ E に移動する。

ヒント

・ ご購入時の状態ではドライブ E にリカバリーイメージデータが格納されています。ドライブ E のボリュームラベルは "HTCRECOVERY" となっています。

5 CD ¥HTCRECOV¥BACKUPCD と入力し、[Enter] キーを押す。

『BackUP CD-ROM』用データを作成するコマンドが格納されているフォルダーに移動する。

重要

・ コマンドが格納されているフォルダーに移動せずに、絶対パスでコマンドを指定した場合、コマンドは正しく動作しません。

6 次の書式に従い、『BackUP CD-ROM』用のデータを作成するコマンドを入力する。

MKBACKXP [ドライブ :][パス]

[ドライブ :]	『BackUP CD-ROM』作成用のデータを格納するドライブを指定します。
[パス]	『BackUP CD-ROM』作成用のデータを格納するパスを指定します。 スペースを含むパスを指定する場合は [ドライブ :][パス] 全体を二重引用符 ("") で囲む必要があります。

(例) MKBACKXP c:
(例) MKBACKXP c:¥
(例) MKBACKXP c:¥TEMP
(例) MKBACKXP "c:¥Documents and Settings"

コマンドのメニューが表示される。

重要

・ パスの指定はパソコンに内蔵されている HDD に行ってください。ネットワークドライブを含むパスを指定した場合、『BackUP CD-ROM』用のデータを作成できない場合があります。
・ 『BackUP CD-ROM』用のデータを保存するには、HDD に 3GB 以上の空き容量が必要です。

7 [1] キーを押す。

```
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
＊＊                                                              ＊＊
＊＊  「BackUP CD-ROM」用のISOイメージを作成します。               ＊＊
＊＊                                                              ＊＊
＊＊  作成作業を続行しますか？                                    ＊＊
＊＊                                                              ＊＊
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
+--------------------------------------------------------------------+
:  (1) 「BackUP CD-ROM」のISOイメージを作成                          :
+--------------------------------------------------------------------+
:  (2) 作成作業の中断                                                :
+--------------------------------------------------------------------+
                          選択 (1 / 2) ? :
```

データの作成画面が表示される。

8　画面の指示に従って、『BackUP CD-ROM』用データを作成する。

『BackUP CD-ROM』用データは、5 つのファイルで構成され、その全体を一括して作成することができます。
作成されたデータは、指定したパスに次のファイル名で作成されます。

項目	ファイル名
1 枚目	DISCXP1.ISO
2 枚目	DISCXP2.ISO
3 枚目	DISCXP3.ISO
4 枚目	DISCXP4.ISO
5 枚目	DISCXP5.ISO

『BackUP CD-ROM』用のデータが作成される。(画面は作成中の表示例)

『BackUP CD-ROM』用のデータ作成中は進行状況が表示されます。

9　作成した『BackUP CD-ROM』用データを CD-R、CD-RW に書き込み、『BackUP CD-ROM』を作成する。

重 要

・『BackUP CD-ROM』用のデータ「DISC ＊＊＊＊ .iso」をファイルとして CD-R、CD-RW に書き込まないでください。『BackUP CD-ROM』用のデータは、ISO9660 規格に準拠した特殊なファイル、ISO イメージとして保存されています。ISO イメージの書き込み方法は、各ライティングソフトにより異なります。各ソフトに付属のマニュアルまたは、ヘルプをご参照ください。

『活用』CD を作成する

ご購入時の選択により、HDD リカバリーモデルをご購入の場合、ドライブ E 内の『活用』CD データを元に、『活用』CD を作成することができます。HDD の領域をすべて使用する場合は、事前に『BackUP CD-ROM』と『活用』CD を作成してください。

参照

・『BackUP CD-ROM』の作成について→「『BackUP CD-ROM』を作成する」(P.58)

準備する

『活用』CD を作成する場合、次のものが必要です。

■ CD-R、CD-RW メディア（1 枚）

『活用』CD のメディアです。

■ CD-R、CD-RW 装置

『活用』CD データを CD-R、CD-RW メディアに書き込むために必要となります。CD-R、CD-RW 装置は、使用しているパソコンに接続されている必要はありません。
次の手順で、データをネットワークなどで転送し、CD-R、CD-RW 装置の接続されたシステム装置で『活用』CD を作成することができます。

■ CD-R/RW ライティングソフト

『活用』CD データを CD-R、CD-RW メディアに書き込むために必要です。
弊社で推奨するライティングソフトは次のとおりです。

・株式会社 ビー・エイチ・エー B's Recorder GOLD8 BASIC for HITACHI
・ロキシオ・ジャパン株式会社 Easy CD&DVD Creator 6
・株式会社 アプリックス WinCDR7.0 Ultimate DVD
・プロジーグループ株式会社 nero6.0

ヒント

・各ライティングソフトの使用方法については、製品に付属されているマニュアルをご確認ください。

作成前の注意

『活用』CD データの書き込み中にほかのアプリケーションソフトが立ち上がっていると、エラーが発生することがあります。次の操作を行っておくことをお勧めします。

・スクリーンセーバーが立ち上がらないように設定する
・自動的にスタンバイ状態／休止状態にならないように設定する
・立ち上がっているアプリケーションをすべて終了する
・常駐プログラムをすべて終了する

『活用』CD の作成手順

ドライブ E 内に格納されている『活用』CD データを、CD-R、CD-RW 装置とライティングソフトを使用して、『活用』CD を作成します。作成手順は次のとおりです。

1 **ドライブ E 内に格納されている次の 2 つのフォルダーを、CD-R または CD-RW に書き込み、『活用』CD を作成する。**

・[Drivers]

・[Programs]

ライティングソフトで『活用』CD を作成してください。

HDD を使った一括セットアップ

ここでは、HDD 内のリカバリーイメージデータを使用した一括セットアップ方法を説明します。

重要

・ HDD のデータ消去ツールなどを使用した場合、一括セットアップ中に「エラーコード：208」が表示され、一括セットアップができないことがあります。その場合は、次の URL に記載されている対処方法をご参照ください。

参照

・ 対処方法について→ http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/flora/download/snl_2006/tpc040251/0675oth6.htm

1 パソコンの電源を入れ、パソコンの立ち上げ中、画面中央に「HITACHI」または、画面下部にメッセージが表示されたら、[F12] キーを押す。

[Boot Menu] 画面が表示される。

重要

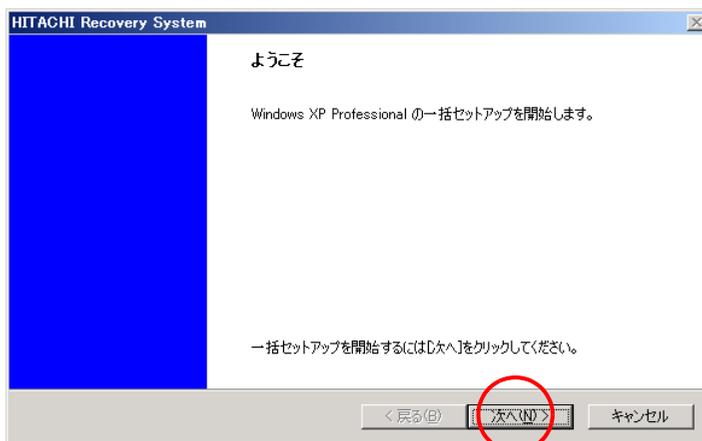
・ HDD 内のリカバリーイメージデータからドライブ C を回復させる時は、CD-ROM およびドライブの準備は必要ありません。

2 カーソルを <RECOVERY> に合わせ [Enter] キーを押す。

[ようこそ] 画面が表示される。

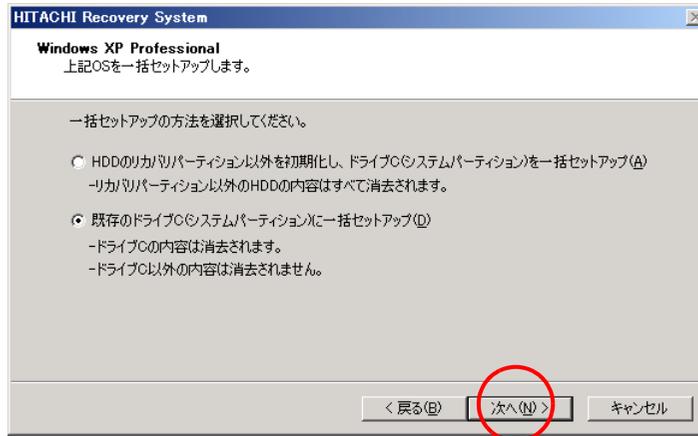
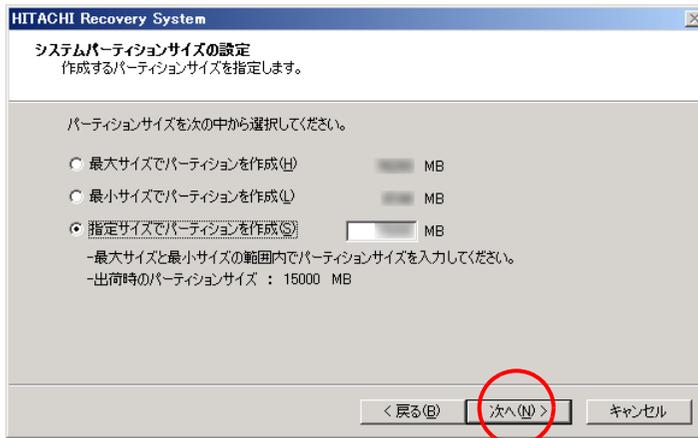
重要

・ 『BackUP CD-ROM』を作成した場合などは、画面に「RECOVERY」と表示されても HDD を使った一括セットアップができない場合があります。
・ ドライブ E を削除した場合などは、画面に「RECOVERY」が表示されず、HDD を使った一括セットアップはできません。

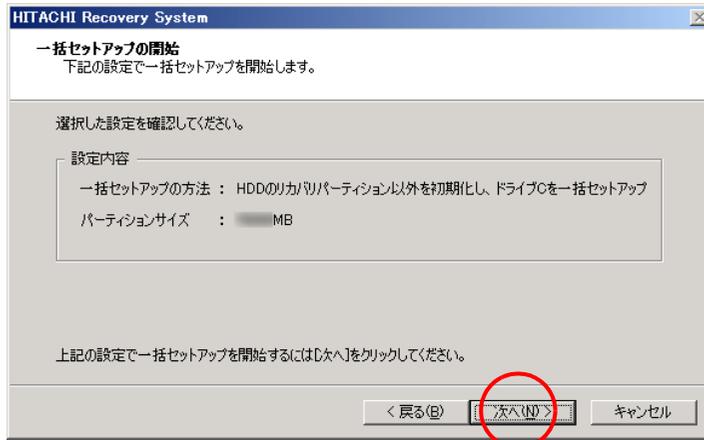
3 [次へ] ボタンをクリックする。

パソコンのチェックが行われ、チェック結果が正常の場合は、一括セットアップ方法の選択画面が表示される。

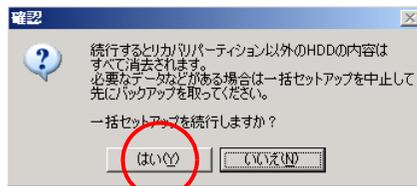
ヒント

・ 一括セットアップを中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックします。
セットアップ中止の [確認] 画面が表示されますので [はい] ボタンをクリックしてください。
自動でパソコンが立ち上げ直されます。

4　**セットアップ方法を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。**
セットアップ方法は、次の 2 つから選択する。
(1)[HDD のリカバリパーティション以外を初期化し、ドライブ C(システムパーティション) を一括セットアップ]：こちらを選んだ場合は、手順 5 に進む。
(2)[既存のドライブ C(システムパーティション) に一括セットアップ]：こちらを選んだ場合は、手順 8 に進む。

5　**ドライブ C のサイズを選択し、[次へ] ボタンをクリックする。**
最大サイズで作成する場合は、[最大サイズでパーティションを作成] を選択する。
最小サイズで作成する場合は、[最小サイズでパーティションを作成] を選択する。
それ以外のサイズで作成する場合は、[指定サイズでパーティションを作成] を選択し、設定サイズ内でサイズを入力する。

[一括セットアップの開始] 画面が表示される。

・ HDD の全領域を使用してパーティションを作成することはできません。パーティションの最大値はリカバリーパーティションサイズを差し引いた値になります。

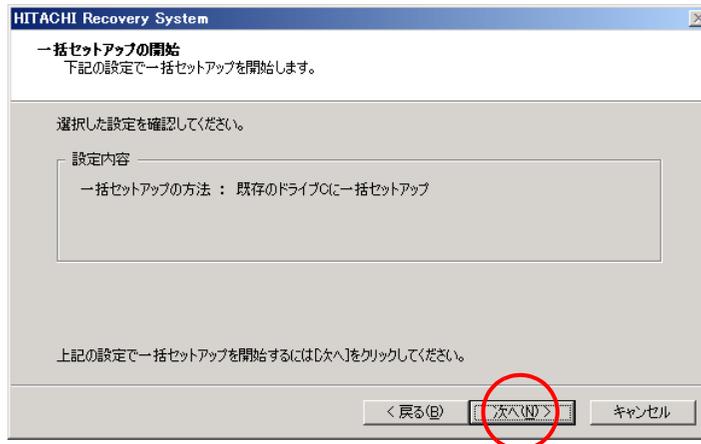
6 [次へ] ボタンをクリックする。

[確認] 画面が表示される。

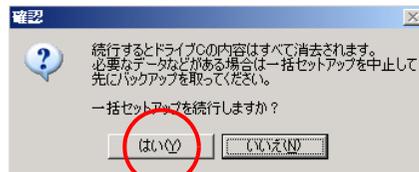
7 [はい] ボタンをクリックし、手順 10 へ進む。

一括セットアップが開始され、終了後、手順 10 の [セットアップの完了] 画面が表示される。

重要

- [はい] ボタンをクリック後、リカバリーパーティション以外の HDD の内容はすべて消去されます。必要なデータなどがある場合は、セットアップを中止して、先にバックアップを取ってください。
- [はい] ボタンをクリック後はセットアップを中止できません。

ヒント

- 一括セットアップを中止する場合は、[いいえ] ボタンをクリックしてください。
  [いいえ] ボタンをクリック後、手順 6 に戻ります。
  手順 6 で [キャンセル] ボタンをクリックするとセットアップ中止の [確認] 画面が表示されますので [はい] ボタンをクリックしてください。自動でパソコンが立ち上げ直されます。

8 ［ 次へ ］ボタンをクリックする。

［ 確認 ］画面が表示される。

9 ［ はい ］ボタンをクリックする。

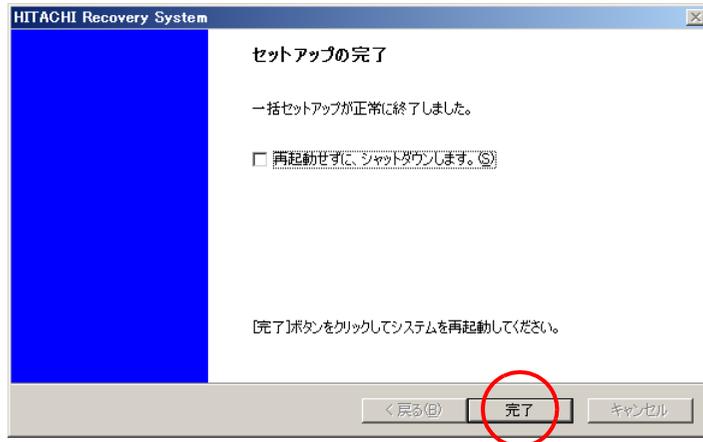
一括セットアップが開始され、終了後、［ セットアップの完了 ］画面が表示される。

重 要

- ［ はい ］ボタンをクリック後、ドライブ C の内容はすべて消去されます。必要なデータなどがある場合は、セットアップを中止して、先にバックアップを取ってください。
- ［ はい ］ボタンをクリック後はセットアップを中止できません。

ヒント

- 一括セットアップを中止する場合は、［ いいえ ］ボタンをクリックしてください。
  ［ いいえ ］ボタンをクリック後、手順 8 に戻ります。
  手順 8 で［ キャンセル ］ボタンをクリックすると、セットアップ中止の ［ 確認 ］画面が表示されますので［ はい ］ボタンをクリックしてください。自動でパソコンが立ち上げ直されます。

10 [完了] ボタンをクリックする。

パソコンが立ち上げ直される。

重 要

・ 一括セットアップ終了後、シャットダウンしたい場合は、[再起動せずに、シャットダウンします。] にチェックを入れ、[完了] ボタンをクリックしてください。
・ シャットダウンした場合は、次回電源を入れたときに Windows XP のセットアップから開始します。

11 以降、Windows のセットアップ手順に従って、Windows 環境をセットアップする。

参照

・ セットアップ方法→ 4 章の「使用許諾契約に同意しよう」(P.46)

CD-ROM を使った一括セットアップ

『Product Recovery CD-ROM』、『BackUP CD-ROM』を使った一括セットアップ

ここでは『Product Recovery CD-ROM』や『BackUP CD-ROM』を使用した一括セットアップ方法を説明します。

重要

・ HDD のデータ消去ツールなどを使用した場合、一括セットアップ中に「エラーコード：208」が表示され、一括セットアップができないことがあります。その場合は、次の URL に記載されている対処方法をご参照ください。

参照

・ 対処方法について→ http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/flora/download/snl_2006/tpc040251/0675oth6.htm

ヒント

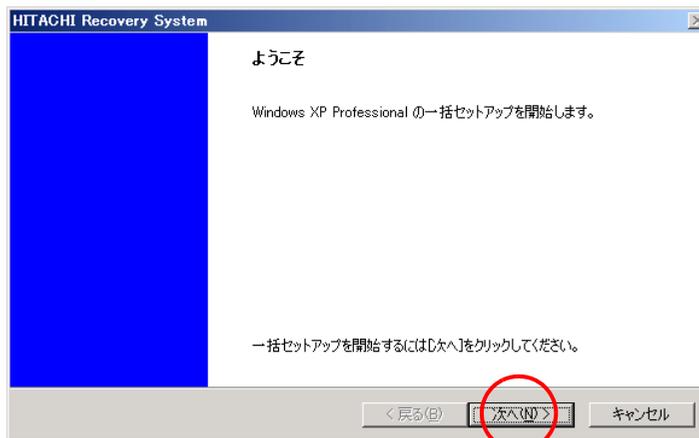
・ 画面は、『Product Recovery CD-ROM』を使用した場合の画面を記載しています。『BackUP CD-ROM』を使用した場合の画面は若干異なります。

1 **パソコンの電源を入れ、パソコンの立ち上げ中、画面中央に「HITACHI」または、画面下部にメッセージが表示されたら、[F12] キーを押す。**

[Boot Menu] 画面が表示される。

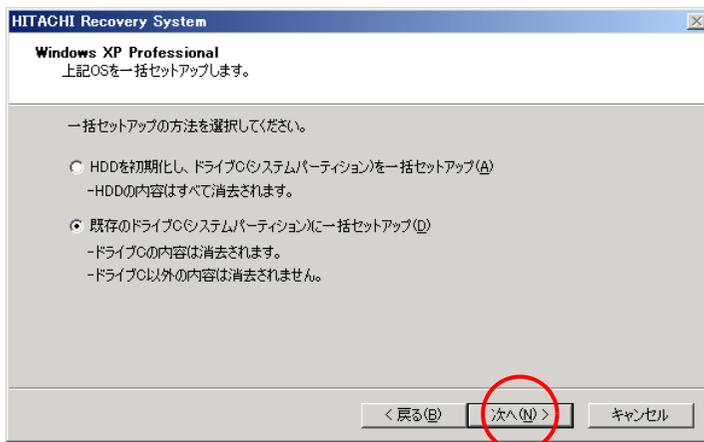
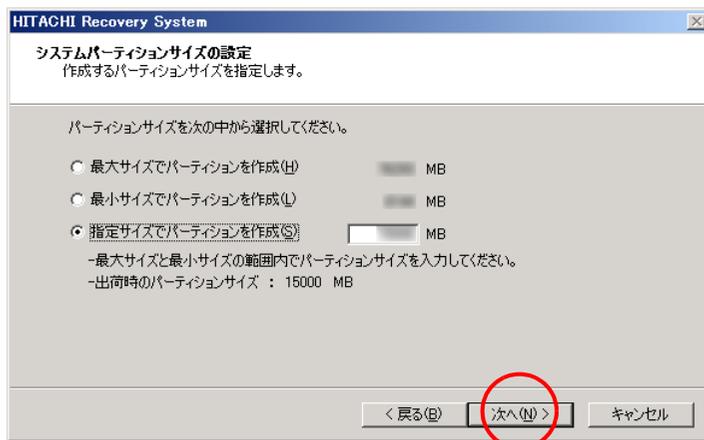
2 **『Product Recovery CD-ROM』(Disc1) または『BackUP CD-ROM』(Disc1) を CD/DVD ドライブに入れ、カーソルを [CDROM：XXXXXXXXXX] に合わせ [Enter] キーを押す。**

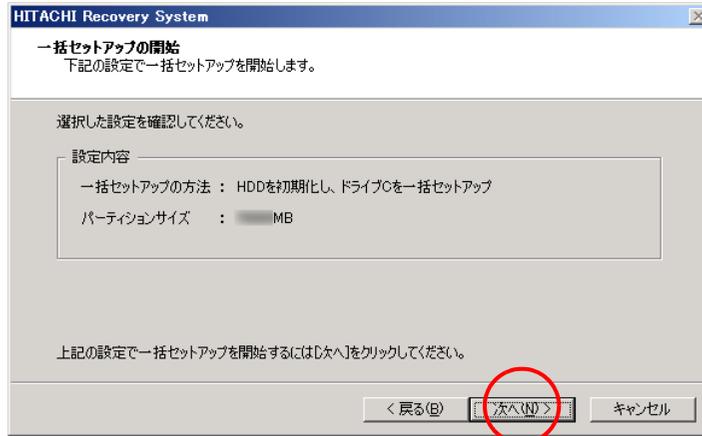
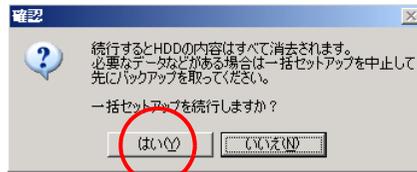
[ようこそ] 画面が表示される。

3 **[次へ] ボタンをクリックする。**

パソコンのチェックが行われ、チェック結果が正常の場合は、一括セットアップ方法の選択画面が表示される。

ヒント

・ 一括セットアップを中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックします。セットアップ中止の [確認] 画面が表示されますので [はい] ボタンをクリックしてください。自動でパソコンが立ち上げ直されます。

4 **セットアップ方法を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。**
セットアップ方法は、次の 2 つから選択する。
(1)[HDD を初期化し、ドライブ C(システムパーティション) を一括セットアップ]：こちらを選んだ場合は、手順 5 に進む。
(2)[既存のドライブ C(システムパーティション) に一括セットアップ]：こちらを選んだ場合は、手順 8 に進む。

5 **ドライブ C のサイズを選択し、[次へ] ボタンをクリックする。**
最大サイズで作成する場合は、[最大サイズでパーティションを作成] を選択する。
最小サイズで作成する場合は、[最小サイズでパーティションを作成] を選択する。
それ以外のサイズで作成する場合は、[指定サイズでパーティションを作成] を選択し、設定サイズ内でサイズを入力する。

[一括セットアップの開始] 画面が表示される。

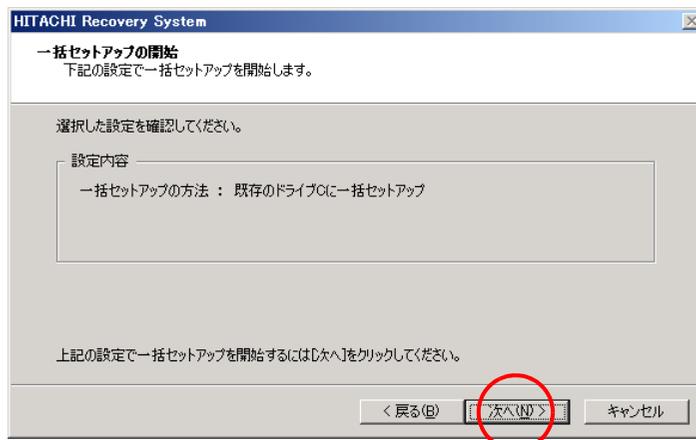
6 [次へ] ボタンをクリックする。

[確認] 画面が表示される。

7 [はい] ボタンをクリックし、手順 10 へ進む。

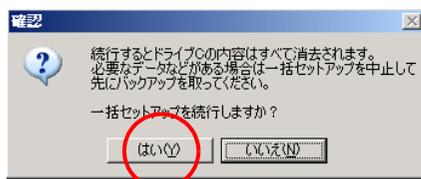
一括セットアップが開始される。
OS の回復作業中に「Please either insert the next disk and …」というメッセージが表示されたら、『Product Recovery CD-ROM』または『BackUP CD-ROM』を (Disc2)、(Disc3)、(Disc4)、(Disc5) の順に入れ替え、[Enter] キーを押す。
一括セットアップ終了後、手順 10 の [セットアップの完了] 画面が表示される。

重 要

- [はい] ボタンをクリック後、HDD の内容はすべて消去されます。必要なデータなどがある場合は、セットアップを中止して、先にバックアップを取ってください。
- [はい] ボタンをクリック後はセットアップを中止できません。

ヒント

- 一括セットアップを中止する場合は、[いいえ] ボタンをクリックしてください。
  [いいえ] ボタンをクリック後、手順 6 に戻ります。
  手順 6 で [キャンセル] ボタンをクリックするとセットアップ中止の [確認] 画面が表示されますので [はい] ボタンをクリックしてください。自動でパソコンが立ち上げ直されます。

8 [次へ] ボタンをクリックする。

[確認] 画面が表示される。

9 [はい] ボタンをクリックする。

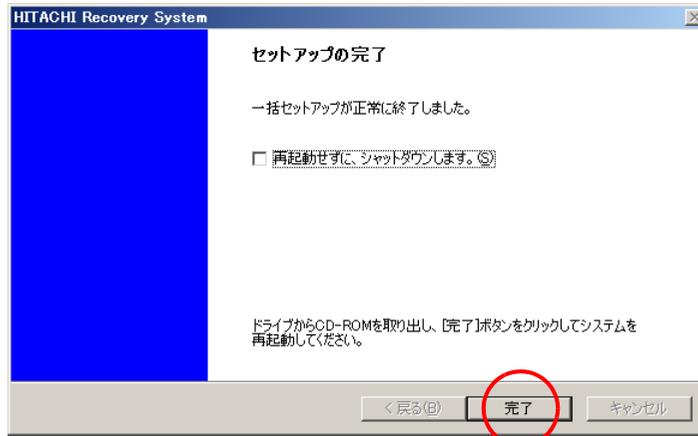
一括セットアップが開始される。
OS の回復作業中に「Please either insert the next disk and …」というメッセージが表示されたら、『Product Recovery CD-ROM』または『BackUP CD-ROM』を (Disc2)、(Disc3)、(Disc4)、(Disc5) の順に入れ替え、[Enter] キーを押す。
一括セットアップ終了後、[セットアップの完了] 画面が表示される。

重 要

・ [はい] ボタンをクリック後、C ドライブの内容はすべて消去されます。必要なデータなどがある場合は、セットアップを中止して、先にバックアップを取ってください。
　[はい] ボタンをクリック後はセットアップを中止できません。

ヒント

・ 一括セットアップを中止する場合は、[いいえ] ボタンをクリックしてください。[いいえ] ボタンクリック後、手順 8 へ戻ります。
　手順 8 で [キャンセル] ボタンをクリックするとセットアップ中止の [確認] 画面が表示されますので [はい] ボタンをクリックしてください。自動でパソコンが立ち上げ直されます。

10 CD/DVD ドライブから CD-ROM を取り出し、[完了] ボタンをクリックする。

パソコンが立ち上げ直される。

重要

・　一括セットアップ終了後、シャットダウンしたい場合は、[再起動せずに、シャットダウンします。] にチェックを入れ、[完了] ボタンをクリックしてください。
・　シャットダウンした場合は、次回電源を入れたときに Windows XP のセットアップから開始します。

11 以降、Windows のセットアップ手順に従って、Windows 環境をセットアップする。

参照

・　セットアップ方法→ 4 章の「使用許諾契約に同意しよう」(P.46)

6 章　パソコンに機器を接続する

この章では、周辺機器の接続方法と使用方法を説明します。

ディスクを使おう

ここでは、CD-ROM、CD-R/RW、DVD-ROM、DVD-R/RW、DVD-RAM、DVD ± R/RW(以下、ディスク) と、ディスクを入れるドライブの使い方について説明します。FDD についても説明します。ご購入時に選択された仕様によって、パソコンに内蔵するドライブと使用できるディスクは異なります。

ディスクの入れ方 / 取り出し方

1　CD/DVD ランプが点灯していないことを確認して、CD/DVD イジェクトボタンを押してトレイを引き出す。

注意

- 割れたり変形したディスクをドライブに入れないでください。ドライブの故障の原因になります。

ヒント

- パソコンの電源が入っていないと、トレイは出てきません。

重 要

- CD/DVD ランプ点灯中はトレイを出さないでください。ドライブまたはディスクが壊れることがあります。
- トレイを出し入れするときに、トレイを無理に引き出したり押し込んだりしないでください。ドライブが壊れることがあります。また、ディスクをセットしたり取り出すとき以外はトレイを引き出さないでください。

2　ディスクの表側 (ラベルが書かれている面) が見えるようにして、パソコン本体に手を添えながら、ディスクのセンター穴にトレイのラッチが「カチッ」と音がするまで入れ、ディスクを固定する。ディスクを取り出すときは、ディスクに手を添えながら取り出す。

重 要

- ディスクのセンター穴をラッチにはめずにトレイを閉めると、ディスクがトレイ口に入って取れなくなることがあります。

3　パソコン前面に対して、垂直にトレイを押して閉める。

自動でディスクを読む設定になっているときは、ディスクを入れると読み込みが始まる。

重 要

- CD/DVD イジェクトボタンを押しても、トレイは閉まりません。

ヒント

- ディスクに自動立ち上げのファイルがないときは、自動的には再生しません。

ディスクの強制取り出し

CD/DVD イジェクトボタンを押してもトレイが開かないときに、細いピンなどを差し込んでドライブを開けることができます。

1　細いピンなどで、CD/DVD 強制イジェクトスイッチを押す。

重要

・ 通常は、CD/DVD 強制イジェクトスイッチは使わないでください。ただし、CD/DVD イジェクトボタンを押してもトレイが出ないときは、CD/DVD 強制イジェクトスイッチに細いピンなどを差し込んで取り出してください。

DVD-RAM ディスクをフォーマットする

DVD-RAM ディスクのフォーマットは、DVD-RAM フォーマットユーティリティーで行います。

参照

・ 詳細について→ 12 章の「DVD-RAM ディスクをフォーマットする」(P.174)

FD の入れ方／取り出し方

FD を入れる

FDD に、FD を入れる手順を説明します。

1 **パソコンを縦置きで使用する場合、FD の表側（ラベルをはる面）を左に向け、FDD に「カチッ」と音がするまで押し込む。**

重要

- FD を FDD に入れたまま、パソコンの電源を入れないでください。Windows が立ち上がってから FD を入れてください。

FD を取り出す

FDD から FD を取り出す手順を説明します。

1 **FDD ランプが点灯していないことを確認して、パソコン前面に対し垂直に FDD イジェクトボタンを押す。**

重要

- FDD ランプの点灯中、点滅中に FD を出し入れすると、FDD または FD が壊れることがあります。
- パソコンの電源を切るときは、必ず FD を取り出してからにしてください。FD を入れたまま電源を切ると、FD が壊れることがあります。FD を入れたまま電源を入れると、パソコンが立ち上がらないことがあります。
- FD を取り出せないときは、無理に取り出さず、いったん FDD の中に押し込み、もう一度イジェクトボタンを押してください。

FD の種類

このパソコンで次の FD が読み書きできます。

- 2DD：720KB フォーマット
- 2HD：1.44MB フォーマット／ 1.25MB フォーマット

重要

- 1.44MB の FD を 1.25MB の容量にフォーマット（初期化）できません。
- 1.25MB でフォーマットされている FD を 1.44MB でフォーマットし直しても、正常に使用できないことがあります。
- 2DD の FD をフォーマットしたあと、すぐに FD に読み書きすると読み書きのエラーが発生することがあります。一度 FD をドライブから取り出し、入れ直してください。
- 2HD 1.25MB の FD を使うには 3 モード FD ドライバーをセットアップする必要があります。
- 1.25MB の FD はフォーマットできません。

参照

- 3 モード FD ドライバーのセットアップ方法→ 12 章の「3 モード FD ドライバー」(P.171)

FD をフォーマットする

1 **FD を FDD に入れる。**

2 **[マイコンピュータ] の [3.5 インチ FD(A:)] を右クリックする。**

3 **メニューから [フォーマット] を選択する。**

4 **[容量] を「 1.44MB 」に設定する。**

・[フォーマットオプション] の [クイックフォーマット] をチェックしない。
・オプション項目があるときは、必要に応じて設定する。

5 **[開始] ボタンをクリックする。**

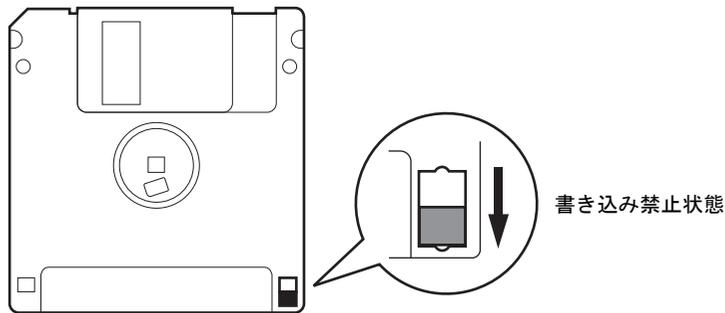
フォーマットが開始される。終了すると「フォーマットが完了しました。」と表示される。

6 **[OK]、[閉じる] の順にボタンをクリックする。**

書き込みを禁止する

ここでは、FD への書き込みを禁止する方法を説明します。
大切なデータを誤って消してしまうことがなくなります。

1 **FD の裏側のライトプロテクトノッチを矢印の向きにスライドする。**

書き込みが禁止される。

周辺機器接続時に必要な設定

ここでは、周辺機器を接続したときに必要な設定とその参照先をまとめてあります。なお、次の表で「必要な設定」が「なし」となっている場合でも周辺機器に付属のマニュアルを参照し、必要な場合は設定してください。

重要

・ 接続する周辺機器には節電機能に対応していないものがあります。
節電機能を使わないように設定してご使用ください。

周辺機器	必要な設定	参照先
USB(Universal Serial Bus)	USB 機器ドライバー	USB 機器付属のマニュアル
LAN	なし	参照 本章の「LAN に接続する」(P.81)
マイク スピーカー ヘッドホン	サウンドドライバーのセットアップ＊	参照 12 章の「サウンドドライバー」(P.169)

＊：工場出荷時の状態で、セットアップまたは設定済みです。

ヒント

・ 周辺機器の取り扱いについては、各メーカーにお問い合わせください。

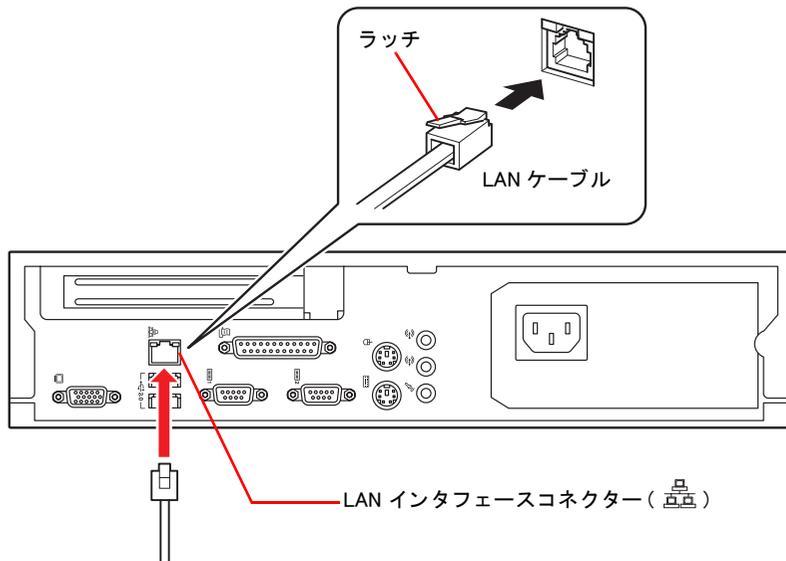
LAN に接続する

LAN に接続する方法

パソコンを LAN に接続する場合にお読みください。

1　パソコン背面の LAN インタフェースコネクター( )に、LAN ケーブル(別売)を「カチッ」と音がするまで差し込む。

ヒント

・ LAN ケーブルは、正しい向き、正しい角度で差し込んで接続してください。LAN ケーブルがきちんと差し込まれていないと、動作しなかったり、誤動作したりします。

LAN に接続するには、ほかにも必要な手続きが残っています。パソコンに電源を入れたあと、Windows のヘルプをご参照ください。

注意

・ LAN インタフェースコネクターには、LAN ケーブルを接続してください。LAN ケーブル以外のケーブルを接続しないでください。故障するおそれがあります。

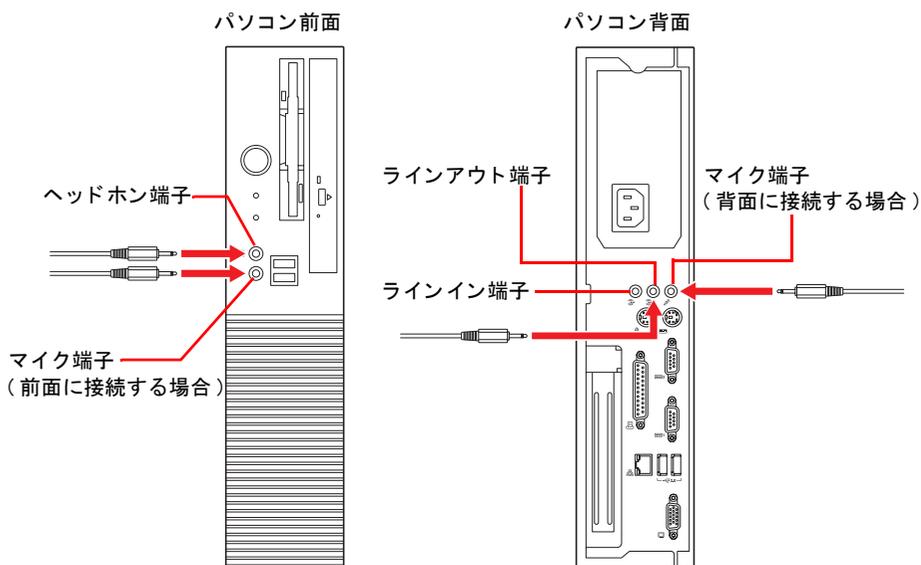
重要

・ LAN ケーブルには脱落防止のラッチが付いています。LAN ケーブルを取り外すときは、ラッチを押さえながら LAN インタフェースコネクターから引き抜いてください。ラッチを押さえずに無理に引き抜くと、LAN ケーブルが断線したり、LAN インタフェースコネクターを破損するなどのおそれがあります。
・ NetWare サーバーのフォルダーまたはファイル名に半角カタカナを使用しないでください。Windows からそのフォルダーやファイルにアクセスできない場合があります。
・ 内蔵 LAN と上位プロトコルとの動作確認は、「Microsoft TCP/IP プロトコル」、「Microsoft NetBEUI プロトコル」、「Microsoft IPX/SPX 互換プロトコル」で行っています。その他のプロトコルを使用する場合は、あらかじめ接続、動作の確認を行ってください。

スピーカー、マイクを接続する

マイクを使って自分の声など外部の音声を録音し、パソコンに音声データとして保存することができます。ヘッドホンやスピーカーで、音声データを再生したり、ゲームソフトの BGM なども楽しめます。

接続方法

1　市販のスピーカーやヘッドホン、マイクに添付されている取扱説明書を参照し、パソコン前面のヘッドホン端子にヘッドホン、パソコン背面のラインアウト端子にスピーカーを接続する。
パソコン前面または、背面のマイク端子にマイクのプラグを接続する。

⚠注意

・ ヘッドホンやイヤホンの使用時は、適度な音量でご使用ください。音量が大きすぎると難聴になるおそれがあります。

重要

・ ラインイン端子にオーディオ機器のラインを接続すると、音量が大きすぎまたは小さすぎて、正しく録音できないことがあります。このようなときは、オーディオ機器のヘッドホン、またはイヤホン出力とラインイン端子を接続し、オーディオ機器の音量調整ボリュームで録音した音声が正しくなるように調整してください。
・ 接続可能なスピーカーは、アンプを内蔵しているスピーカーのみです。アンプを内蔵していないスピーカーは、ご使用になれません。
・ スピーカーやヘッドホンから出力される音質は、オーディオ装置より劣ります。
・ PCM 音源の再生時に、PCM 音源のデータによっては大音量が出力されることがあります。
一度音量を最小にしてからスピーカーやヘッドホンを接続し、音量を調整し直してください。
・ スピーカーを内蔵しているディスプレイには、マイクを取り付けないでください。スピーカーに近づけるとハウリングすることがあります。
・ ヘッドホンを接続している状態で電源スイッチを ON/OFF すると、ヘッドホンから大きなノイズが発生することがあります。
・ スピーカーとヘッドホンを両方接続しているときは、両方から音が出力されます。ヘッドホンのみで音を聞きたい場合は、パソコンではなくスピーカー側で音量を調整してください (スピーカーのボリュームをミュートにするなど)。

ヒント

- ラインアウト端子にヘッドホンを接続すると大きな音が出ることがあります。Windows のタスクバーの音量アイコンで調整してください。ただし、マスタ音量を最小にしても、各オーディオ機器の音量が最大であるときは、ヘッドホンから音が聞こえます。音を消したいときはミュートをご使用ください。
- スピーカー、マイクを取り外すときは、取り付けたときと手順を逆にして行ってください。
- DOS/V 用として市販されているマイクをお使いください。

マイクを使って録音する

マイクを使って自分の声などを録音し、パソコンに音声データとして保存することができます。
ここでは Windows の [サウンドレコーダー] を使って録音する方法を説明します。

参照

- 録音レベルの調整→ 10 章の「音量を調整する」(P.133)

1 **[スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] − [アクセサリ] − [エンターテイメント] − [サウンドレコーダー] の順にクリックする。**

[サウンドレコーダー] 画面が表示される。

2 **[録音] ボタンをクリックする。**

3 **マイクに向かって話す。**

4 **[停止] ボタンを押す。**

ヒント

- 録音した音声は WAV 形式の音声データとして保存することができます。保存するときは、[ファイル] メニューの [名前を付けて保存] を選択してください。
- サウンドレコーダーなどで音声を録音するときは、プロパティーから録音形式をご確認ください。オーディオ形式が「8 ビット、モノラル」に設定されている場合、音質が劣化する場合があります。次の手順にしたがって、オーディオ形式を「16 ビット、ステレオ」に設定したあと、録音することを推奨します。
  1 [ファイル] メニューをクリックし、[プロパティ] を選択する。
  [Sound のプロパティ] が表示される。
  2 [形式の変換] で、[形式] が「すべての形式」になっていることを確認し、[変換] ボタンをクリックする。
  [サウンドの選択] が表示される。
  3 [属性] からデータ形式を選択し、[OK] ボタンをクリックする。
  4 [OK] ボタンをクリックし、[Sound のプロパティ] を閉じる。

重要

- マイクの録音レベルを上げすぎると、音声が歪んだり、ハウリングすることがあります。適度なレベルに調整してお使いください。

USB 機器を接続する

このパソコンには USB(Universal Serial Bus) 機器を取り付けることができます。ここでは、接続方法の一例を説明します。詳しくは、USB 機器のマニュアルをご参照ください。

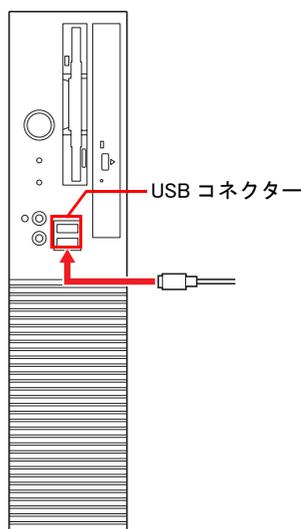
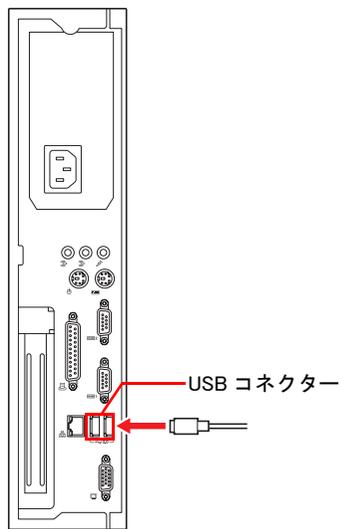
接続方法

1　USB ケーブルを前面または背面の USB コネクターに接続する。

ヒント

- パソコンの電源を入れた状態でも接続できます。
- USB 機器を使用するには、[デバイスマネージャ] で USB コントローラを使用できるように設定する必要があります。標準で使用できるように設定してあります。
- USB コネクターは 4 個あります。いずれに接続しても動作は同じです。

重要

- ケーブルのプラグは、正しい向き、正しい角度で差し込んで接続してください。ケーブルのプラグがきちんと差し込まれていないと、動作しなかったり、誤動作したりします。
- ケーブルの抜き差しは、プラグ部分を持って行ってください。
- 接続している USB 機器によっては、スタンバイや休止状態から復帰しない場合や、復帰後、および再起動後に動作が不安定になる場合があります。また、一部の USB 機器によっては休止状態から復帰後、エラーメッセージが出ることがあります。その場合、スタンバイや休止状態は使用しないようにしてください。なお、USB 機器によっては、USB ケーブルを抜き差しすることで動作が改善されることがあります。
- PCI ボードを使用する場合、同時に使用可能なパソコンの電源で動作する USB 機器の数が制限されます。
- USB ポートの電源供給能力は、1 ポートあたり最大 500mA です。500mA を超える USB 機器は使用できません。接続しないでください。

取り外し方法

USB 機器を取り外す際は、次の手順で「ハードウェアの取り外し」を行ってください。

重要

・ 次の手順で取り外さないと、パソコンの情報が壊れることがあります。

1 **USB 機器にアクセスを行ったアプリケーションを終了させるか、ファイルコピー時に表示されるプログレスバーなどで、アクセスが完了したことを確認する。**

2 **Windows の通知領域のアイコンを右クリックし、[ハードウェアの安全な取り外し] をクリックする。**

[ハードウェアの安全な取り外し] が表示される。

3 **取り外す USB 機器をクリックして選択し、[停止] ボタンをクリックする。**

[ハードウェアデバイスの停止] が表示される。

4 **[OK] ボタンをクリックする。**

[〜は安全に取り外すことができます。] と表示される。

5 **[閉じる] ボタンをクリックする。**

6 **USB 機器を取り外す。**

その他の周辺機器を接続する

通常、プラグアンドプレイ機能に対応している周辺機器を接続したとき、自動的にWindows が環境を設定します。プラグアンドプレイ機能に対応していない周辺機器を接続する場合は、[ハードウェアの追加ウィザード] を使って手動で環境を設定します。

[ハードウェアの追加ウィザード] を使う前に、周辺機器に付属のマニュアルを良くお読みください。付属マニュアルに操作手順が記載されている場合は、そちらの手順を行ってください。

ヒント

- メモリーの増設では、環境を設定する必要はありません。

参照

- 周辺機器の取り付け･取り外しについては、この章や周辺機器に付属のマニュアルをご参照ください。

1 **パソコンの電源を切る。**

2 **電源プラグをコンセントから抜き、周辺機器を接続する。**

ヒント

- USB 機器のように、パソコンの電源が入ったままでも接続できる周辺機器もあります。

3 **必要に応じて、周辺機器の電源を入れる。**

4 **パソコンの電源を入れる。**

5 **[スタート] ボタン－[コントロール パネル] をクリックして、[コントロール パネル] を開き、[ハードウェアの追加] アイコンをダブルクリックする。**

[ハードウェアの追加ウィザード] が表示される。

6 **手順に従い、[次へ] ボタンをクリックする。**

新しい周辺機器の検出が始まる。

7 **しばらくすると、「ハードウェアの検出が完了し、インストールの準備ができました」と表示される。**

ヒント

- メッセージが表示されず、増設した周辺機器が見つからない場合があります。[次へ] ボタンをクリックし、周辺機器に付属のマニュアルを参照するなどして手動で設定してください。

8 **[完了] ボタンをクリックする。**

検出された周辺機器のドライバーがインストールされる。

7 章　パソコンを拡張するときは

この章では、パソコンの内部に拡張ボードなどを追加する方法について説明します。

内蔵周辺機器の増設

メモリーボードなど、パソコン内部に増設するには、パソコンカバーを取り外します。

ここでは、メモリーボードや拡張ボードを取り付けるまでの前準備の手順を説明します。

重要

・ パソコン外部に接続できる周辺機器もあります。

参照

・ 詳細について→「6章　パソコンに機器を接続する」(P.75)

作業時の注意点

内蔵周辺機器の増設には細心の注意を払ってください。
特に、次の点は必ずお守りください。

⚠警告

■周辺機器の増設や接続
周辺機器を増設・接続するときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。マニュアルの説明に従い、マニュアルで使用できることが明記された周辺機器を使用してください。それ以外の周辺機器を使用すると、接続仕様の違いによる周辺機器やパソコンの故障から発煙、発火や故障の原因になります。

⚠注意

■パソコン内が冷えるまで待つ
パソコンの電源を切った直後は、カバーや CPU の冷却フィンなど内部の部品が熱くなっています。
30 分以上時間をおき、熱が冷めてから増設作業を始めてください。電源を切った直後に増設作業を行うと、やけどの原因になります。

■綿手袋を着用する
パソコンの移動、部品の追加などで金属やプラスチックなどの端面に触れる場合は、注意して触れてください。または、綿手袋を着用してください。けがをするおそれがあります。

注意

■体から静電気を逃がしておく
パソコンや内蔵周辺機器は精密機器です。わずかな静電気も故障の原因になります。あらかじめ金属に触れるなどして、体から静電気を逃がしておいてください。

パソコンカバーの取り外し/取り付け

取り外し手順

⚠警告

・　パソコンカバーを取り外すときは、電源を OFF にし、電源プラグをコンセントから抜き、すべてのケーブル類をパソコンから外してから行ってください。一部の回路には通電しているため、思わぬ接触など作業の不具合発生時に故障や劣化による火災の原因になります。

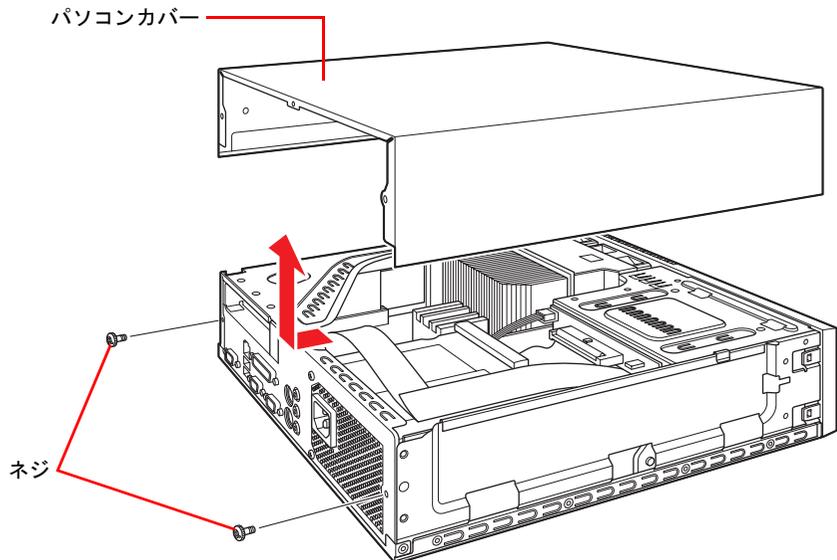
重要

・　ケーブル類の抜き差しは、プラグまたはコネクター部を持ってください。
・　パソコンカバーの取り外し、取り付けのときにパソコンカバーを内部のケーブルに引っかけないようにしてください。
・　スタンドを取り外し再度取り付けるときは、必ず取り外したネジを使用してください。別のネジを使用すると故障の原因になります。

1　**電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。パソコンに接続されているケーブルをすべて外す。**

2　**スタンドが取り付けてある場合、スタンドを取り外す。**

3　**パソコンカバーが上になるように、横置きにする。**

4　**パソコン背面にあるパソコンカバーのネジ 2 本を外して、パソコンカバーをしっかり押さえ、矢印の方向に引き、上に持ち上げて取り外す。**

取り付け手順

1. パソコンカバーを取り外し手順と逆の手順で取り付ける。
2. パソコンスタンドを取り外し手順と逆の手順で取り付ける。
3. ケーブルを接続し、電源プラグをコンセントに差し込み、パソコンの電源を入れる。

メモリーボードを取り付ける

メモリーボードを増設すると、メモリー容量を増やすことができます。
最大 2048MB まで増設できます。

参照

・ メモリーボード以外の周辺機器の接続→「6 章　パソコンに機器を接続する」(P.75)

メモリーボードとメモリーボードソケットの組み合わせかた

重要

・ 弊社サポート以外のメモリーボードを取り付けた場合は、動作保証対象外になります。
・ 同容量・同仕様のメモリーボードを 2 枚取り付けると、Dual-Channel Mode で動作可能となり、1 枚取り付け時より高速処理ができるようになります。

参照

・ メモリーボードの仕様について→ 9 章の「メモリーボードの仕様」(P.116)

メモリーボードは、この表の組み合わせに従って増設してください。

メモリー	ソケット	
実装容量＊	スロット 1(DDR II 1) （内側）	スロット 2(DDR II 2) （外側）
256MB	256MB	−
512MB	256MB	256MB
	512MB	−
1024MB	512MB	512MB
	1024MB	−
2048MB	1024MB	1024MB

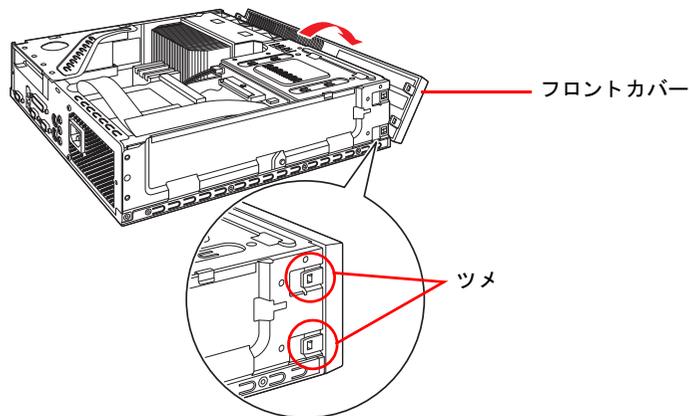
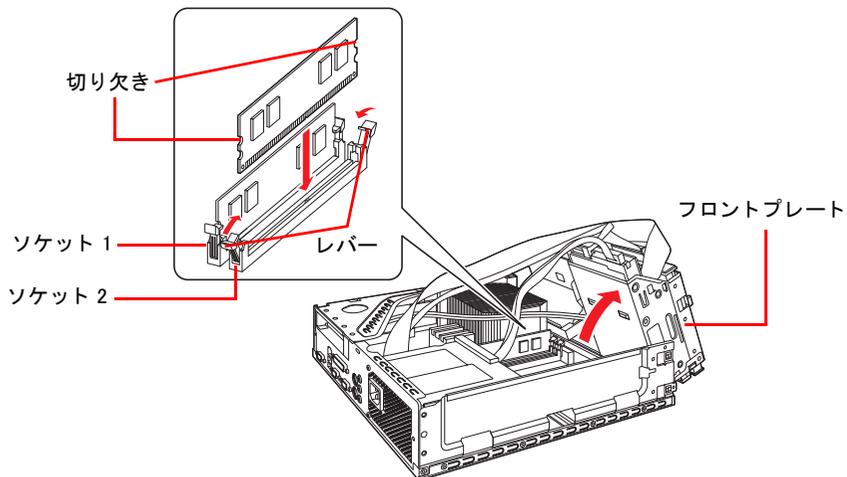
＊ : 実装容量は、[システムのプロパティ] の [全般] タブで確認できます。ただし、一部をビデオメモリーに使用するために、実際の容量よりも少なく表示されます。

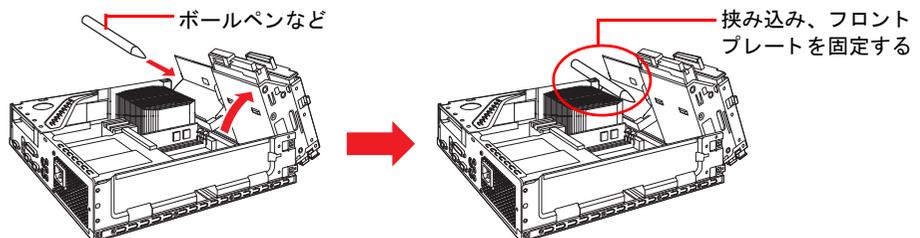
取り付け手順

1 **「パソコンカバーの取り外し / 取り付け」の「取り外し手順」に従い、スタンド(縦置きのみ)、パソコンカバーを取り外す。**

参照

・ 取り外す方法について→「パソコンカバーの取り外し / 取り付け」(P.89)

2　フロントカバー左右のツメ(4ヶ所)を外し、フロントカバーをしっかり持って、矢印の方向に倒して取り外す。

3　フロントプレートを矢印方向に倒し、メモリーボードを取り付けるソケットのレバーを外側に倒して、ソケットにメモリーボードを差し込む。少しずつ押し込み、レバーを切り欠きにかける。

重要

・ フロントプレートが倒れないように、フロントプレートとパソコン本体下ケースとの間にボールペンなどを挟み込み、固定してください。

・ HDD や CD/DVD ドライブなどの基板やコネクターのピンには触れないでください。
・ フロントプレートが倒れないように、取り扱いは細心の注意を払ってください。
・ HDD や CD/DVD ドライブなどに接続されているケーブル類は取り外す必要はありません。ケーブルを接続したまま、メモリーボードの取り付け/取り外しを行ってください。
・ メモリーボードを扱うときは、ボードの端を持つようにしてください。

4　**フロントカバーを取り付ける。**

5　**「パソコンカバーの取り外し / 取り付け」の「取り付け手順」に従い、パソコンカバー、スタンド（縦置きのみ）を取り付ける。**

ヒント

・実装容量は、[システムのプロパティ] の [全般] タブで確認できます。ただし、一部をビデオメモリーに使用するために、実際の容量よりも少なく表示されます。

取り外し手順

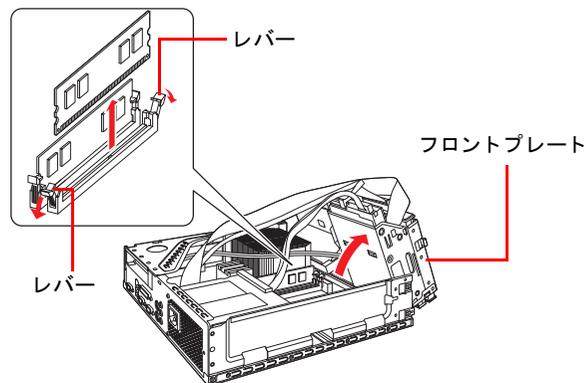
メモリーボードの取り外し手順を説明します。

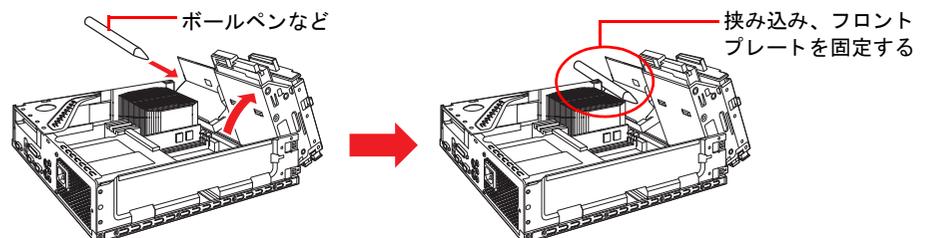
1　**「パソコンカバーの取り外し / 取り付け」の「取り外し手順」に従い、スタンド（縦置きのみ）、パソコンカバーを取り外す。**

参照

・取り外す方法について→「パソコンカバーの取り外し / 取り付け」(P.89)

2　**フロントカバー左右のツメ（4ヶ所）を外し、フロントカバーをしっかり持って、前面に倒して取り外す。**

3　**フロントプレートを倒し、レバーを図の矢印の方向に倒してメモリーボードを浮き上がらせ、メモリーボードの端を持ってゆっくりと引き抜く。**

重要

・フロントプレートが倒れないように、フロントプレートとパソコン本体下ケースとの間にボールペンなどを挟み込み、固定してください。

- HDD や CD/DVD ドライブなどの基板やコネクターのピンには触れないでください。
- フロントプレートが倒れないように、取り扱いは細心の注意を払ってください。
- HDD や CD/DVD ドライブなどに接続されているケーブル類は取り外す必要はありません。ケーブルを接続したまま、メモリーボードの取り付け / 取り外しを行ってください。
- メモリーボードを扱うときは、ボードの端を持つようにしてください。

4 **フロントカバーを取り付ける。**

5 **「パソコンカバーの取り外し / 取り付け」の「取り付け手順」に従い、パソコンカバー、スタンド(縦置きのみ)を取り付ける。**

ヒント

- 実装容量は、[システムのプロパティ] の [全般] タブで確認できます。ただし、一部をビデオメモリーに使用するために、実際の容量よりも少なく表示されます。

拡張ボードを取り付ける

このパソコンには、拡張スロットが 1 つ用意されています。拡張スロットには、拡張ボードを取り付けることができます。

拡張スロット	取り付け可能な拡張ボード
スロット 1	PCI 規格 (ボードサイズ：奥行き 145mm 以下)

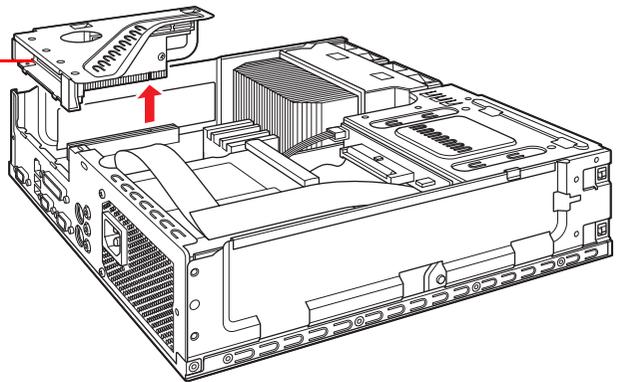
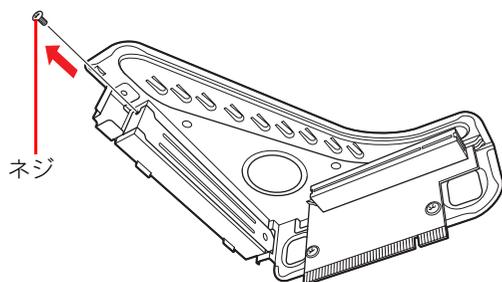
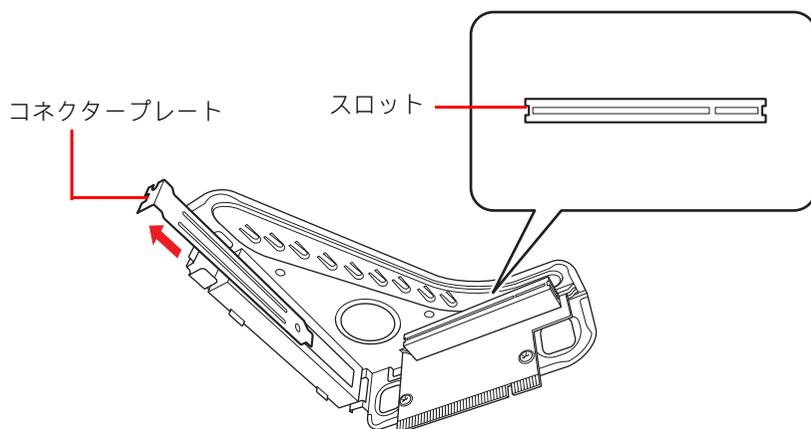
拡張ボードを取り付けるときは、拡張ボードに付属のマニュアルを読み、取り付け方法を理解した上で取り付けてください。

取り付け手順

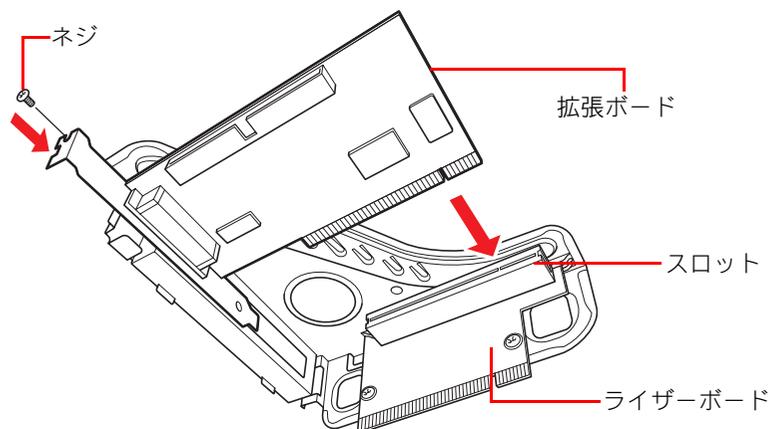
1　「パソコンカバーの取り外し / 取り付け」の「取り外し手順」に従い、スタンド(縦置きのみ)、パソコンカバーを取り外す。

参照

・　取り外す方法について→「パソコンカバーの取り外し / 取り付け」(P.89)

2　ライザーボードユニットを上方に持ち上げて取り外す。

3 コネクタープレートを固定しているネジを取り外す。

4 コネクタープレートを取り外す。

ヒント

・ 取り外したコネクタープレートは大切に保管してください。

5 拡張ボードをライザーボードのスロットにしっかりと差し込む。

⚠ 警告

・ 拡張ボードやコネクタープレートは、必ずネジ止めしてください。万一、部品が破損した場合、火災のおそれがあります。拡張ボードを取り付けないときは、コネクタープレートを必ず取り付けてください。

重 要

・ 拡張ボードを接続するときは、メインボードやほかのボードに接触しないようにしてください。

6 **拡張ボードをネジ止めする。**

7 **ライザーボードユニットを取り付ける。**

8 **「パソコンカバーの取り外し / 取り付け」の「取り付け手順」に従い、パソコンカバー、スタンド（縦置きのみ）を取り付ける。**

ヒント

- パソコンを立ち上げても、拡張ボードが認識されないときは、ライザーボードのスロットに確実に接続されているかご確認ください。確認方法については、拡張ボードに付属のマニュアルをご参照ください。
- パソコンを立ち上げても、拡張ボードが認識されないときは、ライザーボードがしっかり接続されているかをご確認ください。
- 拡張ボードの取り外しは、取り付けと逆の手順で行います。

重 要

- 通信用のボードなどを接続した場合は、節電機能が働かないように設定してください。
- 拡張ボードの IRQ や I/O ポートアドレスなどが、ほかの装置と同じ値にならないようにしてください。Windows のデバイスマネージャで、装置に！マークが付いている場合は、同じ値になっています。なお、IRQ などを共有しているときは、！マークは付きません。
- 拡張ボードを接続するときは、メインボードに接触しないようにしてください。
- 拡張ボードに部品の端子などの突起物がある場合は、ケーブルなどを傷つけないようにしてください。
- パソコン内部、ケーブル類の取り回しは変更しないでください。
- 拡張ボードを取り付けるときは、ケーブルやケーブルのコアで、メインボード上の部品に力が加わらないように取り付けてください。

参照

- 設定について→ 11 章の「節電機能を使わないようにするには」（P.162）

8 章　日常のお手入れ

この章では、パソコンの各部分のお手入れについて説明します。

お手入れ

ここではパソコンや周辺機器のお手入れについて説明します。

パソコンのお手入れをするときは、パソコンの電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いてから行ってください。

・ シンナーやベンジン、化学雑巾は使わないでください。パソコンの表面が変質するおそれがあります。

パソコン

パソコンが汚れたときは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れがひどいときは、水か中性洗剤で湿らせた布を固く絞って拭くか、オフィスクリーナーなど、市販の専用クリーナーをお使いください。

・ 専用クリーナーは、パソコンショップなどでご購入ください。

CD/DVD ドライブ

ほこりなどでデータ読み込み時にエラーが頻繁に発生する場合は、カメラ用のブロアーなどでほこりを吹き飛ばすようにして、クリーニングしてください。

重要

・ クリーニングディスクやクリーニング液を使用する湿式レンズクリーナーは、使用しないでください。ドライブ内部のレンズを傷つける原因になります。

FDD は長期間使用しているとヘッドが汚れ、データを読み書きする際にエラーが発生しやすくなります。1 ～ 3 カ月に 1 回は市販のクリーニングキットでクリーニングをすることをお勧めします。クリーニングの方法については、クリーニングキット付属のマニュアルをご参照ください。付属のマニュアルがない場合は、次の手順を行ってください。

ヒント

- クリーニングキットは乾式･湿式両方とも使用できます。
- クリーニングキットは、パソコンショップなどでご購入ください。

クリーニング手順

1. **[スタート] ボタン－ [すべてのプログラム] － [アクセサリ] － [コマンド プロンプト] をクリックする。**
   [コマンド プロンプト] 画面が表示される。
2. **クリーニングディスクを FDD に挿入する。**
3. **クリーニングするドライブに対して、dir と半角で入力し、[Enter] キーを押す。**
   エラーが表示される。

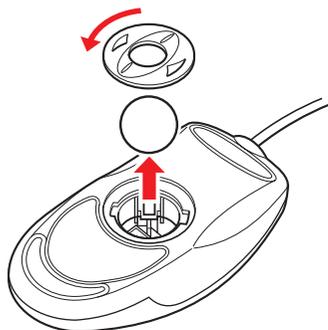
   ヒント

   - クリーニングするドライブのドライブ文字が (A) の場合、入力は「dir A:」になります。
4. **手順 3 に戻り、これを 4、5 回繰り返す。**
5. **exit と半角で入力し、[Enter] キーを押す。**
   画面が消える。

マウス

1～3カ月に1回はマウスをクリーニングすることをお勧めします。ボールにゴミが付着するなどして正しく動かないときは、クリーニングをしてください。

クリーニング手順

1 **マウス底面の中央にあるカバーを図のように反時計回りに回す。カバーを外して、中のボールを取り出す。**

2 **水で薄めた中性洗剤でボールを洗う。**

ヒント

・ ボールは、水で薄めた中性洗剤で洗ってください。漂白剤、シンナー、ワックス、クリーム、油剤などは使用しないでください。
化学雑巾やワックスが付いた布でボールを拭かないでください。ワックスなどの皮膜が付着するとボールがスリップする原因になります。

3 **乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾燥させる。**

4 **乾いた布でマウスの内部や、内部のローラーのゴミやホコリを取り除く。**

5 **マウスにボールを入れ、取り外したときと逆の手順で、カバーを取り付ける。**

9 章　技術情報

この章では、パソコンの仕様およびシステム構成について説明します。

パソコン仕様一覧

形名		330W DX1					
CPU		インテル® Core™ 2 Duo プロセッサー E4300	HT テクノロジー インテル® Pentium® 4 プロセッサー 661	HT テクノロジー インテル® Pentium® 4 プロセッサー 651	HT テクノロジー インテル® Pentium® 4 プロセッサー 641	HT テクノロジー インテル® Pentium® 4 プロセッサー 541	インテル® Celeron® D プロセッサー 336
		1.80GHz (FSB:800MHz)	3.60GHz (FSB:800MHz)	3.40GHz (FSB:800MHz)	3.20GHz (FSB:800MHz)		2.80GHz (FSB:533MHz)
キャッシュメモリー	1 次／ 2 次 (CPU 内蔵)	32KB 命令用×２＋32KB データ用×２／ 2MB：(インテル® アドバンスト・スマート・キャッシュ)	12K μ OPs 実行トレース +16KB データ／ 2MB			12K μ OPs 実行トレース +16KB データ／ 1MB	12K μ OPs 実行トレース +16KB データ／ 256KB
チップセット		インテル® 946GZ+ICH7					
RAM	メモリー (ヒント 1、2)	256 ～ 2048MB DDR2 677 SDRAM PC2-5300(重要 1) ／ DDR2 533 SDRAM PC2-4200(重要 2) モデルによって搭載されているメモリーボードの仕様が異なります。 ご購入されたモデルをご確認ください。 仕様の異なるメモリーボードを混在して使用しないでください。 (Celeron モデルでは、PC2-5300 を搭載しても PC2-4200 で動作します)					
	ビデオメモリー (ヒント 2)	最大 256MB(DDR)(メモリーと共用)					
ROM		BIOS　1MB (Flash ROM)					
グラフィック (ヒント 3)	800 × 600 ドット時	65536 色／ 1677 万色					
	1024 × 768 ドット時	65536 色／ 1677 万色					
	1280 × 1024 ドット時	65536 色／ 1677 万色					
	1600 × 1200 ドット時	65536 色／ 1677 万色					
FDD(ヒント 1)		3.5 型× 1					
HDD(ヒント 1 、4)		約 40GB ／約 80GB ／約 160GB					
ドライブ (ヒント 1)		CD-ROM ドライブ／ DVD-ROM ドライブ／ DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ／ DVD スーパーマルチドライブ					
カレンダー時計 (重要 3)		年月日、時分秒を刻時、時刻誤差± 150 秒／月					

<table>
<tr><th colspan="2">形名</th><th colspan="6">330W DX1</th></tr>
<tr><td colspan="2">LAN</td><td colspan="6">IEEE802.3 規格準拠、1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T、オートネゴシエーション機能</td></tr>
<tr><td rowspan="10">インタ
フェース
コネクター</td><td>プリンター</td><td colspan="6">1 個</td></tr>
<tr><td>シリアル</td><td colspan="6">2 個</td></tr>
<tr><td>ラインアウト</td><td colspan="6">1 個</td></tr>
<tr><td>ラインイン</td><td colspan="6">1 個</td></tr>
<tr><td>マイク</td><td colspan="6">2 個</td></tr>
<tr><td>ヘッドホン</td><td colspan="6">1 個</td></tr>
<tr><td>USB 2.0</td><td colspan="6">4 個 (前面 2 個、背面 2 個)</td></tr>
<tr><td>キーボード</td><td colspan="6">1 個</td></tr>
<tr><td>マウス</td><td colspan="6">1 個</td></tr>
<tr><td>アナログ
ディスプレイ</td><td colspan="6">1 個</td></tr>
<tr><td>拡張スロット</td><td>スロット 1</td><td colspan="6">PCI 2.2 規格 (ボードサイズ：奥行き 145mm 以下)</td></tr>
<tr><td colspan="2">Security Chip</td><td colspan="6">Infineon SLB9635 TT V1.2</td></tr>
<tr><td rowspan="2">電源</td><td>周波数</td><td colspan="6">50/60Hz</td></tr>
<tr><td>入力電圧</td><td colspan="6">AC100V</td></tr>
<tr><td rowspan="3">消費電力</td><td>定常 (ヒント 1)</td><td>約 52W</td><td>約 91W</td><td>約 75W
(重要 1)
約 91W
(重要 2)</td><td>約 75W</td><td>約 83W</td><td>約 73W
(重要 1)
約 74W
(重要 2)</td></tr>
<tr><td>最大 (ヒント 5)</td><td colspan="6">230W</td></tr>
<tr><td>スタンバイ時
(ヒント 1)</td><td colspan="6">約 1.7W</td></tr>
<tr><td rowspan="2">省エネ法に
基づく表示
(2007 年度)</td><td>区分</td><td colspan="6">j</td></tr>
<tr><td>エネルギー
消費効率
(ヒント 6)</td><td>0.0011</td><td>0.0032</td><td>0.0029
(重要 1)
0.0034
(重要 2)</td><td>0.0029</td><td>0.0036</td><td>0.0037</td></tr>
<tr><td colspan="2">外形寸法 (ヒント 7)</td><td colspan="6">72.5(W) X 303(D) X 326(H) ㎜</td></tr>
<tr><td colspan="2">質量 (ヒント 1)</td><td colspan="6">約 6.7kg(スタンド含まず)</td></tr>
<tr><td rowspan="3">周囲温度</td><td>動作時 (重要 4)</td><td colspan="6">10 ～ 35 ℃</td></tr>
<tr><td>非動作時</td><td colspan="6">－ 10 ～ 43 ℃</td></tr>
<tr><td>保存および
輸送時</td><td colspan="6">－ 10 ～ 60 ℃</td></tr>
</table>

形名		330W DX1
周囲湿度	動作時 (重要 4)	20 ～ 80%Rh(結露しないこと)
	非動作時	20 ～ 80%Rh(結露しないこと)
	保存および輸送時	20 ～ 80%Rh(結露しないこと)
	最大湿球温度	25 ℃

ヒント

1：購入時の選択により異なります。
2：Windows の「システムのプロパティ」でメモリー容量を参照すると、ビデオメモリーを使用している分、小さく見える場合があります。

参照

・ メモリーボードの詳細について→ 7 章の「メモリーボードとメモリーボードソケットの組み合わせかた」(P.91)

3：65536 色は中 (16 ビット)、1677 万色は最高 (32 ビット) です。
ディスプレイによっては、1677 万色に設定しても 1677 万色以下になります。
4：電源を切ると、HDD のヘッドは自動的に待機領域に移動します。
HDD の容量は、1GB=10^9 バイトで計算した場合の数値を表しています。
5：パソコンの使用できる最大消費電力です。
6：エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を、省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。
7：パソコンスタンドや突起部は含みません。

ヒント

・ KB と kB の記載の単位は、K:1024、k:10^3 で換算しています。

重 要

1：PC2-5300 のメモリーを搭載しているモデルです。
パソコンの形名 (PC8DX1- ○○○●○○○○○○／ PC4DX1- ○○○●○○○○○○) の●部分が英字 (A ～ Z) です。

ヒント

・ 形名は、カバーの機器銘板に記載されています。

2：PC2-4200 のメモリーを搭載しているモデルです。
パソコンの形名 (PC8DX1- ○○○●○○○○○○／ PC4DX1- ○○○●○○○○○○) の●部分が数字 (0 ～ 9) です。

ヒント

・ 形名は、カバーの機器銘板に記載されています。

3：時計にはメインボードのリチウム電池を使っています。取り外さないでください。寿命で交換する場合は、お問い合わせ先にご連絡ください。
時刻誤差は、メインボードのリアルタイムクロックの数値です。Windows の時間とずれることがあります。
4：長時間の非動作時から動作させる場合は、周囲の温度や湿度になじむまで時間を置いてから起動してください。

ドライブとディスクの仕様

CD-ROM ドライブの仕様

項目	仕様
読み込み速度 ＊	最大 24 倍速
インタフェース	ATAPI
データ転送速度 (I/F 上)	最大 33MB/s(Ultra DMA mode2)
平均アクセスタイム	130ms
バッファーメモリー	96KB
ローディング方式	トレイローディング
読み込み可能ディスク	CD-ROM、CD-R、CD-RW
対応フォーマット	CD-DA、CD-ROM(mode1、mode2)、CD-ROM XA(mode2 の Form1、Form2)、Photo CD(マルチセッション)、Video CD、CD-Extra、CD-Text、CD-I

＊ ディスクの回転振動が大きい場合や高速での読み込みが困難な場合は、自動で回転速度を落とします。

重要

・ 使用する CD-ROM によって、専用ソフトが必要です。
・ CD-R/RW は、使用する条件によって正しく読み込めないことがあります。
・ 損傷したディスクを使用すると、ドライブ内部でディスクが破損する場合があります。ディスクに損傷がないことを確認し使用してください。

DVD-ROM ドライブの仕様

項目		仕様
読み込み速度 ＊	CD-ROM、CD-R、CD-RW	最大 24 倍速
	DVD-ROM DVD-R、DVD+R	最大 8 倍速
	DVD-RW、DVD+RW	最大 8 倍速
	DVD-RAM	最大 5 倍速
	DVD ± R DL	最大 8 倍速
インタフェース		ATAPI
データ転送速度 (I/F 上)		最大 33MB/s(Ultra DMA mode2)
平均アクセスタイム	CD-ROM	130ms
	DVD-ROM	140ms
バッファーメモリー		198KB
ローディング方式		トレイローディング
読み込み可能ディスク		CD-ROM、CD-R、CD-RW、DVD-ROM、DVD-R、DVD+R DVD-RW、DVD+RW、DVD-RAM、DVD+R DL、DVD-R DL
対応フォーマット		CD-DA、CD-ROM(Mode1)、CD-ROM XA(mode2 の Form1 、Form2)、Photo CD(シングル／マルチセッション)、Video CD、Enhanced CD、CD-Text、CD-I、CD-I Bridge、CD-I Ready、DVD-Video

＊ ディスクの回転振動が大きい場合や高速での読み込みが困難な場合は、自動で回転速度を落とします。

重要

- 使用するディスクによって、専用ソフトが必要です。
- CD-R/RW は、使用する条件によって正しく読み込めないことがあります。
- 特殊なフォーマットの DVD-ROM は正しく読み込めないことがあります。
- 損傷したディスクを使用すると、ドライブ内部でディスクが破損する場合があります。ディスクに損傷がないことを確認し使用してください。
- DVD ± R DL とは、片面 2 層 (8.5GB) のディスクです。

DVD-ROM&CD-R/RW ドライブの仕様

項目		仕様
読み込み速度	CD-ROM、CD-R、CD-RW	最大 24 倍速
	DVD-ROM	最大 8 倍速
	DVD-R、DVD+R	最大 8 倍速
	DVD-RW、DVD+RW	最大 8 倍速
	DVD-RAM (4.7GB/9.4GB)	最大 5 倍速
	DVD ± R DL	最大 8 倍速
書き込み速度	CD-R	最大 24 倍速
	CD-RW	最大 4 倍速
	High Speed CD-RW	最大 10 倍速
	Ultra Speed CD-RW	最大 24 倍速
インタフェース		ATAPI
データ転送速度 (I/F 上)		最大 33MB/s(Ultra DMA mode2)
平均アクセスタイム	CD-ROM	90ms
	DVD-ROM	110ms
バッファーメモリー		2MB
バッファーアンダーランエラー防止機能		あり
ローディング方式		トレイローディング
読み込み可能ディスク		CD-ROM、CD-R、CD-RW、High Speed CD-RW、Ultra Speed CD-RW、DVD-ROM、DVD-Video、DVD-RAM(2.6GB/4.7GB)、DVD-R、DVD+R、DVD-RW(Ver1.1/1.2)、DVD+RW
書き込み可能ディスク		CD-R、CD-RW、High Speed CD-RW、Ultra Speed CD-RW
対応フォーマット		CD-DA、CD-ROM(Mode1)、CD-ROM XA(mode2 の Form1 、Form2)、Photo CD(シングル／マルチセッション)、Video CD、Enhanced CD、CD-Text、CD-I、CD-I Bridge、CD-I Ready、DVD-Video
推奨ディスク	CD-R	太陽誘電製、三菱化学メディア製、リコー製、TDK 製、日立マクセル製
	CD-RW、High Speed CD-RW	三菱化学メディア製、リコー製、日立マクセル製
	Ultra Speed CD-RW	三菱化学メディア製

重要

- 使用するディスクによって、専用ソフトが必要です。
- CD-R/RW は、使用する条件によって正しく読み込めないことがあります。
- 推奨ディスク以外のディスクを使用すると書き込みエラーが発生することがあります。
- DVD-ROM ディスクは、ISO-9660 フォーマットのもの以外は使用できません。
- 特殊なフォーマットの DVD-ROM は正しく読み込めないことがあります。
- 損傷したディスクを使用すると、ドライブ内部でディスクが破損する場合があります。ディスクに損傷がないことを確認し使用してください。
- DVD ± R DL とは、片面 2 層 (8.5GB) のディスクです。

DVD スーパーマルチドライブの仕様

項目		仕様
読み込み速度 *1	CD-ROM、 CD-R、 CD-RW	最大 24 倍速
	DVD-ROM	最大 8 倍速
	DVD-Video	最大 4 倍速
	DVD ± R	最大 8 倍速
	DVD-RW	最大 6 倍速
	DVD+RW	最大 8 倍速
	DVD-RAM (4.7GB/9.4GB)	最大 5 倍速
	DVD ± R DL	最大 6 倍速
書き込み速度 *2	CD-R	最大 24 倍速
	High Speed CD-RW	最大 10 倍速
	Ultra Speed CD-RW	最大 16 倍速
	DVD ± R	最大 8 倍速
	DVD-RW	最大 6 倍速
	DVD+RW	最大 8 倍速
	DVD-RAM (4.7GB/9.4GB)	最大 5 倍速
	DVD ± R DL	最大 4 倍速
最低書き込み速度		CD-RW：4 倍速
インタフェース		ATAPI
データ転送速度 (I/F 上)		最大 Ultra DMA モード 2　33.3MB/s
平均アクセスタイム	CD-ROM	150ms
	DVD-ROM	180ms
バッファーメモリー		2MB
バッファーアンダーランエラー 防止機能		あり
ローディング方式		トレイ式 / 電動イジェクト
読み込み可能ディスク		CD-ROM、CD-R、CD-RW、High Speed CD-RW、 Ultra Speed CD-RW、DVD-ROM、DVD-Video、 DVD-R(4.7GB)、DVD-RW(Ver1.1/1.2)、DVD+R、 DVD+RW、DVD-RAM(1.4GB/2.6GB/4.7GB)
書き込み可能ディスク		CD-R、CD-RW、High Speed CD-RW、DVD-R(4.7GB) Ultra Speed CD-RW、DVD-RW(Ver1.1/1.2)、 DVD+R、DVD+RW、DVD-RAM(4.7GB)、DVD+R DL、 DVD-R DL
対応フォーマット		CD-DA、CD-ROM(Mode1、Mode2)、 CD-ROM XA(Form1、Form2)、CD-R、CD-RW、 Photo CD(マルチセッション)、Video CD、 CD Extra(CD+)、CD-text、 DVD-R(4.7GB for General)、DVD-RW(Ver1.1/1.2)、 DVD-RAM(1.4GB、4.7GB/ 面)

項目			仕様
推奨ディスク	CD-R		太陽誘電製、三菱化学メディア製、リコー製、日立マクセル製
	CD-RW		三菱化学メディア製、リコー製、日立マクセル製
	High Speed CD-RW		三菱化学メディア製、リコー製、日立マクセル製
	Ultra Speed CD-RW		三菱化学メディア製
	DVD-R	(4 倍速)	太陽誘電製、三菱化学メディア製、TDK 製、SONY 製、日立マクセル製
		(8 倍速)	太陽誘電製、三菱化学メディア製、TDK 製、SONY 製、日立マクセル製
		(16 倍速)	太陽誘電製、三菱化学メディア製、TDK 製、SONY 製、日立マクセル製
	DVD-RW	(2 倍速)	ビクター製、三菱化学メディア製、TDK 製、日立マクセル製、
		(4 倍速)	ビクター製、三菱化学メディア製、TDK 製、日立マクセル製、
		(6 倍速)	ビクター製、三菱化学メディア製、日立マクセル製
	DVD+R	(4 倍速)	太陽誘電製、三菱化学メディア製、リコー製、TDK 製、SONY 製、日立マクセル製
		(8 倍速)	太陽誘電製、三菱化学メディア製、リコー製、TDK 製、SONY 製、日立マクセル製
		(16 倍速)	太陽誘電製、三菱化学メディア製、リコー製、TDK 製、SONY 製、日立マクセル製
	DVD+RW	(2.4 倍速)	三菱化学メディア製、リコー製、日立マクセル製
		(4 倍速)	三菱化学メディア製、リコー製、SONY 製、日立マクセル製
		(8 倍速)	三菱化学メディア製、リコー製、日立マクセル製
	DVD-RAM	(3 倍速)	松下電器産業製、日立マクセル製
		(5 倍速)	松下電器産業製、日立マクセル製
	DVD+R DL	(2.4 倍速)	三菱化学メディア製、リコー製、日立マクセル製
		(8 倍速)	三菱化学メディア製、リコー製
	DVD-R DL	(4 倍速)	三菱化学メディア製
		(8 倍速)	三菱化学メディア製

*1：ディスクの回転振動が大きい場合や高速での読み込みが困難な場合は、自動で回転速度を落とします。

*2：最大速度で書き込むためには、その書き込み速度に対応したディスクをお使いください。

- 使用するディスクによって、専用ソフトが必要です。
- CD-R/RW は、使用する条件によって正しく読み込めないことがあります。
- 特殊なフォーマットの DVD-RAM は正しく読み込めないことがあります。
- DVD ± R DL への媒体へデータを追記し、DVD ± R DL 未対応のドライブで読み込むと、追記したデータが読み込めないことがあります。
- 本ドライブで記録した DVD ± R DL の媒体は、ほかのドライブで読めないことがあります。
- カートリッジ式のディスクは、カートリッジから取り外した状態でのみ使用可能です。
- ノンカートリッジまたはカートリッジから取り出すことができる DVD-RAM のみ使用できます。DVD-RAM TYPE1 は、カートリッジから取り出せないため使用できません。
- 損傷したディスクを使用すると、ドライブ内部でディスクが破損する場合があります。ディスクに損傷がないことを確認し使用してください。
- 本ドライブは、4 倍速書き込み以上の CD-RW ディスクに対して、書き込み (消去を含む) が可能です。2 倍速書き込みディスクなど、4 倍速未満のディスクは書き込み (消去を含む) が行えません。
- 推奨ディスク以外のディスクを使用した場合、正常に動作しないことがあります。
- DVD-RAM(12 倍速) のメディアへの書き込みはできません。(読み取りのみ可能)
- DVD-RAM(2 倍速 /3 倍速 /5 倍速) のフォーマットを UDF2.5 で実施した場合、UDF2.5 をサポートしている装置 (ドライブ、OS) 以外では読み取り / 書き込みができません。
- DVD ± R DL とは、片面 2 層 (8.5GB) のディスクです。

重要

- 特殊なフォーマットの FD は使用できないことがあります。
- 弊社製以外のパソコンでフォーマットした FD は、読み書きができないことがあります。
- 1.25MB の FD はフォーマットできません。

2HD

容量	1.44MB	1.25MB
トラック数／面	80	77
セクター長（バイト）	512	1024
セクター数／アロケーションユニット	1	1
リザーブセクター数	1	1
FAT 数	2	2
ルートディレクトリー登録総数	224	192
総セクター数	2880	1232
メディア･ディスクリプタバイト	F0	FE
セクター数／ FAT	9	2
セクター数／トラック	18	8
ヘッド数	2	2
隠しセクター	0	0
動作	R/W/F/B ＊	R/W ＊

＊ 意味は次のとおりです。R：読み込み可能、W：書き込み可能、F：フォーマット可能、B：FD にシステムがある場合、その FD からのパソコンの立ち上げ可能

2DD

容量	720KB
トラック数／面	80
セクター長（バイト）	512
セクター数／アロケーションユニット	2
リザーブセクター数	1
FAT 数	2
ルートディレクトリー登録総数	112
総セクター数	1440
メディア･ディスクリプタバイト	F9
セクター数／ FAT	3
セクター数／トラック	9
ヘッド数	2
隠しセクター	0
動作	R/W/F/B ＊

＊ 意味は次のとおりです。R：読み込み可能、W：書き込み可能、F：フォーマット可能、B：FD にシステムがある場合、その FD からのパソコンの立ち上げ可能

ドライブの使用について

CD/DVD ドライブ、FDD ドライブ (以下、まとめてドライブ) と、それらのディスクの使用について説明します。

ドライブの取り扱い

・ドライブ使用中に振動を与えないでください。データを正しく読み込めないことがあります。
・パソコンの電源を切るときは、必ずディスクを取り出してからにしてください。ディスクを内蔵ドライブに入れたまま誤ってパソコンの電源を切ったときは、再び電源を入れて取り出してください。
・ディスク強制イジェクトスイッチを使うときは、内蔵ドライブの内部に異物が入らないようにしてください。
・ディスクが偏重心している場合（ラベルをはっている場合など)、ドライブの振動が通常より大きくなることや、読み込みスピードが遅くなることがあります。
・パソコンの電源を切ったり、ソフトウェアリセット ([Ctrl] キーと [Alt] キーを押したまま [Delete] キーを押す) を行うときは、ドライブのアクセスランプが消えてから行ってください。
・ドライブのアクセスランプの点灯、点滅中に電源を切ったり、ソフトウェアリセットを行うと、ドライブが壊れることがあります。
・ドライブは、10 ～ 35 ℃の温度環境で使用できますが、長くお使いいただくためには 30 ℃以下の場所でお使いください。
・ドライブの使用中に強い衝撃を与えないでください。
・ディスクを入れたり取り出したりするとき以外に、ドライブのトレイを開けないでください。
・トレイの中に異物を入れないでください。ドライブが破損し、故障の原因になります。
・ディスクに書き込み可能なドライブの場合、書き込み中にディスクに傷や汚れを検出すると、書き込みを中断することがあります。
・FDD など、データの転送速度が遅いディスクドライブからディスクに書き込みを行うときは、テスト書き込みを行ってください。
・ディスクに書き込み可能なドライブの場合、ディスクにデータを書き込む時は、ほかのアプリケーションを終了してください。書き込み中も、ほかのアプリケーションを立ち上げないでください。データが壊れることがあります。
・WAVE ファイル、AVI ファイルなどの音声を再生中に、FD に書き込み、読み込みを行うと音声が繰り返して再生されることがあります。
・コマンドプロンプトで、1.25MB の FD は使用できません。Windows でお使いください。
・FDD の場合、未フォーマットなどのディスクに対してアクセスを行うと、ディスクを認識するまでに時間がかかります。このため、フォーマットに時間がかかることがあります。動作は正常ですのでしばらくお待ちください。
・トレイの開閉は、勢いよくすると HDD の故障の原因になります。ゆっくり開閉してください。

ディスクの取り扱い

・ディスクをお手入れするときは、乾いた柔らかい布でディスクの中心から外周に向けて放射状に拭いてください。このとき、ベンジン、シンナー、水、レコードクリーナー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。
・ディスクからゴミや水分を取り除くのにドライヤーは使わないでください。
・ディスクは次のような場所に保管してください。
保管温度：-10 ℃～ 60 ℃
保管湿度：10 ～ 95%Rh(結露しないこと)
・ディスクを折ったり曲げたりしないでください。
・ディスクに字を書いたり傷を付けないでください。
・ディスクにラベルなどをはると、ドライブ内での回転が不安定になり故障の原因になります。
・お子様がディスクを傷つけたりしないよう、ディスクはお子様の手の届かないところに保管してください。
・ディスクの書き換え可能回数は 1000 回です。1000 回以上使用した場合は、書き込みエラーが発生することがあります。

DVD-RAM ディスクの取り扱い

・DVD-Video の再生は添付の再生ソフトをインストールしてから行ってください。
・UDF フォーマットした DVD-RAM に [コマンドプロンプト] の chkdsk コマンドあるいは [マイコンピュータ] や [エクスプローラ] の [エラーチェック] は使用できません。
・Windows が動いている間に DVD-RAM/R ドライブのイジェクトボタンを押しても DVD-RAM を取り出すことができない場合があります。その場合、[マイコンピュータ] や [エクスプローラ] を使用します。デバイスにマウスカーソルを置いて、マウスの右ボタンをクリックし、メニューの [取り出し] をクリックします。ただし、この操作は Administrators グループに登録されていないメンバーは実行できません。
・DVD-RAM/R ドライブのイジェクトボタンを押して DVD-RAM を取り出した場合、次に DVD-RAM を挿入したあとの最初の読み書きがエラーになることがあります。その場合、再度アクセスしてください。

FD の取り扱い

・FD のシャッター部は開けないでください。内部の磁性面が汚れると使えなくなります。磁石やスピーカーなどの強い磁界を発生するものに FD を近づけると、記録したデータが消去するおそれがあります。
・FD は次のような場所に保管してください。
保管温度：4 ℃～ 53 ℃
保管湿度：10 ～ 90%Rh(結露しないこと)
最大湿球温度：25 ℃
・FD ラベルは正しい位置にはってください。ラベルを替えるときは、重ねばりをしないでください。
・FD は消耗品です。同じ FD を長期間使用しないでください。
・大切なデータは必ずバックアップを取ってください。また、バックアップ FD はバックアップ以外の目的に使わないでください。

その他の周辺機器の仕様

ここでは、メモリーボードの仕様について説明します。

メモリーボードの仕様

メモリーボードは、パソコンの形名によって仕様が異なります。混在して使用しないでください。

PC2-5300 の場合

項目	仕様		
形名	MB5256T	MB5512T	MB51024T
容量	256MB	512MB	1024MB
パリティ	なし		
DRAM タイプ	DDR2 SDRAM、PC2-5300		
DIMM タイプ	240 ピン		
電源電圧	1.8V ± 0.1V		

ヒント

・ メモリーボードの使用環境はパソコンと同じです。
・ 弊社サポート以外のメモリーボードを取り付けた場合は、保証対象外になります。
・ Celeron モデルでは、PC2-4200 で動作します。
・ パソコンの形名 (PC8DX1-○○○●○○○○○／ PC4DX1-○○○●○○○○○) の●部分が英字 (A ～ Z) 用のメモリーボードです。
・ 形名は、カバーの機器銘板に記載されています。

PC2-4200 の場合

項目	仕様		
形名	MB5256P	MB5512P	MB51024P
容量	256MB	512MB	1024MB
パリティ	なし		
DRAM タイプ	DDR2 SDRAM、PC2-4200		
DIMM タイプ	240 ピン		
電源電圧	1.8V ± 0.1V		

ヒント

・ メモリーボードの使用環境はパソコンと同じです。
・ 弊社サポート以外のメモリーボードを取り付けた場合は、保証対象外になります。
・ パソコンの形名 (PC8DX1-○○○●○○○○○／ PC4DX1-○○○●○○○○○) の●部分が数字 (0 ～ 9) 用のメモリーボードです。
・ 形名は、カバーの機器銘板に記載されています。

有寿命部品

本製品には、有寿命部品（液晶、ハードディスク、電源、ファンなど）が使用されています。これら部品の交換時期の目安は使用頻度や使用条件によって異なります。次の一覧表の期間はあくまでも目安であり、故障しないことや無償修理をお約束するものではありません。長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期に部品交換が必要となる場合があります (有償)。

有寿命部品のご購入については、お買い求め先にご連絡ください。なお、交換した部品は、パソコン購入時の部品と仕様が異なる場合があります。

品 名	備 考
HDD ユニット	*1
FD ユニット	*1、2
キーボード	*1
マウス	*1、2
CPU 冷却ファン	*1
メインボード	*1、3
電源ユニット	
CD-ROM ドライブ	*4
DVD-ROM ドライブ	
DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ	*5
DVD スーパーマルチドライブ	*6
リチウム電池	*7

*1 事務室で 1 日に 8 時間、1 カ月で 25 日間、通常に使用すると想定した場合、設計寿命は約 5 年です。したがって、使用時間が上記より長い場合は、その分寿命は短くなります。

*2 定期的にクリーニングして、清潔に保った場合。

*3 使用しているアルミ電解コンデンサーは寿命のある部品です。

*4 事務室で 1 日に 2 時間、1 カ月で 25 日間、ドライブを使用すると想定した場合、設計寿命は約 5 年です。したがって、使用時間が上記より長い場合は、その分寿命は短くなります。

*5 事務室で 1 日に 1 時間 20 分、1 カ月で 25 日間、データを読み書きすると想定した場合、設計寿命は約 5 年です。したがって、使用時間が上記より長い場合は、その分寿命は短くなります。

*6 事務室で 1 日に 2 時間、1 カ月で 25 日間、データを読み書きすると想定した場合、設計寿命は約 5 年です。したがって、使用時間が上記より長い場合は、その分寿命は短くなります。

*7 寿命は約 5 年です。

⚠注意

・ アルミ電解コンデンサーについて：
パソコンに使用しているアルミ電解コンデンサーは、有寿命部品です。設計寿命は、1 日に 8 時間、1 カ月で 25 日間使用で約 5 年です。寿命になると電解液の漏れや枯渇が生じます。特に、電源ユニットでの電解液の漏れは、発煙･感電の原因になることがあります。これらの危険を避けるために、設計寿命を越えて使用する場合は、有寿命部品単位で交換してください。また、業務用など昼夜連続運転相当では 5 年より寿命は短くなります。

24 時間以上の連続使用について

・ 本製品は 24 時間以上の長時間連続使用を前提とした設計にはなっておりません。
長期連続使用や安定稼動のため部品予防交換が必要な場合は、製品ご購入時にご相談ください。

オプション一覧表

パソコンに増設または接続できるオプションを次に示します。

オプション機器は随時、生産中止、新製品発表などがありますのでご購入の際は、営業などにお問い合わせください。

分類	品名	形名	仕様	
ディスプレイ	アナログ液晶ディスプレイ装置	DTA15AXGS	15 型 TFT カラー液晶	*1
		DTA17BSXN	17 型 TFT カラー液晶	*1
		DTA19ASXS	19 型 TFT カラー液晶	*1
	デジタル / アナログ共用液晶ディスプレイ装置	DTW17ASXS	17 型 TFT カラー液晶	*1
メモリー	メモリーボード	MB5256T	256MB DDR2 SDRAM PC2-5300	*2、4
		MB5512T	512MB DDR2 SDRAM PC2-5300	*2、4
		MB51024T	1024MB DDR2 SDRAM PC2-5300	*2、4
		MB5256P	256MB DDR2 SDRAM PC2-4200	*3、4
		MB5512P	512MB DDR2 SDRAM PC2-4200	*3、4
		MB51024P	1024MB DDR2 SDRAM PC2-4200	*3、4
外付け指静脈認証装置	外付け指静脈認証装置	SKC8100	USB cable 1.8m	
外付けファイル装置	増設 DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ	FV8200A	USB I/F	

重要

・ この一覧表以外のオプションは、使用しないでください。正しく動かないことがあります。

*1 ： リフレッシュレートは自動で設定される最適値をご使用ください。変更した場合は、画面が正常に表示されない場合があります。

*2 ： パソコンの形名 (PC8DX1- ○○○●○○○○○○／ PC4DX1- ○○○●○○○○○○) の●部分が英字 (A ～ Z) モデル専用オプションです。

*3 ： パソコンの形名 (PC8DX1- ○○○●○○○○○○／ PC4DX1- ○○○●○○○○○○) の●部分が数字 (0 ～ 9) モデル専用オプションです。

*4 ： パソコンの形名により、搭載可能なメモリーボードの仕様が異なります。仕様の異なるメモリーボードを混在して使用しないでください。ご購入の際は、搭載するパソコンの形名を確認してください。

重要事項

ここでは、パソコンおよび周辺機器の使用環境、使用方法における制限内容をまとめてあります。

パソコンおよび周辺機器を使用する環境について

・寒い場所では、室温を動作時周囲温度まで上げたあと 20 ～ 30 分経過してからお使いください。
・暑い場所では、しばらく空調などを使用し室温が一定になってからお使いください。
・直射日光の当たる場所や、ストーブなど発熱する器具の近くでは使用しないでください。
・ほこりが極端に多い場所では、使用しないでください。
・極端に高温、低温の場所、または温度変化が激しい場所では使用しないでください。また、湿度が極端に高い場所では、使用しないでください。
・腐食性ガス (特に亜硫酸ガス、硫化水素、塩素ガス、アンモニアガスなど) や塩分を多量に含む空気、油煙などが発生する場所に設置しないでください。このような場所では、パソコンおよび周辺機器の表面を化学的に腐食することにより、電子部品の接触抵抗が増加したり、可動部品の構造がもろくなり、パソコンおよび周辺機器の信頼性が著しく低下します。
・パソコンを使用する場所の近くで落雷が発生したり、電源の供給状態が悪い場合、使用中に瞬時停電や電圧低下が発生し、突然ディスプレイの表示が消えることがあります。
このときは、一度パソコンの電源を切って立ち上げ直してください。

参照

・ 最適な湿度について→「パソコン仕様一覧」(P.104)

パソコンおよび周辺機器の取り扱いについて

・ハードウェアの故障に伴うデータやアプリケーションの破損については、補償いたしかねます。あらかじめご了承ください。
・Windows の立ち上げ中や使用中に強制終了すると、次回立ち上げ時にチェックプログラムが動くことがあります。異常がない場合は、そのあと正常に Windows が立ち上がりますが、異常がある場合は HDD をフォーマットしないとパソコンが使用できない場合もあります。
・パソコンは精密な電子部品で製造されていますので、衝撃を与えないでください。
・磁石やスピーカーなどの強い磁気を発生するものを近づけると、パソコンおよび周辺機器の故障の原因になります。
・ディスプレイを背中合わせに設置したり並べて配置する場合は、互いに少し離して配置してください。
・マウスは耐外来ノイズ性能が劣ります。マウスが誤動作する場合は、パソコンおよびその周辺機器の電源を同一のノイズフィルター付き OA タップからとることをお勧めします。
・マウスの内部に異物などが入ったときは、取り除いてください。異物が入るとボールがなめらかに動かなくなります。
・電源を一度切ったら、再度電源を入れるまで、必ず 20 秒以上経過してからにしてください。20 秒以上経過しないと、パソコンが立ち上がらないことがあります。
・煙霧状の殺虫剤などを使用するときは、事前にビニールシートなどでパソコンを完全に包んでください。
・じゅうたんのある部屋でパソコンを使用したり、パソコンの使用中にひざ掛けなどを使用すると、それらの材質によっては静電気が発生し、パソコンおよび周辺機器に悪影響を及ぼす場合があります。静電気の発生しにくい材質のものをお使いください。

DVD スーパーマルチドライブについて

・本 DVD スーパーマルチドライブ以外で UDF フォーマットした DVD-RAM ディスクをご使用になる場合、次の状態になることがあります。
　・DVD スーパーマルチドライブのプロパティーで、「ファイルシステム」に「不明」あるいは「未フォーマット」と表示されます。
　・テキストファイルをメモ帳で開けない場合があります。
　このような状態になった場合、DVD-RAM ディスク内のファイルを直接編集せずに、ハードディスクへコピーして編集し、別の DVD-RAM ディスクへ保存してください。
・NTFS でフォーマットされた DVD-RAM ディスクをライトプロテクトすると、マイコンピュータなどで DVD-RAM ディスクを開くことができなくなります。ライトプロテクトを解除してご使用ください。
・2.6GB DVD-RAM ディスクへの書き込みはできません。

通信について

・通信中や、CD/DVD ドライブ、FDD の読み込み、書き込み中には、パソコンの電源を切ったりソフトウェアリセットを行わないでください。
・LAN で通信するときは、接続する HUB と通信モード (速度や全二重／半二重の設定) を合わせてください。一致していないと正しく通信できず、パソコンが正しく立ち上がらないこともあります。標準では、自動的に通信モードを認識できるよう設定されていますので、通信モードを設定する必要はありません。
ただし、接続する HUB にオートネゴシエーション機能がない場合は、通信モードを設定してください。

光学式マウスについて

・光学式マウスの底面から発せられる赤い光を直接見ると、眼を痛める場合があります。赤い光を直接見ないでください。
・センサー部分を汚したり、傷をつけないでください。
・光学式マウスをご使用のときは、光学式マウスに適したマウスパッドをご使用することをお勧めします。次のような表面では正しく動作しない場合があります。
・鏡やガラスなど反射しやすいもの
・光沢があるもの（研磨した金属、ラミネート光沢紙、プラスチック）
・濃淡のはっきりした縞模様や柄もの
・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
（正目の木材、畳、立体画像用フレネルレンズ付マウスパッド）

ディスプレイについて

・液晶の特性上、表示するパターンによっては、画面がちらつくことがあります。
・長時間同一パターンを表示していると、画面が変ったときにも前のパターンが薄く見えることがあります。これは時間が経過すると消えます。
・パソコンの使用温度範囲は、10 ℃～ 35 ℃です。10 ℃未満の環境でご使用になると画面が暗くなったり、表示できなくなったりします。10 ℃以上のところで、電源を入れ直してください。
・長時間継続してご使用になると、液晶の温度上昇によりコントラストに少し変わったムラが出ることがあります。これは温度が下がると元に戻ります。
・ディスプレイ表面に水滴や指紋が付いたときは、すぐに拭き取ってください。
・多色表示を実現させるため、また液晶の構造上、上方向から見えにくくなっています。
ディスプレイ部を見やすい角度にしてご使用ください。
・電源を入れたとき、節電機能に移行するとき、節電状態から復帰するとき、表示が一瞬乱れることがあります。

HDD の容量表示について

HDD は、高密度な磁気ディスクにデータを保存する精密機器です。磁気ディスクには微小な欠点があり、これらの領域にはデータを書き込まないようになっています。
HDD のエラーチェックプログラムを実行すると、「不良セクタ」もしくは「スキップセクタ」が表示されることがあります。これは、データを書き込まない領域を表示しているだけで、HDD の不良ではありません。
取り付けられている内蔵 HDD の容量と、エラーチェックプログラム実行時に表示される「全ディスク容量」との関係は次のとおりです。内蔵 HDD が複数のパーティションに分割されている場合は、各領域の合計値です。この場合、合計値が次の値以下になる場合があります。
なお、＊は「パソコン仕様一覧」(P.104) の「 HDD 」の項目をご参照ください。

内蔵 HDD 容量	全ディスク容量の表示
＊ GB	＊× 1000000000 バイト以上

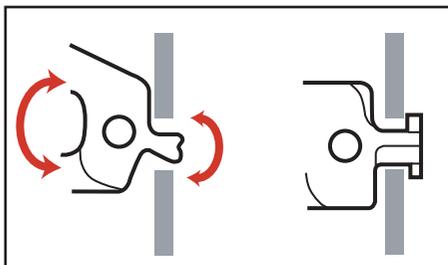
HDD の取り扱いについて

・電源を切るときは、必ず [スタート] ボタンから Windows を終了してください。
・緊急停止する場合は、[Ctrl] キーと [Alt] キーを押しながら、[Delete] キーを押し、パソコンをリセットしてください。リセットできない場合は、パソコンの電源を切ります。ただし、この場合、パソコンの再インストールが必要になる場合があります。
・定期的にチェックディスクを実施することをお勧めします。
HDD のプロパティの [ツール] タブをクリックし、[エラーチェック] より実行できます。
詳しい使い方は、Windows のヘルプをご参照ください。

HDD パスワードについて

・HDD パスワードを設定してある HDD は、他の HDD パスワードを設定したパソコンや、HDD パスワードを設定していないパソコンに接続しても、使用できません。
・HDD パスワードを忘れた場合、パスワード解除やデータ復元はできません。ご注意ください。
・ハードディスクの処理や調査・交換が発生した場合は、必ずパスワードを解除してください。パスワードが解除されていないと保守対応できません。

盗難防止用ロック取り付け穴について

・盗難防止用ロック取り付け穴の形状は、明確な規格が存在しておらず、市販されている一部の盗難防止用ロックは、本製品で使用できない場合があります。盗難防止用ロックをご購入前に、本製品で使用可能かご確認ください。
次のイラストのように、取り付ける時にフックを可動させるタイプの場合、本製品では使用できない場合があります。

10 章　使い勝手を調節する

この章では、マウスの調整など、パソコンを使いやすくする方法を説明します。

マウスを調整する

ダブルクリックの速度や、マウスポインターの動く速さなど、マウスの設定を調整します。設定は、[マウスのプロパティ] で変更します。

[マウスのプロパティ] を開く

1 **[スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックする。**

[コントロールパネル] 画面が表示される。

ヒント

・ [コントロールパネル] は、「クラシック表示」で説明しています。

2 **[マウス] アイコンをダブルクリックする。**

[マウスのプロパティ] 画面が表示される。

[マウスのプロパティ] で調節できる主な設定

・ クリックボタンの左右の機能を入れ替えたり、ほかの機能を割り当てる ([ボタンの動作] タブ)
・ ダブルクリックの速度を変える ([ボタン] タブ)
・ マウスカーソルの速度を変える ([動作] タブ)

ダブルクリックの速度を変える

1 **[マウスのプロパティ] の [ボタン] タブをクリックする。**

2 **[ダブルクリックの速度] の を [遅く] または [速く] の方向にドラッグする。**

3 **フォルダーアイコンをダブルクリックする。**

変更した速さでダブルクリックすると、フォルダーアイコンが開く。

4 **[OK] ボタンをクリックする。**

ダブルクリックの速度が変わる。

マウスポインターの動く速さを変える

1. [マウスのプロパティ] の [ポインタオプション] タブをクリックする。

2. [速度] の を [遅く] または [速く] の方向にドラッグする。

   マウスポインターの動く速さが変わります。

3. [OK] ボタンをクリックする。

   指定したマウスポインターの動く速さに設定される。

文字を入力する

日本語入力をオン／オフする

文字には半角文字と全角文字があります。半角文字は直接入力することができますが、全角文字を入力するには、日本語入力をオンにします。

ヒント

・ 半角（英数字）文字：
abcdefg1234 ・・・・・
・ 全角（日本語）文字：
ａｂｃｄｅｆｇ あいうえお日本語・・・・・

・[半角／全角] キーを押す。
・IME タスクバーの［あ］または［A］をクリックし、[ひらがな] または [直接入力] をクリックする。

特殊文字を入力する

ツールバーの アイコン [IME パッド] をクリックし、[文字一覧] をクリックして表示させる。

ローマ字／かな入力を切り替える

[Alt] キーを押したまま [カタカナ ひらがな] キーを押す。
押すたびに、ローマ字入力とかな入力が交互に切り替わります。
かな入力のときは、MS-IME のツールバーの右に [KANA] と表示されます。

キー上の文字を打ち分ける

文字を打ち分けるには、[Shift] キーを使います。

[Shift] キーを押しながら文字キーを押す

上の段の文字を入力できます。
文字キーをそのまま押すと下の段の文字を入力できます。
アルファベットが刻印されているキーは大文字と小文字が切り替わります。

[Shift]キーを押しながら、［＾］［＼］キーを押す

それぞれ、" ～ " や " ＿ " の記号が入力できます。

英大文字と英小文字を切り替える

完全に切り替える [Caps Lock] キー

・ Caps Lock をオンにすると大文字を入力できます。
・ Caps Lock をオン／オフするには、[Shift] キーを押したまま [Caps Lock] キーを押します。

一時的に切り替える [Shift] キー

・ Caps Lock がオフの状態で [Shift] キーを押すと、押している間は大文字を入力することができます。
・ Caps Lock がオンの状態で [Shift] キーを押すと、押している間は小文字を入力することができます。

ヒント

・ 言語バーのヘルプボタンをクリックし、[目次とキーワード] をクリックすると、文字の入力や変換方法の詳しい解説が参照できます。

ディスプレイの表示を変える

ディスプレイの表示を細かく設定することで見やすく目の疲れにくい画面表示にできます。設定は、[画面のプロパティ] で行います。

[画面のプロパティ] の開き方

1 **[スタート] ボタン－[コントロールパネル] をクリックする。**

[コントロールパネル] が開く。

ヒント

・ [コントロールパネル] は、「クラシック表示」で説明しています。

2 **[画面] アイコンをダブルクリックする。**

[画面のプロパティ] が表示される。

画面の領域、色、フォントの設定

重 要

・ 設定はアプリケーションを終了させてから行ってください。実行中に行うと、正しく動作しないことがあります。

ヒント

・ [デスクトップ] タブでデスクトップの背景を変更できます。

1 **[画面のプロパティ] の [設定] タブで、画面の解像度や画面の色を、[デザイン] タブでフォントサイズを設定する。次の表の組み合わせに従い設定後、[適用] ボタン、[OK] ボタンをクリックする。**

画面の解像度	画面の色 ＊ 1	フォントサイズ (DPI 設定)
800 × 600	中 (16 ビット)	標準＊ 2 小さいフォント 特大フォント その他
	最高 (32 ビット)	
1024 × 768 ＊ 2	中 (16 ビット)	
	最高 (32 ビット) ＊ 2	
1280 × 1024	中 (16 ビット)	
	最高 (32 ビット)	
1600 × 1200	中 (16 ビット)	
	最高 (32 ビット)	

＊ 1: 中 (16 ビット) は 65536 色、最高 (32 ビット) は 1677 万色です。ただし、ディスプレイによっては、最高 (32 ビット) に設定しても実際は 1677 万色以下になります。

＊ 2: 工場出荷時のパソコンは、この値に設定されています。

ヒント

・ この設定は、ディスプレイ付属のマニュアルもご参照ください。

2　**以降、表示されるメッセージに従って操作する。**

画面の表示が設定される。

ヒント

- 表示モードによってはディスプレイの表示領域の位置やサイズが異なります。ディスプレイ側で画面を調整してください。調整の方法については、ディスプレイ付属のマニュアルをご参照ください。
- アプリケーションによっては、スクロールしたりウィンドウの移動を行ったりしたときに表示の一部が欠けたり乱れたりすることがあります。この時は再表示してください。

リフレッシュレートの設定

必要に応じてディスプレイのリフレッシュレートを設定できます。リフレッシュレートとは、1 秒間にディスプレイの画面を書き換える回数を指します。この数値が高いほどちらつきが少なく、目に負担を与えない画面表示になります。

ヒント

- 「使用するディスプレイの設定」で設定したディスプレイによってリストの内容は異なります。
- リフレッシュレートの設定は、ディスプレイに付属のマニュアルもご参照ください。

重 要

- ディスプレイの種類によっては、指定したリフレッシュレートにならない場合があります。
- ディスプレイが対応していないリフレッシュレートには設定しないでください。
- リフレッシュレートの設定は、アプリケーションを終了させてから行ってください。アプリケーションを終了していない状態で設定を行うと、正しく動作しないことがあります。
- ディスプレイによっては、リフレッシュレートを変更すると、画面が正しく表示されない場合があります。その場合、リフレッシュレートは、自動で設定される最適値でご使用ください。

1　**[画面のプロパティ] の [設定] タブで、[詳細設定] ボタンをクリックし、プロパティーを開く。**

2　**[モニタ] タブの [モニタの設定] でリフレッシュレートを選択し、[OK] ボタンまたは、[適用] ボタンをクリックする。**

3　**[モニタの設定] が表示されるので [はい] ボタンをクリックする。**

リフレッシュレートの詳細な設定についてはディスプレイに付属のマニュアルをご参照ください。

ビデオメモリーの容量を増やす

BIOS メニューの設定で、ビデオメモリーの容量を増やすことができます。

ヒント

- BIOS メニューにより、ビデオメモリー容量の最大値（128、256MB、Maximum DVMT）を変更可能です。ただし搭載されるメモリーの容量が 256MB の場合は 256MB には変更できません。
- 搭載されるメモリー容量が 256 ～ 768MB のときは、Maximum DVMT は、選択できません。
- 出荷時設定は 128MB 固定となります。
- Maximum DVMT とは、ビデオメモリー容量の最大値をドライバーで制御する設定です。
- ビデオメモリー容量最大値とは、ビデオメモリーが使用する範囲の上限を定めたものです。
- 使用されるビデオメモリー容量は、自動的に可変しながら Windows が必要とする分使用します。

重要

- ビデオメモリーは、メインメモリーと共用です。ビデオメモリーの容量を増やすと、メインメモリーで使用できるメモリー容量は減ります。
- ディスプレイによっては、電源を入れても画面表示に時間がかかり、「HITACHI」ロゴやメッセージを表示されない場合があります。この場合、BIOS メニューを立ち上げるには、パソコンの電源を入れてから、約 10 秒間 [Delete] キーを押し続けてください。しばらくすると、BIOS メニューが表示されます。
なお、「Boot Settings Configuration」画面で、[Boot Logo Show] を [Long] に設定すると改善できる場合がありますが、パソコンの立ち上げ時間が若干長くなります。
- マニュアルで説明している項目以外の設定は、変更しないでください。

1 パソコンの電源を入れ、BIOS を立ち上げる。

BIOS メニューが表示される。

参照

- BIOS の立ち上げ方法→「BIOS メニューを表示する」（P.136）

2 [←]、[→] キーで [Advanced] を選択する。

[Advanced] 画面が表示される。

3 [↑]、[↓] キーで [Chipset] を選び、[Enter] キーを押す。

4 [↑]、[↓] キーで [DVMT/FIXED Memory] を選び、[Enter] キーを押す。

5 [↑]、[↓] キーで設定したいビデオメモリー容量を選び、[Enter] キーを押す。

6 [F10] キーを押す。

設定内容の保存確認のメッセージが表示される。

ヒント

- [F10] キーを押しても確認メッセージが表示されない場合は、次の手順を行ってください。
  1　[←]、[→] キーで [Exit] を選ぶ。
  2　[↑]、[↓] キーで [Exit & Save Changes] を選び、[Enter] キーを押す。

7 [Ok] を選び、[Enter] キーを押す。

設定した内容が保存され、パソコンが立ち上げ直される。

音量を調整する

ここでは Windows の音量を調整する方法を説明します。

ヒント

・ ディスプレイ内蔵のスピーカーの調整方法は、ディスプレイに同梱のマニュアルをご参照ください。外部スピーカーを接続している場合は、外部スピーカーのマニュアルもあわせてご参照ください。

重要

・ Windows やソフトウェアの音量を調整しても、ディスプレイ内蔵スピーカーや外部スピーカーの音量が最低になっていると、音が出ません。それらの音量も調整してください。
・ [マスタ音量] オプションメニューの [プロパティ] − [表示するコントロール] に表示される [Front] および [Rear] の設定値は変更しないでください。

[音量] アイコンで調整する

1 タスクバーの [音量] アイコンをクリックする。

[音量] を調整するスライドバーが表示される。

2 スライドバーを上下にドラッグして、音量を調整する。

ヒント

・ [ミュート] にチェック (☑) が付いていると、音が鳴りません。

[マスタ音量] で調整する

Windows の [マスタ音量] を使うと、CD プレーヤーの音量や、録音レベルも調整できます。

1 タスクバーの [音量] アイコンをダブルクリックする。

[マスタ音量] 画面が表示される。

ヒント

・ [スタート] ボタン − [すべてのプログラム] − [アクセサリ] − [エンターテイメント] − [ボリュームコントロール] の順にクリックしても、[マスタ音量］ 画面が表示できます。

2 音量やバランスを調整したい箇所のスライドバーをドラッグする。

ヒント

・ Windows Media Player を使用して音楽 CD を再生している場合、［マスタ音量］ 上では、CD の音量も「WAVE」のスライドバーで調節します。「CD プレーヤー」のスライドバーでは音量調節ができません。
・ [ミュート] にチェック (☑) が付いていると、音が鳴りません。

タスクバーに［音量］アイコンが表示されていないときは

1 **［スタート］ボタン－［コントロールパネル］をクリックする。**

［コントロールパネル］画面が表示される。

ヒント

・［コントロールパネル］は、「クラシック表示」で説明しています。

2 **［サウンドとオーディオデバイス］アイコンをダブルクリックする。**

［サウンドとオーディオデバイスのプロパティ］画面が表示される。

3 **［音量］タブの「タスクバーに音量アイコンを配置する」にチェックを付け、［適用］ボタンを押す。**

4 **[OK] ボタンをクリックする。**

マイクの感度を調整する

1 **［マスタ音量］の［オプション］メニュー－［トーン調整］をクリックする。**

2 **[Front Mic] の［トーン］をクリックする。**

［マイクの詳細設定］画面が表示される。

3 **マイクの感度を高くする場合は、[1 マイクブースト］にチェックを付ける。低くする場合は、チェックを外す。**

重要

・マイクの感度を高くすると、雑音やライン入力音が、スピーカーやヘッドホンから出力される場合があります。

CD/DVD ドライブを設定する

DVD-Video を再生する

(DVD-ROM ドライブ、DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ、DVD スーパーマルチドライブ内蔵パソコンの場合)

このパソコンで DVD-Video を再生するときは、同梱の DVD 再生ソフトウエアを追加セットアップする必要があります。
セットアップ方法や詳しい使い方については、DVD 再生ソフトウエアに付属のマニュアルをご参照ください。

重 要

- DVD-Video によっては正常に再生されない場合があります。

DMA 転送モード

DVD ドライブの DMA 転送モードを使用すると、DVD-Video の再生能力が向上します。ご購入時は DMA 転送モードになっています。

地域コード

DVD-Video と DVD ドライブには、再生可能地域を限定する地域コード (Region Code) が設定されています。DVD ドライブと DVD-Video の地域コードが同じ設定でないと、DVD-Video を再生することはできません。

重 要

- 地域コードの変更回数は最大 4 回です。4 回設定を変更すると、それ以降変更ができなくなり、設定以外の地域コードを持つ DVD-Video は再生できなくなります。

ヒント

- 標準では、地域コードは (2 日本) に設定されています。地域コード 2 の DVD-Video をご使用ください。
- DVD ドライブの地域コードは変更することができます。ほかの地域コードを持つ DVD-Video を再生する場合は、DVD 再生ソフトウエア付属のマニュアルをご参照ください。
- 地域コードは、[デバイスマネージャ] で設定できます。

BIOS の設定を戻す

BIOS(バイオス) は、パソコンのメモリーや HDD などハードウェアの環境を設定するソフトウェアです。マニュアルで説明する項目以外の設定は、変更しないでください。

ヒント

・ パソコンが正しく動かなくなってお問い合わせされたときに、BIOS 設定の確認や変更をお願いする場合があります。

BIOS メニューを表示する

BIOS メニューの立ち上げ方と終わり方について説明します。

立ち上げる

1　パソコンの立ち上げ中、画面中央に「HITACHI」または、画面下部にメッセージが表示されたら、[Delete] キーを押す。

BIOS メニューが表示される。

重 要

・ ディスプレイによっては、電源を入れても画面表示に時間がかかり、「HITACHI」ロゴやメッセージが表示されない場合があります。この場合、BIOS メニューを立ち上げるには、パソコンの電源を入れてから約 10 秒間 [Delete] キーを押し続けてください。しばらくすると、BIOS メニューが表示されます。また、[Boot Settings Configuration] の [Boot Logo Show] を [Long] に設定すると改善できる場合もありますが、パソコンの立ち上げ時間が若干長くなります。

終了する

1　BIOS メニューで [F10] キーを押す。

設定内容の保存確認のメッセージが表示される。

ヒント

・ 変更した内容を保存しないときは、[Esc] キーを押してください。
・ [F10] キーを押しても確認メッセージが表示されない場合は、次の手順を行ってください。
　1 [←]、[→] キーで [Exit] を選ぶ。
　2 [↑]、[↓] キーで [Exit & Save Changes] を選び、[Enter] キーを押す。

2　[Ok] を選び、[Enter] キーを押す。

BIOS メニューが終了し、パソコンが立ち上げ直される。設定を変更しているときは、その内容は保存される。

BIOS 設定を初期化する

BIOS の設定をご購入時の状態に戻す (初期化する) ことで解決できる問題もあります。ご購入時の状態から設定を変更している場合は、設定内容をあらかじめ控えておき、BIOS を初期化したあとに設定し直してください。

重 要

・ BIOS の設定を初期化しても内蔵タイマーの日付と時刻、パスワードは変更されません。

ヒント

・ 拡張ボードを増設しているときは、増設した拡張ボードをパソコンからすべて取り外してください。外さないと正しく動作しない場合があります。

参照

・ 拡張ボードの取り外しについて→ 7 章の「拡張ボードを取り付ける」(P.95)

1　パソコンの立ち上げ中、画面中央に「HITACHI」または、画面下部にメッセージが表示されたら、[Delete] キーを押す。

BIOS メニューが表示される。

2　[F5] キーを押す。

設定内容を初期化する確認のメッセージが表示される。

ヒント

・ [F5] キーを押しても確認メッセージが表示されない場合は、次の手順を行ってください。
　1 [←]、[→] キーで [Exit] を選ぶ。
　2 [↑]、[↓] キーで [Load Setup Defaults] を選び、[Enter] キーを押す。

3　[Ok] を選び、[Enter] キーを押す。

BIOS メニューに戻る。

4 [F10] キーを押す。

設定内容を保存する確認のメッセージが表示される。

ヒント

・ [F10] キーを押しても確認メッセージが表示されない場合は、次の手順を行ってください。
1 [←]、[→] キーで [Exit] を選ぶ。
2 [↑]、[↓] キーで [Exit & Save Changes] を選び、[Enter] キーを押す。

5 [Ok] を選び、[Enter] キーを押す。

設定した内容が保存され、セットアップメニューが終了し、パソコンが立ち上げ直される。

パスワードで保護する

ここではパスワードの設定方法を説明します。パスワードは必要なときにだけ設定してください。パスワードを設定すると、正しいパスワードを入力した人がパソコンを立ち上げたり、BIOS メニューの内容を変更したりできます。

重 要

・ パスワードを設定したときは、パスワードをメモにとり安全な場所に保管し、忘れないようにしてください。もし忘れてしまった場合は、お問い合わせください。有償で対処します。ただしハードディスクパスワードの場合は、HDD を有償で交換し、OS を再インストールする場合があります。

参 照

・ お問い合わせについて→「お問い合わせ先」(P.4)

設定できるパスワード

設定できるパスワードには、次のものがあります。

・ BIOS メニューのパスワード
・ ハードディスクパスワード

BIOS メニューのパスワード

BIOS メニューのパスワードを設定すると、不正な使用を防ぐことができます。
BIOS メニューのパスワードには、次のものがあります。

・ 管理者用パスワード (Supervisor Password)
・ 使用者用パスワード (User Password)

重 要

・ パスワードを設定すると、BIOS メニュー立ち上げ時にパスワードの入力画面が表示されます。このとき誤ったパスワードを 3 回入力すると、パソコンが操作できなくなります。この場合は、いったん電源スイッチを押し、パソコンの電源を切ってやり直してください。

●管理者用パスワード (Supervisor Password)

BIOS メニューの設定を変更できる人を制限したり、パソコンを使用できる人を制限するためのパスワードです。設定すると、管理者用パスワードを知っている人だけが、BIOS メニューのすべての設定を変更できるようになります。

■ BIOS メニューを表示する場合

パスワード入力

Enter CURRENT Password:********

BIOS メニューのすべてが設定可能

すべて可能

参 照

・ 管理者用パスワードの設定について→「管理者用または使用者用パスワードを設定／変更する」(P.142)

●使用者用パスワード (User Password)

BIOS メニューのすべての設定を変更する権限はありませんが、パソコンを使用する権限を与えるパスワードです。管理者用パスワードを設定したあとで設定できます。設定すると、使用者用パスワードを知っている人だけが、BIOS メニューの一部の設定を変更できるようになります。

■ BIOS メニューを表示する場合

BIOS メニューで設定可能/不可能な項目は、次のとおりです。

[Main] 画面	[System Time]、[System Date] のみ設定できます。
[Advanced] 画面	すべて設定できません。
[Power] 画面	
[Boot] 画面	[POST Beep Sound] 、[Change User Password]、[Clear User Password]、[SATA1 HDD User Password] のみ設定できます。
[Exit] 画面	[Exit & Save Changes] 、[Exit & Discard Changes]、[Discard Changes] のみ設定できます。

ヒント

・ 使用者用パスワード権限で HD ユーザーパスワードを設定/変更する場合、[Authorize HD Password] を [User] に設定する必要があります。BIOS メニューの [Boot] 画面を開き、[Security] メニューの [Authorize HD Password] を設定します。出荷時は、[Authorize HD Password] は [Supervisor] に設定されています。管理者用パスワード権限で設定/変更する場合は [Authorize HD Password] の設定に関係なく、HD ユーザーパスワードを設定/変更できます。

参照

・ 使用者用パスワードの設定について→「管理者用または使用者用パスワードを設定/変更する」(P.142)
・ HD ユーザーパスワードについて→「HD ユーザーパスワードを設定/変更する」(P.146)

ハードディスクパスワード

ハードディスクパスワードには、次のものがあります。

・ HD マスターパスワード (HD Master Password)
・ HD ユーザーパスワード (HD User Password)

不正な使用を防いだり、情報漏えい防止をはかる場合は、HD ユーザーパスワードを設定します。HD ユーザーパスワードを保守する場合は、HD マスターパスワードを設定します。
HD マスターパスワードを使用する際には、HD マスターパスワードの設定が不正に変更されないように管理者用パスワードを設定することをお勧めします。

重要

- HD ユーザーパスワードを設定すると、パソコンの立ち上げ時にパスワードの入力画面が表示されます。このとき誤ったパスワードを 3 回入力すると、パソコンが操作できなくなります。
  この場合は、いったん電源スイッチを押し、パソコンの電源を切ってやり直してください。
- パソコン立ち上げ時のパスワード入力で、HD マスターパスワードは使用できません。
  必ず HD ユーザーパスワードを入力してください。
- HD ユーザーパスワードを設定したあと、BIOS メニューに戻って設定を保存せずに BIOS メニューを終了すると、パソコンが操作できなくなります。
  この場合は、いったん電源スイッチを押しパソコンの電源を切って、HD ユーザーパスワードの設定からやり直してください。

● HD マスターパスワード (HD Master Password)

パソコンの管理者が設定するパスワードです。

HD マスターパスワードを解除することにより、HD ユーザーパスワードを解除できます。

■ HD ユーザーパスワードを解除する場合

パスワード入力

重要

- HD マスターパスワードを設定する場合は、HD ユーザーパスワードの設定よりも先に HD マスターパスワードを設定してください。

参照

- HD マスターパスワードの設定について→「HD マスターパスワードを設定／変更する」(P.144)

● HD ユーザーパスワード (HD User Password)

パソコンの使用者が設定するパスワードです。

HD ユーザーパスワードを設定すると、パソコンの立ち上げ時に HD ユーザーパスワードを入力する必要があります。また、設定後に HD マスターパスワードを解除すると、同時に HD ユーザーパスワードも解除されます。

■パソコンを立ち上げる場合

パスワード入力

パソコンが立ち上がる

重要

- 使用者用パスワード権限で HD ユーザーパスワードを設定／変更する場合、先に [Authorize HD Password] を [User] に設定してください。BIOS メニューの [Boot] 画面を開き、[Security] メニューの [Authorize HD Password] を設定します。出荷時は、[Authorize HD Password] は [Supervisor] に設定されています。管理者用パスワード権限で設定／変更する場合は [Authorize HD Password] の設定に関係なく、HD ユーザーパスワードを設定／変更できます。
- HD ユーザーパスワードを設定した後は、HD マスターパスワードの設定ができません。HD マスターパスワードを設定する場合は、HD ユーザーパスワードの設定よりも先に設定してください。
- パスワードで保護する場合は、HD マスターパスワードを設定後に、必ず HD ユーザーパスワードを設定してください。HD マスターパスワードを設定しただけでは HDD を保護できません。

参照

- HD ユーザーパスワードの設定について→「HD ユーザーパスワードを設定／変更する」(P.146)

BIOS メニューパスワードとハードディスクパスワードとの関連

管理者用／使用者用パスワード権限で、ハードディスクパスワードを設定する際の注意事項についてまとめます。

権限別とハードディスクパスワード

設定するパスワード	HD マスターパスワード	HD ユーザーパスワード
管理者用パスワードでログイン時	・HD ユーザーパスワードを先に設定すると、設定できません。 ・解除すると、HD ユーザーパスワードも解除します。	[Authorize HD Password] の設定に関係なく、設定／変更できます。
使用者用パスワードでログイン時	設定できません。	設定／変更する場合、[Authorize HD Password] を [User] に設定する必要があります。

BIOS メニューパスワードの設定方法

管理者用または使用者用パスワードを設定／変更する

BIOS メニュー立ち上げ時に、管理者用または使用者用のパスワードを入力するかどうかを設定します。

重要

・ 使用者用パスワードは、管理者用パスワードを設定したときに設定できます。先に管理者用パスワードを設定してください。
・ パスワードでは、大文字と小文字を同じ文字として扱います。
・ パスワードはメモなどを取り、安全な場所に保管し、忘れないようにしてください。もし忘れてしまった場合はお問い合わせください。有償にて対応いたします。

参照

・ お問い合わせについて→「お問い合わせ先」(P.4)

ヒント

・ パスワードの設定を途中でやめるときは、[Esc] キーを押します。

1 パソコンの電源を入れ、BIOS を立ち上げる。

BIOS メニューが表示される。

参照

・ BIOS の立ち上げ方法→「BIOS メニューを表示する」(P.136)

2 [←]、[→] キーで、[Boot] を選ぶ。

[Boot] 画面が表示される。

3 [↑]、[↓] キーで [Security] を選び、[Enter] キーを押す。

[Security] 画面が表示される。

4 **[↑]、[↓] キーで、[Change Supervisor Password] または [Change User Password] を選び、[Enter] キーを押す。**

パスワード入力画面が表示される。

5 **半角 8 桁以内の数値または文字でパスワードを入力し、[Enter] キーを押す。**

[Confirm Password] 入力画面が表示される。

ヒント

- パスワードには数字の 0 ～ 9 とアルファベットの a ～ z が使えます。
- パスワードでは、大文字と小文字を同じ文字として扱います。
- パスワードを入力すると画面に「*** ・・・・・・」と表示されます。

6 **再度同じパスワードを入力し、[Enter] キーを押す。**

[Password installed] 画面が表示される。

7 **[Enter] キーを押す。**

[Security] 画面に戻る。

ヒント

- 再度入力したパスワードが間違っていると、警告の画面が表示されるので [Enter] キーを押し、手順 4 からやり直してください。

8 **[F10] キー押す。**

設定内容の保存確認のメッセージが表示される。

ヒント

- [F10] キーを押しても確認メッセージが表示されない場合は、次の手順を行ってください。
  1　[←]、[→] キーで [Exit] を選ぶ。
  2　[↑]、[↓] キーで [Exit & Save Changes] を選び、[Enter] キーを押す。

9 **[Ok] を選び、[Enter] キーを押す。**

パスワードが設定され、パソコンが立ち上げ直される。

管理者用または使用者用パスワードを解除する

管理者用または使用者用パスワードの解除方法を説明します。

1 **パソコンの電源を入れ、BIOS を立ち上げる。**

参照

- BIOS の立ち上げ方法→「BIOS メニューを表示する」(P.136)

2 **[Enter CURRENT Password] が表示されたら、管理者用または使用者用パスワードを入力し、[Enter] キーを押す。**

BIOS メニューが表示される。

3 **[←]、[→] キーで、[Boot] を選ぶ。**

[Boot] 画面が表示される。

4 **[↑]、[↓]キーで[Security]を選び、[Enter]キーを押す。**

[Security]画面が表示される。

5 **[↑]、[↓]キーで、[Change Supervisor Password]または[Change User Password]を選び、[Enter]キーを押す。**

6 **[Enter Password]に、何も入力しないで[Enter]キーを押す。**

[Password uninstalled]画面が表示される。

7 **[Enter]キーを押す。**

パスワードが解除される。

8 **[F10]キー押す。**

設定内容の保存確認のメッセージが表示される。

ヒント

・ [F10]キーを押しても確認メッセージが表示されない場合は、次の手順を行ってください。
  1 [←]、[→]キーで[Exit]を選ぶ。
  2 [↑]、[↓]キーで[Exit & Save Changes]を選び、[Enter]キーを押す。

9 **[Ok]を選び、[Enter]キーを押す。**

パスワードが解除され、パソコンが立ち上げ直される。

ヒント

・ 使用者用パスワードを解除する場合は、手順5で[Clear User Password]を選び、[Enter]キーを押します。[Clear User Password?]画面で、[Ok]を選んで[Enter]キーを押すことでも、使用者用のパスワードを解除することができます。

ハードディスクパスワードの設定方法

HDマスターパスワードを設定／変更する

ハードディスクパスワードの管理者用パスワードを設定します。

重要

・ HDマスターパスワードが未設定でHDユーザーパスワードのみが設定されている場合、HDマスターパスワードが設定できません。その場合は、HDユーザーパスワードをいったん解除してから、HDマスターパスワードを設定してください。

参照

・ HDユーザーパスワードの解除について→「HDユーザーパスワードを解除する」(P.148)

重要

・ パスワードはメモなどを取り、安全な場所に保管し、忘れないようにしてください。もし忘れてしまった場合はお問い合わせください。その場合、HDDを有償で交換し、OSを再インストールする場合があります。

参照

・ お問い合わせについて→「お問い合わせ先」(P.4)

ヒント

・ パスワードの設定を途中でやめるときは、[Esc]キーを押します。

1 パソコンの電源を入れ、BIOS を立ち上げる。

BIOS メニューが表示される。

参照

・ BIOS の立ち上げ方法→「BIOS メニューを表示する」(P.136)

2 [←]、[→] キーで [Boot] を選ぶ。

[Boot] 画面が表示される。

3 [↑]、[↓] キーで [Security] を選び、[Enter] キーを押す。

4 [↑]、[↓] キーで [SATA1 HDD Master Password] を選び、[Enter] キーを押す。

パスワード入力画面が表示される。

ヒント

・ パスワードを変更する場合は、すでに設定しているパスワードを先に入力します。

5 半角 8 桁以内の数値または文字でパスワードを入力し、[Enter] キーを押す。

[Confirm Password] 入力画面が表示される。

ヒント

・ パスワードには数字の 0 ～ 9 とアルファベットの a ～ z が使えます。
・ パスワードでは、大文字と小文字を同じ文字として扱います。
・ パスワードを入力すると画面に「 *** ・・・・・・・」と表示されます。

6 再度同じパスワードを入力し、[Enter] キーを押す。

[Password installed] 画面が表示される。

7 [Enter] キーを押す。

[Security] 画面に戻る。

ヒント

・ 再度入力したパスワードが間違っていると、警告の画面が表示されるので [Enter] キーを押し、手順 3 からやり直してください。

8 [F10] キー押す。

設定内容の保存確認のメッセージが表示される。

ヒント

・ [F10] キーを押しても確認メッセージが表示されない場合は、次の手順を行ってください。
  1 [←]、[→] キーで [Exit] を選ぶ。
  2 [↑]、[↓] キーで [Exit & Save Changes] を選び、[Enter] キーを押す。

9 [Ok] を選び、[Enter] キーを押す。

パスワードが設定され、パソコンが立ち上げ直される。

HD ユーザーパスワードを設定／変更する

ハードディスクパスワードの使用者用パスワードを設定します。

重要

- 使用者用パスワード権限で HD ユーザーパスワードを設定／変更する場合、先に [Authorize HD Password] を [User] に設定してください。BIOS メニューの [Boot] 画面を開き、[Security] メニューの [Authorize HD Password] を設定します。出荷時は、[Authorize HD Password] は [Supervisor] に設定されています。管理者用パスワード権限で設定／変更する場合は [Authorize HD Password] の設定に関係なく、HD ユーザーパスワードを設定／変更できます。
- パスワードはメモなどを取り、安全な場所に保管し、忘れないようにしてください。もし忘れてしまった場合はお問い合わせください。その場合、HDD を有償で交換し、OS を再インストールする場合があります。

参照

- お問い合わせについて→「お問い合わせ先」(P.4)

ヒント

- パスワードの設定を途中でやめるときは、[Esc] キーを押します。

1 パソコンの電源を入れ、BIOS を立ち上げる。

BIOS メニューが表示される。

参照

- BIOS の立ち上げ方法→「BIOS メニューを表示する」(P.136)

2 [←]、[→] キーで [Boot] を選ぶ。

[Boot] 画面が表示される。

3 [↑]、[↓] キーで [Security] を選び、[Enter] キーを押す。

4 [↑]、[↓] キーで [SATA1 HDD User Password] を選び、[Enter] キーを押す。

パスワード入力画面が表示される。

ヒント

- パスワードを変更する場合は、すでに設定しているパスワードを先に入力します。

5 半角 8 桁以内の数値または文字でパスワードを入力し、[Enter] キーを押す。

[Confirm Password] 入力画面が表示される。

ヒント

- パスワードには数字の 0 ～ 9 とアルファベットの a ～ z が使えます。
- パスワードでは、大文字と小文字を同じ文字として扱います。
- パスワードを入力すると画面に「*** ･･･････」と表示されます。

6 再度同じパスワードを入力し、[Enter] キーを押す。

[Password installed] 画面が表示される。

7 [Enter] キーを押す。

[Security] 画面に戻る。

ヒント

- 再度入力したパスワードが間違っていると、警告の画面が表示されるので [Enter] キーを押し、手順 3 からやり直してください。

8 **[F10] キー押す。**

設定内容の保存確認のメッセージが表示される。

ヒント

・ [F10] キーを押しても確認メッセージが表示されない場合は、次の手順を行ってください。
　1 ［←］、［→］キーで [Exit] を選ぶ。
　2 ［↑］、［↓］キーで [Exit & Save Changes] を選び、[Enter] キーを押す。

9 **[Ok] を選び、[Enter] キーを押す。**

パスワードが設定され、パソコンが立ち上げ直される。

HD マスターパスワードを解除する

重要

・ HD ユーザーパスワードを設定している場合、HD マスターパスワードを解除すると、HD ユーザーパスワードも解除されます。

1 **パソコンの電源を入れ、BIOS を立ち上げる。**

BIOS メニューが表示される。

参照

・ BIOS の立ち上げ方法→「BIOS メニューを表示する」(P.136)

2 **［←］、［→］キーで [Boot] を選ぶ。**

[Boot] 画面が表示される。

3 **［↑］、［↓］キーで [Security] を選び、[Enter] キーを押す。**

4 **［↑］、［↓］キーで [SATA1 HDD Master Password] を選び、[Enter] キーを押す。**

5 **[Enter Password] に、現在使用しているパスワードを入力し、[Enter] キーを押す。HD ユーザーパスワードを設定していない場合は、何も入力せず [Enter] キーを押し、手順 7 へ進む。**

HD ユーザーパスワードを設定している場合は、[Enter Password] 入力画面が表示される。
HD ユーザーパスワードを設定していない場合は、[Enter Password] 入力画面は表示されません。

6 **各項目にパスワードを入力しないで [Enter] キーを押す。**

7 **[Password uninstalled ［Ok］] 画面が表示されたら、[Enter] キーを押す。**

パスワードが解除される。

8 **[F10] キー押す。**

設定内容の保存確認のメッセージが表示される。

ヒント

・ [F10] キーを押しても確認メッセージが表示されない場合は、次の手順を行ってください。
　1 ［←］、［→］キーで [Exit] を選ぶ。
　2 ［↑］、［↓］キーで [Exit & Save Changes] を選び、[Enter] キーを押す。

9 **[Ok] を選び、[Enter] キーを押す。**

パスワードが解除され、パソコンが立ち上げ直される。

HD ユーザーパスワードを解除する

重要

・ HD マスターパスワードを設定している場合、HD マスターパスワードを解除することで、HD ユーザーパスワードも解除できます。

1 **パソコンの電源を入れ、BIOS を立ち上げる。**

BIOS メニューが表示される。

参照

・ BIOS の立ち上げ方法→「BIOS メニューを表示する」(P.136)

2 **[←]、[→] キーで [Boot] を選ぶ。**

[Boot] 画面が表示される。

3 **[↑]、[↓] キーで [Security] を選び、[Enter] キーを押す。**

4 **[↑]、[↓] キーで [SATA1 HDD User Password] を選び、[Enter] キーを押す。**

5 **[Enter Password] に、現在使用しているパスワードを入力し、[Enter] キーを押す。**

[Enter Password] 入力画面が表示される。

6 **各項目にパスワードを入力しないで [Enter] キーを押す。**

7 **[Password uninstalled [Ok]] 画面が表示されたら、[Enter] キーを押す。**

パスワードが解除される。

8 **[F10] キー押す。**

設定内容の保存確認のメッセージが表示される。

ヒント

・ [F10] キーを押しても確認メッセージが表示されない場合は、次の手順を行ってください。
1 [←]、[→] キーで [Exit] を選ぶ。
2 [↑]、[↓] キーで [Exit & Save Changes] を選び、[Enter] キーを押す。

9 **[Ok] を選び、[Enter] キーを押す。**

パスワードが解除され、パソコンが立ち上げ直される。

Wake On LAN を設定する

ネットワークからパソコンを立ち上げる信号が流れたときに、パソコンを立ち上げることができます。これを Wake On LAN といいます。

Wake On LAN できる状態

次の状態のとき、パソコンを立ち上げられます。
・ スタンバイ状態
・ 休止状態
・ 電源オフ状態

重 要
・ Windows を終了して電源を切っても、LAN などの一部のデバイスには電力が供給されます。
・ 電源スイッチを 4 秒以上押して、Windows を強制終了しているときは、パソコンは立ち上がりません。

Wake On LAN の設定

Windows メニューの設定

標準では電源 OFF からの Wake On LAN はできますが、スタンバイおよび休止状態からの Wake On LAN ができる設定にはなっていません。スタンバイおよび休止状態からの Wake On LAN を可能にするには、次のとおりに設定を変更してください。

1. **パソコンの電源を入れ、管理者権限のあるユーザーでログオンする。**

2. **[スタート] ボタン－[コントロールパネル] をクリックする。**
   [コントロールパネル] 画面が表示される。

3. **[システム] アイコンをダブルクリックする。**
   [システムのプロパティ] 画面が表示される。

4. **[ハードウェア] タブの [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする。**
   [デバイスマネージャ] 画面が表示される。

5. **[ネットワークアダプタ] の [Realtek RTL8169/8110 Family Gigabit Ethernet NIC] をダブルクリックする。**
   [Realtek RTL8169/8110 Family Gigabit Ethernet NIC のプロパティ] が表示される。

6. **[電源の管理] タブの [電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする] および [このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする]、[管理ステーションでのみ、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする] をチェックし、[OK] ボタンをクリックする。**

BIOS メニューの設定

標準で使えるように設定されています。

1 **パソコンの電源を入れ、BIOS を立ち上げる。**

BIOS メニューが表示される。

参照

・ BIOS の立ち上げ方法→「BIOS メニューを表示する」(P.136)

2 **[←]、[→] キーで [Power] メニューを選び、[↑]、[↓] キーで [APM Configuration] を選んで [Enter] キーを押す。**

3 **[↑]、[↓] キーで [Power On By PCI Devices] を選び、[Enter] キーを押す。**

[Disabled] または [Enabled] を選択する画面が表示される。

4 **[↑]、[↓] キーで設定値を [Enabled] にし、[Enter] キーを押す。**

5 **[F10] キーを押す。**

設定内容の保存確認のメッセージが表示される。

ヒント

・ [F10] キーを押しても確認メッセージが表示されない場合は、次の手順を行ってください。
  1 [←]、[→] キーで [Exit] を選ぶ。
  2 [↑]、[↓] キーで [Exit & Save Changes] を選び、[Enter] キーを押す。

6 **[Ok] を選び、[Enter] キーを押す。**

別のディスクから立ち上げる

パソコンの立ち上げ時にどのドライブから立ち上げるかを設定します。

1　パソコンの電源を入れ、パソコンの立ち上げ中、画面中央に「HITACHI」と表示されたら、[F12] キーを押す。

[Boot Menu] 画面が表示される。

ヒント

・ CD-ROM リカバリーモデルは、画面上に「RECOVERY」は表示されません。

2　立ち上げたいドライブを [↑]、[↓] キーで選び、[Enter] キーを押す。

重要

・ 選択したデバイスがないとき、または選択したデバイスに CD-ROM が入っていないときは、BIOS メニューの [Boot] の [Boot Device Priority] で設定した優先順位で立ち上がります。

Security Chip を使う

Security Chip を使うには、最初に BIOS での設定が必要です。

重要

- Security Chip を使用する際には、Security Chip の設定が不正に変更されないように、管理者パスワードを設定することをお勧めします。
- 修理によりメインボードの交換を行った場合は、Security Chip ユーティリティーで設定した暗号化ファイルや Personal Secure Drive にアクセスできなくなります。

参照

- 管理者用パスワードの設定方法→「管理者用または使用者用パスワードを設定／変更する」(P.142)

ヒント

- Security Chip を使用するには、BIOS 以外にもユーティリティーのインストールや設定が必要です。詳細は、『Security Chip 取扱説明書』をご参照ください。

Security Chip の設定を有効にする

重要

- マニュアルで説明している項目以外の設定は、変更しないでください。

1　パソコンの電源を入れ、BIOS を立ち上げる。

BIOS メニューが表示される。

参照

- BIOS の立ち上げ方法→「BIOS メニューを表示する」(P.136)

2　[←]、[→] キーで [Boot] を選ぶ。

3　[↑]、[↓] キーで [Security] を選び、[Enter] キーを押す。

[Security] 画面が表示される。

4　[↑]、[↓] キーで画面下部に隠れている [Security Chip] を選び、[Enter] キーを押す。

設定値の変更画面が表示される。

5　設定値に [Enabled] を選択し、[Enter] キーを押す。

ヒント

- ご購入時の状態では、[Security Chip] の設定は [Enabled] になっています。

6　[F10] キーを押す。

設定内容の保存確認のメッセージが表示される。

ヒント

- [F10] キーを押しても確認メッセージが表示されない場合は、次の手順を行ってください。
  1　[←]、[→] キーで [Exit] を選ぶ。
  2　[↑]、[↓] キーで [Exit & Save Changes] を選び、[Enter] キーを押す。

7　**[Ok]を選び、[Enter] キーを押す。**

設定された内容が保存され、パソコンが立ち上げ直される。

8　**もう一度、手順 1 〜 3 の操作を行う。**

9　**[↑]、[↓] キーで画面下部に隠れている [Security Platform] を選び、[Enter] キーを押す。**

10　**設定値に [Enabled] を選択し、[Enter] キーを押す。**

ヒント

・ Security Chip の設定を無効にするには、[Disabled] を選択します。

11　**[F10] キーを押す。**

設定内容の保存確認のメッセージが表示される。

ヒント

・ [F10] キーを押しても確認メッセージが表示されない場合は、次の手順を行ってください。
　1　[←]、[→] キーで [Exit] を選ぶ。
　2　[↑]、[↓] キーで [Exit & Save Changes] を選び、[Enter] キーを押す。

12　**[Ok] を選び、[Enter] キーを押す。**

設定された内容が保存され、パソコンが立ち上げ直される。

13　**Security Chip ユーティリティーのインストール設定を行う。**

ヒント

・ Security Chip ドライバーは、工場出荷時にインストールされています。
・ Security Chip ユーティリティーのインストール手順は、『Security Chip 取扱説明書』をご参照ください。

重 要

・ Security Chip ユーティリティーで、[Security Platform] の状態 ([有効]/[無効]) を変更した場合、BIOS メニューの [Security Platform] の設定と一致しないことがあります。
・ BIOS メニューの [Security Platform] の設定は、[Exit & Save Changes] を実行 ([F10] キーを押して変更した内容を保存) した場合に、Security Chip に保存されます。

Security Chip をクリアする

パソコンを処分する場合や、Security Chip ユーティリティーで設定したパスワードを忘れてしまった場合は、Security Chip のクリアを行ってください。

1　**Security Chip の設定が無効の場合、「Security Chip の設定を有効にする」の手順 1 〜 12 を行う。**

2　**パソコンの立ち上げ中、画面中央に「HITACHI」と表示されたら、[Delete] キーを押す。**

BIOS メニューが表示される。

3　**[←]、[→] キーで [Boot] を選ぶ。**

4 **[↑]、[↓]キーで[Security]を選び、[Enter]キーを押す。**

[Security]画面が表示される。

5 **[↑]、[↓]キーで画面下部に隠れている[Clear Security Chip]を選び、[Enter]キーを押す。**

6 **[↑]、[↓]キーで[Clear]を選び、[Enter]キーを押す。**

7 **[F10]キーを押したあと[Ok]を選び、[Enter]キーを押す。**

Security Chipがクリアされ、パソコンが立ち上げ直される。

ヒント

- Security Chipをクリアすると、[Security Platform]は[Disabled]になります。
- [F10]キーを押しても確認メッセージが表示されない場合は、次の手順を行ってください。
  1 [←]、[→]キーで[Exit]を選ぶ。
  2 [↑]、[↓]キーで[Exit & Save Changes]を選び、[Enter]キーを押す。

重要

- Security Chipをクリアした場合、Security Chipユーティリティーで設定した暗号化ファイルや、Personal Secure Driveにアクセスすることができなくなります。

11 章　消費電力を節約する

この章では、パソコンの消費電力を節約する方法について説明します。

節電機能とは

CPU や HDD、ディスプレイの働きを一時的に停止させることで、消費電力を節約できます。この機能を節電機能といいます。節約している状態を節電状態と呼びます。

節電機能の種類

機能		内容	パソコンの電源ランプ
システム全体の節電	システムスタンバイ	現在の使用状況をメモリーに保持し、パソコンの電源を切る	点滅 (オレンジ色)
	休止状態	現在の使用状況を HDD に保存して、パソコンの電源を切る	点灯 (オレンジ色)
ディスプレイの節電		画面表示を消す	点灯 (緑色)
HDD の節電		HDD のモーターを停止する	点灯 (緑色)

重 要

・ アプリケーションによってはその使用中に節電状態にならなかったり、節電機能が働くまでに時間がかかることがあります。

ヒント

・ 節電機能に対応していない周辺機器を接続した場合、節電機能が正常に動作しない場合があります。

節電する

消費電力を自動で節約したり、特定のボタンを押して節約できます。

自動で節電する

パソコンをしばらく操作しないでいると、自動で消費電力が節約されます。
どのくらいの時間で節電されるかは、［コントロールパネル］の［電源オプション］で設定します。

標準の状態 (AC 電源での使用時)

・ 15 分操作しないと・・・・ディスプレイが節電される
・ 20 分操作しないと・・・・パソコン全体の節電 (スタンバイ状態) になる
・ 30 分操作しないと・・・・HDD の電源が切れる

時間を設定する

重 要

・ 節電状態から復帰したとき、ディスプレイの画面が乱れて表示されることがあります。ディスプレイの電源を入れ直してください。

1 **[スタート] ボタン－ [コントロールパネル] をクリックして、[コントロールパネル] を開き、[電源オプション] アイコンをダブルクリックする。**

[電源オプションのプロパティ] 画面が表示される。

重 要

・ コントロールパネルがカテゴリの表示になっているときは、[パフォーマンスとメンテナンス] アイコンをダブルクリックすると、[電源オプション] を選択できるようになります。

ヒント

・ [コントロールパネル] は、「クラシック表示」で説明しています。

2 **[電源設定] タブをクリックする。**

3 **休止状態を使う場合は、[休止状態] タブの「休止状態を有効にする」にチェックを付け、[適用] ボタンをクリックする。**

ヒント

・ 工場出荷時の状態で、[休止状態を有効にする] にチェックが付いています。

4 各項目に、どのくらいパソコンを操作しないでいると節電状態になるかを設定する。

モニタの電源を切る	：ディスプレイの節電
ハードディスクの電源を切る	：HDD の節電
システムスタンバイ	：パソコン全体の節電 (スタンバイ)
システム休止状態	：パソコン全体の節電 (休止状態)

重要

- 「システムスタンバイ」を設定しても、時間どおりに節電状態にならないことがあります。
- 「システムスタンバイ」と「モニタの電源を切る」を同じ時間に設定にしないでください。パソコンが正しく動かないことがあります。
- 「システム休止状態」が表示されないときは、「休止状態」タブで「休止状態をサポートする」にチェック (☑) を付けて [適用] ボタンをクリックしてください。標準で、チェックは付いています。
- 節電状態から復帰したとき、ディスプレイの画面が乱れて表示されることがあります。ディスプレイの電源を入れ直してください。

5 [OK] ボタンをクリックする。

すぐに節電

パソコンから離れるときなどに、次のようにして消費電力を節約できます。

重要

・ 音声や動画ファイルを再生中は、ここで説明する方法は行わないでください。節電状態から復帰したとき、正しく音声や動画ファイルを再生できないことがあります。
・ スタンバイ状態にするときはスタンバイランプが点灯するまで、また、休止状態にするときは電源ランプが消灯するまで、キーボードのキーを押したり、マウスを動かさないでください。復帰したときに、キーボードやマウスが動作しなくなることがあります。
・ 節電状態から復帰したとき、ディスプレイの画面が乱れて表示されることがあります。ディスプレイの電源を入れ直してください。

[スタート] ボタンから節電

1 **[スタート] ボタンをクリックし、[終了オプション] をクリックする。**

[コンピュータの電源を切る] が表示される。

2 **[スタンバイ] をクリック、または [Shift] キーを押しながら [休止状態] をクリックする。**

スタンバイまたは休止状態になる。

電源スイッチで節電

電源スイッチの設定を変えると、電源スイッチを押したときに節電状態にすることができます。
この設定は [コントロールパネル] の [電源オプション] で行います。

重要

・ 節電状態から復帰したとき、ディスプレイの画面が乱れて表示されることがあります。ディスプレイの電源を入れ直してください。

●標準の状態

電源スイッチを押したとき　：　シャットダウン

●設定方法

1 **[スタート] ボタン－ [コントロールパネル] をクリックして、[コントロールパネル] を開き、[電源オプション] アイコンをダブルクリックする。**

[電源オプションのプロパティ] 画面が表示される。

ヒント

・[コントロールパネル] は、「クラシック表示」で説明しています。

2 **[詳細設定] タブで、各項目を「スタンバイ」や「休止状態」に設定する。**

コンピュータの電源ボタンを押したとき（電源スイッチを押したとき）

ヒント

- 「休止状態」が表示されないときは、「休止状態」タブで「休止状態をサポートする」にチェック（☑）を付けて [適用] ボタンをクリックしてください。標準で、チェックは付いています。
- [Sleep] ボタンのない USB キーボードを接続しても [電源オプションのプロパティ] − [詳細設定] に「コンピュータのスリープボタンを押したとき」が表示される場合がありますが、使用することはできません。

3 **[OK] ボタンをクリックする。**

重要

- スタンバイにするときは、画面が消え、スタンバイ状態になるまでキーボードのキーを押したり、マウスを動かさないでください。復帰したときに、キーボードやマウスが動作しなくなることがあります。

● USB デバイスを接続してスタンバイ状態にする場合

1 **パソコンの電源を入れ、Windows を立ち上げ、管理者権限のあるユーザーでログオンする。**

2 **[スタート] ボタン − [ファイル名を指定して実行] をクリックする。**

[ファイル名を指定して実行] が表示される。

3 **c:¥hitachi¥drivers¥usbreg¥common¥enable.bat と入力し、[OK] ボタンをクリックする。**

[システム設定の変更] が表示される。

4 **[はい] ボタンをクリックする。**

パソコンが立ち上げ直される。

節電状態から復帰する

節電状態から復帰させるには、次のように操作してください。

重 要

・　節電状態から復帰させるときは、20 秒以上時間をおいてください。20 秒未満で復帰させると、キーボードやマウスが正しく動かないことがあります。

ディスプレイの節電状態からの復帰

・[Shift] などのキーを押す
・ マウスを操作する

ハードディスクの節電状態からの復帰

・HDD にアクセスする操作を行う

スタンバイからの復帰

・ パソコンの電源スイッチを押す
・ キーボードの ［Shift］ キーを押す (USB キーボードのみ)
・ マウスを操作する (USB マウスのみ)

休止状態からの復帰

・ パソコンの電源スイッチを押す

重 要

・　コマンドプロンプトを開いた状態でスタンバイに移行した場合は正しく復帰しないことがあります。正常に復帰しない場合はマウスを操作してください。
・　システムの環境によってスタンバイからの復帰に時間がかかることがあります。電源ランプが緑色に点灯するまでお待ちください。
・　スタンバイ状態中にキー入力を行うと、入力したキーが復帰後に有効になることがあります。
・　パソコンの電源スイッチは 4 秒以上押さないでください。電源が強制的に切れます。
・　ソフトウェアの環境によってスタンバイから復帰できないことがあります。この場合は、スタンバイ以外の節電をご使用ください。
・　休止状態で、FD や CD-ROM などのディスクをドライブに入れないでください。休止状態から復帰したとき、ディスクから立ち上がらなかったり、エラーメッセージが表示されることがあります。このときは、ディスクを取り出し、[Ctrl] と [Alt] キーを押しながら [Delete] キーを押して立ち上げ直してください。
・　休止状態からの復帰時に数秒画面が乱れる場合がありますが、動作に問題はありません。

節電機能を使わないようにする

節電状態になるとパソコンが正しく動かなかったり、データが壊れることがあります。ここでは、どんなときに使わないようにするか、またその設定の仕方を説明します。

節電機能を使わないようにするとき

次のときは、スタンバイにならないようにしてください。これらの機能･プログラムでデータを扱っている最中に節電機能が働くと、データが失われることがあります。

・再セットアップ中
・システムやアプリケーションの立ち上げ中
・ディスク（HDD、FD、CD-ROM など）の読み書き中
・通信カード、通信ソフトで通信中
・プリンターの印字中

節電機能を使わないようにするには

次の手順で、節電機能が働かないようにできます。

1 **[スタート] ボタン－[コントロールパネル] をクリックして、[コントロールパネル] を開き、[電源オプション] アイコンをダブルクリックする。**

[電源オプションのプロパティ] 画面が表示される。

ヒント

・[コントロールパネル] の［パフォーマンスとメンテナンス] アイコンをクリックすると [電源オプション] を選択できるようになります。
・[コントロールパネル] は、「クラシック表示」で説明しています。

2 **[電源設定] タブの各項目を「なし」に設定する。**

・[モニタの電源を切る]
・[ハードディスクの電源を切る]
・[システムスタンバイ]
・[システム休止状態]

3 **[詳細設定] タブの項目を「シャットダウン」に設定する。**

・[コンピュータの電源ボタンを押したとき]

CPU を節電する

Core™2 Duo、Pentium® 4 モデルでは、パソコンで行う作業に応じて、
CPU の消費電力を節約できます。

ヒント
・ Pentium® 4 プロセッサー 541 を除きます。

節電する

1 **［スタート］ボタン－［コントロールパネル］をクリックして、［コントロールパネル］画面を開き、［電源オプション］アイコンをダブルクリックする。**

ヒント
・［コントロールパネル］画面は、「クラシック表示」で説明しています。

2 **次の表を参考にして、［電源設定］タブの［電源設定］リストの項目を変更し、パフォーマンスの設定をする。**

電源設定リスト	CPU の節電
自宅または会社のデスク	×
ポータブル / ラップトップ	○ *1
プレゼンテーション	○ *1
常にオン	×
最小の電源管理	○ *1
バッテリーの最大利用	○ *1
新しい電源設定 *2	○ *1

*1 ：CPU の使用状況に応じて CPU の周波数を切り替えます。
CPU の負荷が低いとき (通常の状態) は周波数を低くし、CPU の負荷が高いときは 周波数を最大にします。
*2 ：既存の電源設定を変更し、別の名前で保存した項目。

12 章　付属ソフトウェアについて

この章では、付属ソフトウェアの使い方やセットアップ方法を説明します。

ドライバーについて

次のドライバーは個別にセットアップすることができます。

重要

・ 付属ソフトウェアは、このパソコン以外では使用しないでください。動作を保証できません。
また、ドライバーなどによっては、ハードウェア故障の原因になります。

ドライバー名	一括セットアップ ○:可能 ×:不可	購入時 ○:セットアップ済み ×:セットアップなし
Intel(R) Chipset Software Installation Utility	○	○
表示ドライバー	○	○
サウンドドライバー	○	○
LAN ドライバー	○	○
ホイールマウスドライバー	×	×
3 モード FD ドライバー	×	×
DVD-RAM ドライバー/フォーマットユーティリティー	×	×
BEAMSTAR 用ドライバー	×	×
DMA 設定	○	○
Security Chip ドライバー	○	○

重要

・ 個別セットアップを行う場合は、ほかのドライバーをインストールする前に、必ず Intel(R) Chipset Software Installation Utility をインストールしてください。
・ 個別セットアップを行うと、一括セットアップで組み込まれた場合と設定値が異なることがあります。
・ 標準の CD/DVD ドライブ名は、アルファベットの順で HDD の次の文字 (ドライブ文字) になります。あらかじめ、CD/DVD ドライブのドライブ名をご確認ください。

Intel(R) Chipset Software Installation Utility

OS にチップセットを正確に識別させるためのユーティリティーです。

インストール手順

1 **パソコンの電源を入れ、Windows を立ち上げ、管理者権限のあるユーザーでログオンする。**

2 **[スタート] ボタン-[ファイル名を指定して実行] をクリックし、c:¥hitachi¥drivers¥inf¥common¥lang¥Jpn¥license.txt と入力し、[OK] ボタンをクリックする。**
ソフトウェア使用許諾書が表示される。

3 **ソフトウェア使用許諾契約書の内容をよく読んでから、ウィンドウを閉じる。**

4 **[スタート] ボタン－[ファイル名を指定して実行] をクリックし、c:¥hitachi¥drivers¥inf¥common¥setup.exe -s -b と入力し、[OK] ボタンをクリックする。**

しばらくするとインストールが完了し、自動的にパソコンが立ち上げ直される。

重要

・ 手順 4 で、-s -b を入力しないで Setup.exe を実行するとダイアログで 1 ステップずつインストールされますが、USB キーボード、マウスをご使用の場合には途中で入力ができなくなる場合があります。上記の通り、-s -b をつけて実行してください。

表示ドライバー

表示ドライバーは、ディスプレイの画面表示を行うためのドライバーです。
機種別に、ディスプレイの色やリフレッシュレートなど、表示を細かく設定できるようにする次の表示設定ユーティリティーがあります。

表示ドライバー付属ユーティリティー

表示ドライバーをインストールすると、[Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver] タブが追加されます。このタブは、[画面のプロパティ] の [設定] タブにある [詳細設定] ボタンをクリックすると開かれるプロパティーに追加されます。[Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver] タブ中にある [グラフィックのプロパティ] ボタンをクリックすると、[Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver] が開きます。

● Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver

・[ディスプレイ デバイス]：ディスプレイを複数接続する際に設定する
・[ディスプレイ設定]：解像度、色数、リフレッシュレート、ディスプレイの設定、画面回転の設定や変更を行う
・[色補正]：ガンマ、明るさ、コントラストの設定を変更、保存する
・[ホットキー]：決められた動作のショートカットキーを設定する
・[スキームオプション]：スキームを設定する
・[ズームを起動]：画面の一部の拡大・縮小設定をする
・[3D 設定]：OpenGL アプリケーションを使用した際の詳細を設定する
・[情報]：使用しているドライバー、ビデオ BIOS、ディスプレイの情報が表示される
・[ビデオオーバーレイ]：ガンマ、明るさ、彩度、コントラストを設定する

ヒント

・ [Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver] は、[コントロールパネル] 中の [Intel(R) GMA Driver] アイコンからも立ち上げられます。

重要

・ [ディスプレイ設定] タブで解像度、色数、リフレッシュレートの設定を変更した場合、アプリケーションエラーが発生することがあります。その場合は、[画面のプロパティ] から設定の変更を行ってください。

インストール手順

1 **パソコンの電源を入れ、Windows を立ち上げ、管理者権限のあるユーザーでログオンする。**

2 **[スタート] ボタン－[ファイル名を指定して実行] をクリックし、c:¥hitachi¥drivers¥svga¥common¥setup と入力し [OK] ボタンをクリックする。**
[Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver のセットアップにようこそ] 画面が表示される。

3 **[次へ] ボタンをクリックする。**
[使用許諾契約書] 画面が表示される。

4 **[はい] ボタンをクリックする。**
[Readme ファイル情報] 画面が表示される。

5 **[次へ] ボタンをクリックする。**
[セットアップの進行状況] 画面が表示される。

6 **[次へ] ボタンをクリックする。**
[Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver のセットアップが完了しました] 画面が表示される。

7 **[はい、コンピュータを今すぐ再起動します] が選択されていることを確認し、[完了] ボタンをクリックする。**
自動的にパソコンが立ち上げ直される。

8 **[画面のプロパティ] － [設定] タブの [詳細設定] ボタンをクリックする。**
[Digital Flat Panel(...) と ...] 画面が表示される。

9 **[Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver] タブを選択し、[トレイ アイコンを表示] のチェックを外して [適用] ボタンをクリックする。**
タスクトレイの [Intel(R)Graphics Media Accelerator Driver] アイコンが消える。

10 **[グラフィックプロパティ ...] をクリックする。**
[Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver] 画面が表示される。

11 **[ディスプレイ設定] － [回転を有効にする] のチェックを外して [適用] ボタンをクリックする。**
[デスクトップの変更を確認] 画面が表示される。

12 **[OK] ボタンをクリックする。**

13 **[OK] ボタンをクリックし、[Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver] 画面を閉じる。**

14 **[OK] ボタンをクリックし、[Digital Flat Panel (...) と ...] 画面を閉じる。**

15 **[OK] ボタンをクリックし、[画面のプロパティ] を閉じる。**

16 **ドライブ C 内に [Intel] フォルダーが無いことを確認する。[Intel] フォルダーがある場合、フォルダーを削除する。**

サウンドドライバー

サウンド機能を使用する場合に必要なドライバーです。

インストール手順

1 **パソコンの電源を入れ、Windows を立ち上げ、管理者権限のあるユーザーでログオンする。**

2 **[スタート] ボタン－[ファイル名を指定して実行] をクリックし、c:¥hitachi¥drivers¥sound¥common¥setup と入力し、[OK] ボタンをクリックする。**
[Realtek High Definition Audio Driver の InstallShield Wizard へようこそ] 画面が表示される。

3 **[次へ] ボタンをクリックする。**
[メンテナンスの完了] 画面が表示される。

4 **[はい、今すぐコンピュータを再起動します。] にチェックが付いていることを確認し、[完了] ボタンをクリックする。**
自動的にパソコンが立ち上げ直される。

重 要

・ ドライバインストール後の初回再起動時にエラー音が鳴る場合があります。

LAN ドライバー

LAN を使うためのドライバーです。自動的に通信速度やモードを認識して最適な通信環境を設定します。

インストール手順

1 **パソコンの電源を入れ、Windows を立ち上げ、管理者権限のあるユーザーでログオンする。**

2 **[スタート] ボタン－[ファイル名を指定して実行] をクリックし、c:¥hitachi¥drivers¥lan¥common¥setup と入力し [OK] ボタンをクリックする。**
[REALTEK GbE & FE Ethernet PCI NIC Driver の InstallShield Wizard へようこそ] 画面が表示される。

3 **[次へ] ボタンをクリックする。**
[プログラムのインストール準備完了] 画面が表示される。

4 **[インストール] ボタンをクリックする。**
ファイルがコピーされ、[InstallShield Wizard の完了] 画面が表示される。

5 **[完了] ボタンをクリックする。**

6 **手動でパソコンを立ち上げ直す。**

ヒント

- LAN の回線速度は、標準で「自動検出 (Auto Negotiation)」に設定されています。
- HUB との接続が正常にできない場合は、HUB と同じ回線速度 (10Mbps/100Mbps/1.0Gbps) に固定するように設定してください。
- 回線速度の設定は、[コントロールパネル] の [ネットワーク接続] を開き、[ローカルエリア接続] を右クリックして [プロパティ] を開いて、[構成] ボタンをクリックします。[詳細設定] タブの [リンク速度とデュプレックス] の値で変更できます。

ホイールマウスドライバー

ホイールマウスのスクロール機能や、ホイールボタンを使えるようにするためのドライバーです。タスクバーに表示されるマウスのアイコンをダブルクリックすると [マウスのプロパティ] が開き、各種設定が行えます。
なお、すべてのアプリケーションの動作を保証するものではありません。
ほかのマウスドライバーに変更するときは、ホイールマウスドライバーをアンインストールしてください。

重 要

- マウスの抜き差しは、パソコンの電源を切ってから行ってください。
- ホイール機能はアプリケーションによって使用できないものもあります。

インストール手順

1 **ホイールマウスを接続してから電源を入れる。**

2 **CD-ROM リカバリーモデルの場合、『活用』CD を CD/DVD ドライブに入れる。**
HDD リカバリーモデルの場合、手順 2 は不要です。手順 3 に進んでください。

3 **パソコンが立ち上がったら、[スタート] ボタン－ [ファイル名を指定して実行] をクリックする。**
[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

4 **e:¥programs¥mouse¥setup と入力し、[OK] ボタンをクリックする。**
[設定言語の選択] 画面が表示される。
＊：HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。

5 **「日本語」が選択されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックする。**
[インストール先の選択] 画面が表示される。

6 **[次へ] ボタンをクリックする。**
[プログラムフォルダの選択] 画面が表示される。

7 **[次へ] ボタンをクリックする。**
ファイルコピー後、[InstallShield ウィザードの完了] 画面が表示される。

8 **「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」を選択し、[完了] ボタンをクリックする。**
自動的にパソコンが立ち上げ直される。

アンインストール手順

1 **[コントロールパネル] の [プログラムの追加と削除] をダブルクリックし、プロパティーを開く。**

2 **「MouseWave X.XX」を選択し、[追加と削除] ボタンをクリックする。**
[ファイル削除の確認] 画面が表示される。

3 **[OK] ボタンをクリックする。**
ファイルの削除後、[アンインストール] 画面が表示される。

4 **[OK] ボタンをクリックする。**
自動的にパソコンが立ち上げ直される。

3 モード FD ドライバー

3 モード FD ドライバーとは、FDD 内蔵パソコンで 1.25MB フォーマットの FD の読み込み、書き込みを可能にするドライバーです。
ただし、1.25MB のフォーマットはできません。

重 要

・ 2020 シリーズ、elles シリーズなど日立オフィスコンピュータおよび、B16、B32 でフォーマットした FD は使用できません。

インストール手順

1 **パソコンの電源を入れ、Windows を立ち上げ、管理者権限のあるユーザーでログオンする。**

2 **[スタート] ボタン－ [コントロールパネル] をクリックする。**
[コントロール パネル] 画面が表示される。

3 **[システム] アイコンをダブルクリックする。**
[システムのプロパティ] 画面が表示される。

ヒント

・ [コントロールパネル] は [クラシック表示] で説明しています。

4 **[ハードウェア] タブの [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする。**
[デバイスマネージャ] 画面が表示される。

5 **[フロッピーディスクコントローラ] の [標準フロッピーディスクコントローラ] をダブルクリックする。**
[標準フロッピーディスクコントローラのプロパティ] 画面が表示される。

6 **[ドライバ] タブの [ドライバの更新] ボタンをクリックする。**
[ハードウェアの更新ウィザード] 画面が表示される。

7 **[いいえ、今回は接続しません] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。**

[インストール方法を選んでください] が表示される。

8 **[一覧または特定の場所からインストールする] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。**

[検索とインストールのオプションを選んでください] が表示される。

9 **[検索しないで、インストールするドライバを選択する] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。**

[このハードウェアのためにインストールするデバイスドライバを選択してください] が表示される。

10 **[ディスク使用] ボタンをクリックする。**

[フロッピーディスクからインストール] 画面が表示される。

11 **[製造元のファイルのコピー元] に c:¥hitachi¥drivers¥3mode¥common と入力して [OK] ボタンをクリックする。**

12 **[Hitachi 3mode Floppy Disk Controller (Type L)] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。**

[ハードウェアの更新ウィザードの完了] 画面が表示される。

13 **[完了] ボタンをクリックする。**

[Hitachi 3mode Floppy Disk Controller (Type L) のプロパティ] 画面にもどる。

14 **[閉じる] ボタンをクリックする。**

[デバイスマネージャ] 画面にもどる。

15 **[フロッピーディスクドライブ] の [フロッピーディスクドライブ] をダブルクリックする。**

[フロッピーディスクドライブのプロパティ] 画面が表示される。

16 **[ドライバ] タブをクリックし、[ドライバの更新] ボタンをクリックする。**

[ハードウェアの更新ウィザードの開始] 画面が表示される。

17 **[いいえ、今回は接続しません] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。**

[インストール方法を選んでください] が表示される。

18 **[一覧または特定の場所からインストールする] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。**

[検索とインストールのオプションを選んでください] が表示される。

19 **[検索しないで、インストールするドライバを選択する] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。**

[このハードウェアのためにインストールするデバイスドライバを選択してください] が表示される。

20 **[ディスク使用] ボタンをクリックする。**

[フロッピーディスクからインストール] 画面が表示される。

21 **[製造元のファイルのコピー元] に c:¥hitachi¥drivers¥3mode¥common と入力して [OK] ボタンをクリックする。**

22 **[Hitachi 3mode Floppy Disk Drive] を選択して、[次へ] ボタンをクリックする。**
[ハードウェアの更新ウィザードの完了] 画面が表示される。

ヒント

・ [～ WindowsXP との互換性を検証する Windows ロゴテストに合格していません。] というメッセージが表示されますが、[続行] ボタンをクリックし、そのままインストールを続けてください。

23 **[完了] ボタンをクリックする。**
[フロッピーディスクドライブのプロパティ] 画面が表示され、[ドライバ] タブの「プロバイダ」に「Hitachi」が表示される。

24 **[閉じる] ボタンをクリックし、パソコンを立ち上げ直す。**

DVD-RAM ドライバー／フォーマットユーティリティー

DVD スーパーマルチドライブ内蔵パソコンの場合、インストールが必要です。

インストール手順

1 **パソコンの電源を入れ、Windows を立ち上げ管理者権限のあるユーザーでログオンする。**

2 **CD-ROM リカバリーモデルの場合、『活用』CD を CD/DVD ドライブに入れる。HDD リカバリーモデルの場合、手順 2 は不要です。手順 3 に進んでください。**

3 **[スタート] ボタン－ [ファイル名を指定して実行] をクリックする。**
[ファイル名を指定して実行] が表示される。

4 **e:¥programs¥dvdram¥winxp¥setup と入力し、[OK] ボタンをクリックする。**
セットアップが開始される。
＊：HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。

5 **画面の指示に従ってインストールする。**
ファイルのコピー後、[Windows XP 用ドライバーソフト 制限事項] 画面が表示される。

6 **[Windows XP 用ドライバーソフト 制限事項] 画面を閉じる。**
[InstallShield Wizard の完了] 画面が表示される。

7 **「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」を選択して [完了] ボタンをクリックする。**
パソコンが立ち上げ直される。

DVD-RAM フォーマットユーティリティーの使用方法

DVD-RAM ディスクをフォーマットするためのフォーマットユーティリティーの使用方法について説明します。

重 要

・ DVD-RAM フォーマットユーティリティー以外で DVD-RAM ディスクをフォーマットしないでください。DVD-RAM ディスクにアクセスできない場合があります。
・ ほかの装置でフォーマットした DVD-RAM ディスクは読み込めない場合があります。この場合、フォーマット形式を変更してご使用ください。
  詳しくは、e:¥programs¥dvdram¥winxp¥DVD-RAM_XP.pdf をご参照ください。
  ＊：HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
  　CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。

DVD-RAM ディスクをフォーマットする

1 **パソコンの電源を入れ、パソコンを立ち上げる。**

2 **[スタート] ボタンー [すべてのプログラム] ー [DVDRAM] ー [DVD-RAM ドライバー] ー [DVDForm] をクリックする。**

次の画面が表示される。

3 **DVD スーパーマルチドライブに DVD-RAM ディスクを入れる。**

4 **フォーマット種別でフォーマットタイプを選択する。**

UDF1.5：DVD-RAM の標準フォーマットです。Windows/Mac OS などの異なる OS 環境でデータ交換ができます。

UDF2.0：DVD フォーラム策定の「ビデオレコーディング規格」準拠の DVD ビデオレコーダーや、同規格準拠のパソコン用記録ソフトで使用するためのフォーマット形式です。

UDF2.5：RAM2(6 ～ 16 倍速の DVD-RAM) やブルーレイ /HD DVD で使用されるフォーマット形式です。UDF2.5 形式の DVD-RAM は、「ビデオレコーディング規格」準拠の DVD ビデオレコーダーや同規格準拠のパソコン用記録ソフトでは使用できません。

FAT32： Windows 95(OSR2)/98/Me/2000/XP/Vista で使用できるフォーマットです。

次の表を参考にして、フォーマットタイプを選択してください。

フォーマットに使用する OS	フォーマット形式	読み書きに使用する OS		
		Windows Vista/ Windows XP/ Windows 2000	Windows NT	Windows 98
Windows XP	FAT	×	×	× (*1)
	FAT32	△ (*2)	×	× (*1)
	NTFS	×	×	×
	UDF(1.5 、2.0)	○	○	○
	UDF(2.5)	△ (*3)	×	×

*1：この形式でフォーマットした DVD-RAM/R ディスクは、読み書きできる場合もありますが、Windows 98 では使用しないでください。
*2：FAT32 でのご使用も可能ですが、弊社としては各種 OS 間でのデータ互換が可能な UDF フォーマットのご使用を推奨しております。
特に、データを長期間保存する用途でご使用になる場合には UDF フォーマットをお使いください。
なお DVD の規格の中で UDF は標準ファイルシステムとして位置付けられています。
*3：DVD-RAM を UDF2.5 でフォーマットした場合、UDF2.5 に対応していない機器では DVD-RAM の読み込み / 書き込みは行えません。UDF2.5 に対応した機器をご使用ください。

5 **UDF 形式を選択した場合はボリュームラベルを入力する。**
フォーマットする DVD-RAM ディスクに半角 11 文字以内で名前を入力します。
すでに設定されている場合は、その名前が表示されます。

ヒント
・ 何も入力しない場合、"UDF+ 西暦 + 月 + 日 " が自動的に設定されます。
・ 必要に応じて「物理フォーマットを実行する」にチェックを入れてください。
物理フォーマット : ディスクの全セクターを検査し、不良セクターの代替処理を行います。

6 **[開始] ボタンをクリックする。**
確認メッセージが表示される。

7 **[はい] ボタンをクリックする。**
フォーマットが開始される。

8 **フォーマット終了メッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする。**

9 **[閉じる] ボタンをクリックし、[DVDForm] を終了する。**

DVD-RAM ドライバーのアンインストール

1 **[コントロールパネル] の [プログラムの追加と削除] アイコンをダブルクリックする。**

2 **「DVD-RAM ドライバー」 を選択し、[追加と削除] ボタンをクリックする。**
[ファイル削除の確認] が表示される。

3 **[OK] ボタンをクリックする。[共有ファイルの検出] ダイアログが表示された場合は、[はい] ボタンをクリックする。**

[コンピュータからプログラムを削除] が表示され、ファイルが削除される。

4 **[はい、今すぐコンピュータを再起動します。] を選択し、[完了] ボタンをクリックする。**

Windows が立ち上げ直される。

参照

・ DVD-RAM ドライバーの再セットアップについて→「DVD-RAM ドライバー／フォーマットユーティリティー」(P.173)

BEAMSTAR 用ドライバー

別売の BEAMSTAR Prinfina を使うためのプリンタードライバーです。詳しい使い方は、ドライブ E(リカバリー領域) または『活用』CD 内にある ¥programs¥beamstar フォルダー内の pdf ファイル、txt ファイルをご参照ください。

DMA 設定

内蔵 IDE ファイル装置に対し、転送モード (DMA または PIO) を指定します。DMA モードを選択すると、データの読み書きが速くなります。パソコン出荷時の転送モードは、DMA モードに設定されています。
転送モードを変更する場合は、次の手順で行ってください。

1 **パソコンの電源を入れ、管理者権限のあるユーザーでログオンする。**

2 **[スタート] ボタン－[コントロールパネル] をクリックする。**

[コントロールパネル] が表示される。

3 **[システム] アイコンをダブルクリックする。**

[システムのプロパティ] が表示される。

ヒント

・ [コントロールパネル] は、「クラシック表示」で説明しています。

4 **[ハードウェア] のタブを選択し、[デバイスマネージャ] ボタンをクリックする。**

[デバイスマネージャ] が表示される。

5 **[表示] ボタン－[デバイス (接続別)] をクリックする。**

接続別に表示される。

6 **[ACPI マルチプロセッサ PC] － [Microsoft ACPI-Compliant System] － [PCI バス] 以下の [Intel（R）82801G（ICH7 Family)Ultra ATA Strage Controllers － 27DF] または [Intel(R) 82801GB/GR/GH (ICH7 Family) Serial ATA Storage Controller - 27C0] を選択する。**

ヒント

・ CD/DVD ドライブの場合、[Intel （R） 82801G （ICH7 Family)Ultra ATA Strage Controllers ー 27DF] を選択、HDD の場合、[Intel(R) 82801GB/GR/GH (ICH7 Family) Serial ATA Storage Controller - 27C0] を選択します。

7 **[プライマリ IDE チャネル] をダブルクリックする。**

[プライマリ IDE チャネルのプロパティ] が表示される。

8 **[詳細設定] タブをクリックし、[転送モード] で [DMA(利用可能な場合)] を選択し、[OK] ボタンをクリックする。**

[システムの設定変更] が表示される。
DMA を無効にする場合は、手順 8 の [転送モード] で [PIO のみ] を選択してください。

Security Chip ドライバー

Security Chip を使えるようにするためのドライバーです。
インストール手順および詳しい使い方については、『Security Chip 取扱説明書』 をご参照ください。

アプリケーションについて

次のアプリケーションなどは個別にセットアップすることができます。

アプリケーション名	一括セットアップ	購入時
	○：可能 ×：不可	○：セットアップ済み ×：セットアップ無し
インターネットマーク	○	○
Norton AntiVirus 2006 (90 日版)	×	×
Norton Ghost 2003	×	×
Java 2 Platform Standard Edition Runtime Environment	×	×
JP1/NETM/DM Client FLORA Edition *1	×	×
CLEAR-DA FLORA Edition	×	×
BACKUP-DA FLORA Edition	×	×
SECUREDA	×	×
SAVINGDA	×	×
POWER-DA *2	×	×
B's Recorder GOLD8 BASIC for HITACHI (DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ、DVD スーパーマルチドライブ内蔵パソコン用)	×	×
PowerDVD 6 (DVD-ROM ドライブ、DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ、DVD スーパーマルチドライブ内蔵パソコン用) *1	×	×
Office Personal 2003 *1	×	○
Security Chip ユーティリティー	×	×
Adobe Reader	○	○

*1 ：ご購入時の選択によって、セットアップまたは付属しています。これらのセットアップ方法は、アプリケーションに付属のマニュアルをご参照ください。
*2 ：専用 Web サイトよりダウンロード提供。

重要

- アプリケーションによっては、セットアップ中に画面表示が数十秒間変化しない場合があります。しばらくお待ちください。
- 標準の CD/DVD ドライブ名は、アルファベットの順で HDD の次の文字 (ドライブ文字) になります。あらかじめ、CD/DVD ドライブのドライブ名をご確認ください。
- Office Personal 2003 の CD で Office Personal 2003 をセットアップし直した場合、ライセンス認証が必要です。
  ライセンス認証を受けない場合、Office Personal 2003 の立ち上げ回数が許諾回数を超えると、新規ファイルの作成更新などの一部の機能が使用できなくなります。ライセンス認証の方法は、Office Personal 2003 の『スタートガイド』をご参照ください。

ヒント

- 表の「一括セットアップ」に○印があるアプリケーションは、一括インストールでもセットアップできます。
- 表の「購入時」に○印のあるアプリケーションは、購入時にセットアップされています。

インターネットマーク

ホームページの真正性を証明するためのアプリケーションです。

インストール手順

1 **CD-ROM リカバリーモデルの場合、『活用』CD を CD/DVD ドライブに入れる。HDD リカバリーモデルの場合、手順 1 は不要です。手順 2 に進んでください。**

2 **[スタート] ボタン－ [ファイル名を指定して実行] をクリックする。**
[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

3 **e:¥programs¥internetmarks¥npime011 と入力し、[OK] ボタンをクリックする。**
[ようこそ] 画面が表示される。
＊：HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
　　CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。

4 **以下、画面の指示に従いインストールする。**

Norton AntiVirus 2006（90 日版 ）

Windows で、コンピュータウイルスを検出するソフトウェアです。
標準ではセットアップされていません。必要に応じてセットアップしてください。

インストール手順

1 **CD-ROM リカバリーモデルの場合、『活用』CD を CD/DVD ドライブに入れる。HDD リカバリーモデルの場合、手順 1 は不要です。手順 2 に進んでください。**

2 **[スタート] ボタン－ [ファイル名を指定して実行] をクリックする。**
[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

3 **e:¥programs¥nav¥navsetup と入力して [OK] ボタンをクリックする。**
[更新が必要] 画面が表示される。
＊：HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
　　CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。

4 **[はい] ボタンをクリックする。**
[Norton AntiVirus 2006 セットアップ] 画面が表示される。

5 **[次へ] ボタンをクリックする。**
[インストール前のスキャン] 画面が表示される。

6 **[スキャンをスキップ] ボタンをクリックする。**
[インストール前の点検] 画面が表示される。

7 **［次へ］ボタンをクリックする。**
［インストール先フォルダを選択］画面が表示される。

8 **［次へ］ボタンをクリックする。**
インストールが実行されたあと、［Norton AntiVirus 2006 のインストールが正常に完了しました］画面が表示される。

9 **［完了］ボタンをクリックする。**
Norton AntiVirus 2006 のインストールが終了し、パソコンが立ち上げ直される。

10 **パソコンが立ち上げ直されたあと、［Norton AntiVirus］画面が表示されるので、［次へ］ボタンをクリックする。**
［使用許諾契約］画面が表示される。

11 **［使用許諾契約に同意します］を選択して、［次へ］ボタンをクリックする。**
［更新サービスの状態］画面が表示される。

12 **内容を確認し、［次へ］ボタンをクリックする。**
［セキュリティ］画面が表示される。

13 **内容を確認し、［次へ］ボタンをクリックする。**
［ありがとうございます］画面が表示される。

14 **［完了］ボタンをクリックする。**

15 **引き続き［LiveUpdate］が立ち上がります。以降、画面の指示に従ってください。**

Norton Ghost 2003

パソコンの HDD の内容をその他のディスクにバックアップしたり、バックアップした内容を復元するアプリケーションです。
標準ではセットアップされていません。必要に応じてセットアップしてください。

重要

- 機能によっては、使用できない場合があります。ご使用に際しては、事前に十分なご検証をお願いいたします。
- Symantec Corporation では、お問い合わせを直接受け付けていません。

参照

- Norton Ghost 2003 の詳しい使い方については、ドライブ E(リカバリー領域) または『活用』CD 内の ¥programs¥ghost¥Readme.txt や ¥programs¥ghost¥manual の pdf ファイルをご参照ください。
  ＊：HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
  CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。

インストール手順

1 **CD-ROM リカバリーモデルの場合、『活用』CD を CD/DVD ドライブに入れる。**
HDD リカバリーモデルの場合、手順 1 は不要です。手順 2 に進んでください。

2 **[スタート] ボタン－ [ファイル名を指定して実行] をクリックする。**

[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

3 **e:¥programs¥ghost¥install¥setup と入力し [OK] ボタンをクリックする。**

[Norton Ghost 2003 用の Install Shield ウィザードへようこそ] が表示される。

＊：HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。

4 **[次へ] ボタンをクリックする。**

[使用許諾契約] 画面が表示される。

5 **以降、画面の指示に従ってインストールする。**

Java 2 Platform Standard Edition Runtime Environment

Java 言語で開発されたソフトウェアを実行するときに必要なアプリケーションです。

インストール手順

1 **CD-ROM リカバリーモデルの場合、『活用』CD を CD/DVD ドライブに入れる。**
HDD リカバリーモデルの場合、手順 1 は不要です。手順 2 に進んでください。

2 **[スタート] ボタン－ [ファイル名を指定して実行] をクリックする。**

[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

3 **e:¥programs¥java¥jre-1_5_0-windows-i586 と入力し、[OK] ボタンをクリックする。**

[使用許諾契約] 画面が表示される。

＊：HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。

4 **以降、画面の指示に従ってインストールする。**

JP1/NETM/DM Client FLORA Edition

購入時の選択により添付されます。パソコンの管理機能を向上させるためのアプリケーションです。ハードウェアの各種設定情報や、動作状態を管理、監視します。ハードウェアに障害が発生したときは、画面にメッセージを表示するなど障害発生を報告します。
セットアップ方法は、『JP1/NETM/DM Client FLORA Edition』CD 内の readme.txt をご参照ください。

CLEAR-DA FLORA Edition

パソコンのハードディスクドライブ (以降、HDD) 内に記録されたデータを消去するアプリケーションです。消去したデータは復元不可能になります。データを消去するときは、ご注意ください。
使用方法や制限事項などについては、取扱説明書をご参照ください。取扱説明書は、インストール後、アプリケーションの格納先に保存されます。

インストール手順

1 **CD-ROM リカバリーモデルの場合、『活用』CD を CD/DVD ドライブに入れる。**
HDD リカバリーモデルの場合、手順 1 は不要です。手順 2 に進んでください。

2 **[スタート] ボタン−[ファイル名を指定して実行] をクリックする。**
[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

3 **e:¥programs¥clearda¥setup と入力して [OK] ボタンをクリックする。**
[セットアップ] 画面が表示され、しばらくすると [ようこそ] 画面が表示される。
＊：HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。

4 **[次へ] ボタンをクリックする。**
[製品ライセンス契約] 画面が表示される。

5 **内容を確認し、[はい] ボタンをクリックする。**
[インストール先の選択] 画面が表示される。

6 **インストール先を確認し、[次へ] ボタンをクリックする。**
インストールが完了すると、[セットアップの完了] 画面が表示される。

7 **[完了] ボタンをクリックする。**

BACKUP-DA FLORA Edition

パソコンのデータをバックアップするアプリケーションです。
使用方法や制限事項などについては、取扱説明書をご参照ください。取扱説明書は、インストール後、アプリケーションの格納先に保存されます。

重要

・ 再インストールの場合、BACKUP-DA FLORA Edition を使用している状態ではインストールできません。
BACKUP-DA FLORA Edition を終了してからインストールしてください。
画面右下の通知領域またはタスクトレイに、[BDA] アイコンがあると BACKUP-DA FLORA Edition が使用されています。アイコンを右クリックし、メニューから「終了」を選択してください。

インストール手順

1 **CD-ROM リカバリーモデルの場合、『活用』CD を CD/DVD ドライブに入れる。HDD リカバリーモデルの場合、手順 1 は不要です。手順 2 に進んでください。**

2 **[スタート] ボタン－[ファイル名を指定して実行] をクリックする。**

[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

3 **e:¥programs¥backupda¥setup と入力して [OK] ボタンをクリックする。**

[セットアップ] 画面が表示され、しばらくすると [ようこそ] 画面が表示される。

＊：HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。

4 **[次へ] ボタンをクリックする。**

[製品ライセンス契約] 画面が表示される。

5 **内容を確認し、[はい] ボタンをクリックする。**

[インストール先の選択] 画面が表示される。

6 **インストール先を確認し、[次へ] ボタンをクリックする。**

インストールが完了すると、[BACKUP-DA] 画面が表示される。

7 **[完了] ボタンをクリックする。**

[BACKUP-DA 初期設定] 画面が表示される。

8 **バックアップの保存先のフォルダーを指定し、[OK] ボタンをクリックする。**

[BACKUP-DA フォルダ設定] 画面が表示される。

9 **バックアップを行うファイルが入っているフォルダーを指定し、[設定終了] ボタンをクリックする。**

[コピー中] 画面が表示され、初期バックアップが開始される。

ヒント

・ BACKUP-DA FLORA Edition では、バックアップを行いたいファイルを指定する場合、ファイルの保存されているフォルダーを指定します。そのため、指定したフォルダーに格納されているサブフォルダーを含め、フォルダー内すべてのデータがバックアップの対象となります。

10 **初期バックアップが終了し、[BackupDA] 画面が表示されたら、[OK] ボタンをクリックする。**

パソコンのシステム環境に一定の制限をかけ、情報漏えいを防ぐセキュリティーツールです。システムの管理者が、一般ユーザーのパソコンに制限をかけることができます。
使用方法や制限事項などについては、取扱説明書をご参照ください。取扱説明書は、インストール後、アプリケーションの格納先に保存されます。

管理者用設定ソフトウェアのインストール手順

管理者のパソコンにインストールします。

1 **CD-ROM リカバリーモデルの場合、『活用』CD を CD/DVD ドライブに入れる。**
HDD リカバリーモデルの場合、手順 1 は不要です。手順 2 に進んでください。

2 **[スタート] ボタン－[ファイル名を指定して実行] をクリックする。**
[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

3 **e:¥programs¥secureda¥securedaadminsetup と入力して [OK] ボタンをクリックする。**
[セットアップ] 画面が表示され、しばらくすると [ようこそ] 画面が表示される。
＊：HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
　CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。

4 **内容を確認し、[次へ] ボタンをクリックする。**
[インストール先の選択] 画面が表示される。

5 **インストール先を確認し、[次へ] ボタンをクリックする。**
インストールが完了すると、[セットアップの完了] 画面が表示される。

6 **[完了] ボタンをクリックする。**

SECUREDA クライアントのインストール手順

制限をかけるパソコンにインストールします。

1 **パソコンの電源を入れ、Windows を立ち上げ、管理者権限のあるユーザーでログオンする。**

2 **CD-ROM リカバリーモデルの場合、『活用』CD を CD/DVD ドライブに入れる。**
HDD リカバリーモデルの場合、手順 2 は不要です。手順 3 に進んでください。

3 **[スタート] ボタン－[ファイル名を指定して実行] をクリックする。**
[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

4 **e:¥programs¥secureda¥securedaInst と入力して [OK] ボタンをクリックする。**

インストール先を指定する画面が表示される。
＊：HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
　CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。

5 **インストール先を指定し、[インストール] ボタンをクリックする。**

インストールが完了すると、インストール完了のメッセージが表示される。

6 **[OK] ボタンをクリックする。**

SAVINGDA

パソコンの省電力機能（省電力モード）を効率よく活用して、節電効果を上げるための省電力支援ツールです。
使用方法や制限事項などについては、取扱説明書をご参照ください。取扱説明書は、インストール後、アプリケーションの格納先に保存されます。

インストール手順

1 **CD-ROM リカバリーモデルの場合、『活用』CD を CD/DVD ドライブに入れる。**
HDD リカバリーモデルの場合、手順 1 は不要です。手順 2 に進んでください。

2 **[スタート] ボタン－[ファイル名を指定して実行] をクリックする。**

[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

3 **e:¥programs¥savingda¥setup と入力して [OK] ボタンをクリックする。**

[セットアップ] 画面が表示され、しばらくすると [ようこそ] 画面が表示される。
＊：HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
　CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。

4 **内容を確認し、[次へ] ボタンをクリックする。**

[使用許諾契約書] 画面が表示される。

5 **内容を確認し、[はい] ボタンをクリックする。**

インストール先を指定する画面が表示される。

6 **インストール先を確認し、[次へ] ボタンをクリックする。**

インストールが完了すると、[インストールの終了] 画面が表示される。

7 **[完了] ボタンをクリックする。**

初期設定の画面が表示されるので、[PC の種類]、[モニタ] をそれぞれ選択する。

POWER-DA

電源制御を行うためのツールです。
インストール手順や使用方法、制限事項などについては、次のホームページでご確認ください。
URL：http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/flora/download/index.html

B's Recorder GOLD8 BASIC for HITACHI

DVD-ROM&CD-R/RW ドライブで CD-R や CD-RW に、DVD スーパーマルチドライブで CD-R/RW、DVD ± R/RW に書き込むためのアプリケーションです。パソコンのデータを CD-R/RW、DVD ± R/RW にバックアップする目的などに使用します。使用方法は、プログラムのヘルプをご参照ください。

インストール手順

1. **CD-ROM リカバリーモデルの場合、『活用』CD を CD/DVD ドライブに入れる。**
   HDD リカバリーモデルの場合、手順 1 は不要です。手順 2 に進んでください。

2. **[スタート] ボタン－[ファイル名を指定して実行] をクリックする。**
   [ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

3. **e:¥programs¥bsgold¥setup と入力して [OK] ボタンをクリックする。**
   [B.H.A Setup Launcher] 画面が表示される。
   ＊：HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
   CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。

4. **[B's Recorder GOLD8 BASIC] ボタンをクリックする。**
   [B's Recorder GOLD8 BASIC for HITACHI セットアップ] 画面が表示される。

5. **以降、画面の指示に従ってインストールする。**
   シリアル番号の入力を要求されたら、『使用許諾契約書』に記載されているシリアル番号を入力する。

重要

- このシリアル番号は、サポートセンターへのお問い合わせ時に必ずご用意ください。詳しくはユーザーズマニュアルの「サポートサービスについて」をご参照ください。
- サポートサービスのご利用には、ユーザー登録が必要です。次の URL よりご登録ください。
  → http://www.bha.co.jp/entry/

PowerDVD 6

DVD-ROM ドライブ、または DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ、DVD スーパーマルチドライブで DVD-Video の再生を行うためのアプリケーションです。

インストール手順

1　『PowerDVD 6 OEM 版』CD-ROM を CD/DVD ドライブに入れる。

[CyberLink Power DVD V6.0 セットアップ] 画面が表示される。

ヒント

- 画面が表示されないときは、『PowerDVD 6 OEM 版』CD-ROM 内の「setup.exe」を実行してください。

2　以降、画面の指示に従ってインストールする。

Office Personal 2003

購入時の選択によってセットアップされるアプリケーションセットです。
使い方や再セットアップ方法、アップデート情報などは、付属のマニュアルをご参照ください。
お客様がパソコンにメモリーボードや拡張ボードの増設などのハードウェア環境に変更を加えた場合、その後の Office Personal 2003 のアプリケーションソフトウェア (Word、Excel、Outlook など) の初回起動時、「Microsoft Office 2003 ライセンス認証ウィザード」が表示されることがあります。この状態では各アプリケーションの機能が制限されます。ウィザードのメッセージに従い、Office Personal 2003 のパッケージに付属の「Microsoft Office 2003」CD-ROM を CD/DVD ドライブに挿入して、メッセージに従い操作してください。

ヒント

- 添付の Microsoft Office 2003 の CD で Office Personal 2003 をセットアップし直した場合、ライセンス認証が必要です。ライセンス認証を受けない場合、Office Personal 2003 の立ち上げ回数が許諾回数を超えると、新規ファイルの作成更新など一部の機能が使用できなくなります。ライセンス認証の方法は、Office Personal 2003 の『スタートガイド』をご参照ください。
  Office Personal 2003 の修正プログラムがマイクロソフト社より公開されています。
  ご使用になる場合は、次の URL よりダウンロードし適用してください。
  URL ：http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;JA;828041

  次の不具合を回避することができます。
  ・ドキュメントを開くことができず、エラーメッセージが表示される。
  ・ドキュメントは開けるが、OfficeArt の図形が欠落し、エラーメッセージが表示される。
  ・ドキュメントは開けるが、OfficeArt の図形が欠落する。

Security Chip ユーティリティー

Security Chip を使えるようにするためのユーティリティーです。
インストール手順および詳しい使い方については、『Security Chip 取扱説明書』をご参照ください。

Adobe Reader

PDF 形式のファイルを参照するためのアプリケーションです。
使用方法はプログラムのヘルプをご参照ください。

インストール手順

1 **CD-ROM リカバリーモデルの場合、『活用』CD を CD/DVD ドライブに入れる。**
HDD リカバリーモデルの場合、手順 1 は不要です。手順 2 に進んでください。

2 **[スタート] ボタン－[ファイル名を指定して実行] をクリックする。**
[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。

3 **e:¥programs¥adobereader¥adberdr70_jpn_full と入力し、[OK] ボタンをクリックする。**
[Adobe Acrobat 7.0 セットアップ] 画面が表示される。
＊：HDD リカバリーモデルの場合、e はリカバリー領域のドライブ名です。
　CD-ROM リカバリーモデルの場合、e は CD/DVD ドライブ名です。

4 **画面の指示に従ってインストールする。**
[セットアップウィザードの完了] 画面が表示される。

5 **[完了] ボタンをクリックする。**

Windows ファイルを追加セットアップする

Windows 固有のソフトウェアは次の手順でセットアップできます。必要に応じてセットアップしてください。

1 **[スタート] ボタン－[コントロールパネル] をクリックする。**

ヒント

・ [コントロールパネル] は、「クラシック表示」で説明します。

2 **[コントロール パネル] の [アプリケーションの追加と削除] アイコンをダブルクリックし、プロパティーを開く。**

3 **[Windows コンポーネントの追加と削除] タブの [コンポーネント] で、必要なソフトウェアにチェックを付ける。**

4 **1 つの項目に複数のソフトウェアが含まれている場合があります。全部をセットアップしない場合は [詳細] ボタンをクリックし、必要のないソフトウェアのチェックを消して [OK] ボタンをクリックする。**

5 **[次へ] ボタンをクリックする。追加するファイルによっては、立ち上げ直すメッセージが表示される。その場合は、立ち上げ直すとセットアップが終了する。**

ソフトウェアの重要事項

ここでは、ソフトウェアを使用するときの重要な項目について説明します。

Windows の使用について

サウンドの使用について

- マルチメディアファイル再生中は、ファイルを転送など、HDD に読み書きしないでください。音が途切れたり、再生中のファイルが止まったりします。一度すべてのファイルを停止してから再生し直してください。シークバーが正しく表示されない場合があります。この場合は、マルチメディアファイルを一度終了させてください。
- 音を鳴らした状態で音源のボリューム操作を繰り返したり、[マスタ音量] を長時間表示したままにしないでください。パソコンの動作が不安定になることがあります。
- Wave ファイル再生中に音声が停止したり、異常な音が鳴り続ける場合は、いったん再生を停止し、そのあと再生し直してください。
- [マスタ音量] の [CD プレーヤー] のボリュームスライダーを動かしても音量が調整できません。詳細については、次のアドレスでご確認ください。サポート技術情報の文書番号 JP296615 に記載されています。
  → http://support.microsoft.com/default.aspx?LN=JA
- CD/DVD ドライブのヘッドホン出力コネクターからは出力できません。

インターネット エクスプローラの使用について

- 使用するアプリケーションによっては、画面が正常に表示されないことがあります。このときは、アプリケーションを最小化するなどして画面を再描画させてください。
- 使用するアプリケーションによっては、アプリケーションエラーが起きることがあります。このときは、アプリケーションを起動し直すか、パソコンを立ち上げ直してください。
- CD-ROM、CD-R/RW、DVD-ROM 内の文字列は正しく検索できません。検索するファイルを HDD にコピーしてから、コピーしたファイルを検索してください。
- デスクトップのアイコン表示：表示モードを変更した場合やコマンドプロンプトをフルスクリーンで表示したあと、デスクトップのアイコンが正しく表示されないことがあります。この場合は、パソコンを立ち上げ直してください。
- NTFS の圧縮：圧縮や圧縮の無効など、圧縮状態を変更するときは、各サブフォルダーごとに行ってください。HDD 全体に対して変更すると、パソコンの動作が不安定になることがあります。ただし、HDD をフォーマットするときは、あらかじめ [圧縮を有効にする] にチェックを付けて圧縮できます。
- [タスクバーのプロパティ] ダイアログの [[スタート] メニューの設定] タブの [削除] をクリックしないでください。Explorer.exe で一般保護違反 (GPF) が発生する場合があります。[スタート] メニューのフォルダーを削除する場合は、[[スタート] メニューの設定] タブの [詳細] をクリックし、立ち上げられるエクスプローラ上で削除してください。

フォント

・全角が表示できるフォントを使用しているときに、スタイルをイタリックにすると、サイズによっては文字化けすることがあります。ほかのスタイルでは発生しません。

アプリケーション

・Windows 3.1 や MS-DOS 5.0/V、MS-DOS 6.2/V のアプリケーションを使用しないでください。マウスが正常に動作しなかったり表示色がおかしくなることがあります。
・アプリケーションを複数動作させる場合は、不要なファイルを HDD から削除するなどして、空容量を十分に確保してください。アプリケーションによっては、スワップファイルを多く表示させるものもあり、HDD の空容量が不足していると、アプリケーションが正常に動作しないことがあります。
・アプリケーションによっては、ヘルプ画面を開こうとすると、エラーメッセージを表示する場合があります。
・Microsoft PowerPoint など、アプリケーションによっては、アイコンの表示が部分的に残る場合があります。
・Microsoft PowerPoint など、アプリケーションによっては、印刷時に文字化けする場合があります。
・Microsoft Excel を使用して、最小印刷の設定を行った状態で「印刷プレビュー」を行うと、STOP メッセージが表示されてパソコンが動作しなくなることがあります。「印刷プレビュー」を行う場合には、データの保存を必ず行ってください。
・Microsoft Office の 一部の機能は正常に動作しません。

プリンター

・LIPS III モードで「コマンドプロント」からテキストファイルを印刷すると、全角文字が正常に印刷されません。リモート印刷時も同様です。
・ESC/P モードで「コマンドプロント」からテキストファイルを印刷する場合は、プリンターの設定を、次の手順で変更してください。リモート印刷時も同様です。
　ただし、設定しても印刷の文字がかすれて見づらい場合があります。

1. [スタート] ボタン－[プリンタと FAX] をクリックする。
2. 対象のプリンターを選んでプロパティーを開く。
3. [全般] タブの「プリントプロセッサ」を選ぶ。
4. [プリントプロセッサ] の次の項目を変更する。

変更項目	デフォルトの設定	変更後の設定
規定のデータの種類	RAW	TEXT

・Microsoft Word で文章を印刷すると、「 Win32 スプーラ」で「書き込みエラー : 要求された資源は使用中です」と表示されることがあります。そのときは、「再試行」をクリックすると印刷できます。

クリップブック

・ローカルクリップブックのページを削除すると、クリップボードの内容が削除される場合があります。

・クリップボードの内容をファイルに保存すると、クリップボードの表示色が変化する場合があります。
・クリップボードの内容をクリップブックのページにはり付けたとき、ロックされていないのに鍵のマークが出る場合があります。

画面表示

・タスクの切り替えなどで画面の表示を切り替えると、タイミングによって前の表示が残る場合があります。この場合、その箇所を再描画させると、正常に表示されます。
・使用状況によっては、メッセージボックスが、ほかのウインドウの裏面に隠れて見えないことがあります。
・表示色などを変更するときは、アプリケーションを終了してください。アプリケーションの表示がおかしくなることがあります。この場合、画面を切り替えるなどして再描画すると正常に表示されます。
・メディアプレーヤーなどで動画再生時、動画によっては再生画面が正しく表示されないことがあります。このときは、メディアプレーヤーの［ツール］－[オプション] －[パフォーマンス] タブで、［詳細設定］ボタンをクリックし、[ビデオアクセラレータ] 項目の［オーバーレイ］のチェックを外すと正常に表示される場合があります。
・アプリケーションによっては、起動直後にスクロールを行うと、図形などが正常に表示されない場合があります。その場合には、再描画させてください。

外字変換

・Windows 3.1、または Windows NT 4.0 より以前のシステムで作成した外字データを、TrueType 外字エディターで参照するとフォントが崩れて表示される場合があります。TrueType 外字エディターで修正し、使用してください。

シリアル

・シリアルポートを利用したデータ交換に「ハイパーターミナル」アプリケーションを利用すると、相手側の送受信が正常に行えない場合があります。この場合、データ送受信コマンドのオプション設定や転送ボーレートを変更してください。
・「ハイパーターミナル」アプリケーションで相互通信を行う場合、双方から同時にテキストファイルの送信を行わないでください。

ネットワーク関連

・TELNET: バッファーサイズを変更すると、表示が崩れる場合があります。
・DHCP Client では、次の場合、正常に表示されない場合があります。
(1) DHCP Manager でアドレスのリース期間を無制限にした場合、IPCONFIG による IP アドレス情報が正しく表示されません。
(2) 予約クライアントのリース期限情報がサーバー側とクライアント側で異なります。
・NetWare Compatible Client Service:NET USE で接続した NetWare プリンターに対して、VDM よりリダイレクト (>LPT1) すると文字化けすることがあります。
・RAS サーバーとなる装置のドメイン名、またはワークグループ名が漢字など DBCS の場合、接続できません。

・ネットワークモニターは補助的なもので、ローカルのパソコンの送受信データのみをキャプチャーできます。本格的なネットワーク解析に使用すると、キャプチャーデータの表示中にアプリケーションエラーとなる場合があります。
・NetWare for Hitachi/W および NetWare for Hitachi3050 には接続できません。
・NWLink IPX/SPX サービスの追加時、1 回の立ち上げで NetWare サーバーに接続できない場合があります。その場合、もう一度、立ち上げ直してください。
・NET USER コマンドの「 /Homedirreq 」オプションは使用できません。
・ネットワークドライブをログオン時に再接続する設定にしておいても再接続されない場合があります。この場合は再度ログオンし直してください。

イベントビューア

・パソコン立ち上げ時にイベントが発生した場合、発生時間に関わらず、イベントログサービスの「立ち上げイベント情報」が表示される前に、そのイベントが表示されることがあります。
・LAN ドライバーを個別にセットアップした直後に、「Net BT」エラーが表示されますが、ネットワーク機能など動作上の問題はありません。

Microsoft IME

・Microsoft IME では、実際の入力モードとツールバーで表示される入力モードが異なる場合があります。

エクスプローラ

・ネットワークコンピューターのフォルダーを表示させた場合、中にフォルダーがなくてもサブフォルダーがあることを示す「 + 」が表示されることがあります。

リムーバブルディスクを使用する場合

・リムーバブルディスクを NTFS にフォーマットした場合、リムーバブルドライブのイジェクトボタンを押してもディスクを取り出すことができません。Windows が動いている間に取り出すときは、[マイコンピュータ] や [エクスプローラ] を使用します。デバイスにマウスカーソルを置いて、マウスの右ボタンをクリックし、メニューの [取り出し] をクリックします。ただし、この操作は、Administrators グループに登録されていないメンバーは行えません。

光磁気ディスクドライブの取り付け

・CD-R/RW ドライブから CD-ROM/DVD-RAM/R ドライブに取り付け代えた場合に、エクスプローラから CD-ROM ディスクなどのファイルが読み込めない場合があります。その場合、次の手順を行うことで CD-ROM ディスクのファイルを読み込むことができます。
1　Administrator でログオンする。
　※エクスプローラ、マイコンピュータを開いている場合、それらを閉じてください。
2　[スタート] ボタン－ [コントロールパネル] を選ぶ。
3　[コントロールパネル] を表示して [プリンタとその他のハードウェア] を選ぶ。
4　左側に表示される [関連項目] から [システム] を選ぶ。
5　[ハードウェア] タブをクリックし、[デバイスマネージャ] ボタンをクリックする。

6　[DVD/CD-ROM ドライブ] ツリーをダブルクリックする。
7　表示されているドライブを選び、右クリックし、[削除] をクリックする。
8　[デバイスの削除の確認] が表示されたら、[OK] ボタンをクリックする。
9　[デバイスマネージャ] のウィンドウメニューの [操作] − [ハードウェア変更の
　スキャン] を選択する。
10　[デバイスマネージャ] および、コントロールパネルのウィンドウを閉じる。

USB(1.1 または 2.0) デバイスの使用について

・特定の USB デバイスを複数接続した場合や、特定のデバイスとの組み合わせでは、接続したデバイスが使用可能な状態にならない場合があります。
　この場合は、USB ケーブルを抜き差しして、そのデバイスをシステムに再度 認識させてください。
・特定の USB デバイスを接続した場合、節電機能の移行 / 復帰が正しく行えない場合があります。この場合は節電機能を使用しないでください。
・USB インタフェースは、すべての USB 対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
・特定の USB2.0 デバイスを接続した場合、休止状態から復帰後に「高速ではない USB ハブに USB デバイスが接続されています～」とメッセージが表示され、USB 2.0 が無効になる場合があります。その場合、デバイスを抜き差しするか、またはパソコンを立ち上げ直してください。
　以後、休止状態を使用しないでください。

その他

・ログオンした直後に、シャットダウン、再立ち上げ、ログオフを行わないでください。パソコンの動作が不安定になることがあります。

動画の再生について

・動画ファイルを再生するアプリケーションによっては、再生を停止しても画面が残ったままになることがあります。このときは、別のウィンドウを最大化するなど画面の切り替えを行ってください。

13 章　トラブルを解決するには

この章では、パソコンのトラブルと、その対処方法を紹介しています。
トラブルが起こったら、まずここをお読みください。

電源を入れたときの異常

エラーメッセージが表示されたら

パソコンの電源を入れたときにエラーメッセージが表示されたときは、次のように対処してください。

エラーメッセージ	推測される原因	対処方法
・CMOS Date/Time Not Set ・System CMOS checksum bad-Default configuration used ・Check date and time settings	セットアップ情報が正しくありません	＊ 1
Password check failed. Fatal Error... System Halted.	誤ったパスワードを入力したため、システムが停止した (3 回入力失敗時)	＊ 2
Failed to unlock Hard Disk! WARNING : Continue booting with this drive being locked might cause system to hang with some OS.	HDD パスワードがエラーです (3 回入力失敗時)	＊ 3
DDC power error is detected! Fatal Error... System Halted.	アナログディスプレイケーブルが不良の可能性があります	＊ 4

＊ 1:10 章の「BIOS 設定を初期化する」を参照し、セットアップメニューを正しい情報に設定してください。
それでもエラーになるときは、お問い合わせ先にご連絡ください。
＊ 2:一度電源を切って、パスワードを入力し直してください。パスワードを忘れたときは、お問い合わせ先にご連絡ください。その場合、有償で対処することになります。
＊ 3:パスワードを忘れたときは、HDD が使用できなくなります。
お問い合わせ先にご連絡ください。その場合、HDD を有償で交換し、OS を再インストールすることになります。
＊ 4:パソコンの使用を中止し、お問い合わせ先にご連絡ください。

参照

・ お問い合わせ先について→「お問い合わせ先」(P.4)

こんな状態の時は

ここでは、パソコンや周辺機器などが正しく動作しなくなった状態とその対処方法をまとめてあります。機種によっては対象外となる記載もございます。
次の対処方法を行っても症状が改善されないときは、お問い合わせ先にお問い合わせください。

参照

・ お問い合わせ先について→「お問い合わせ先」（P.4）

パソコン

Q Windows のセットアップの途中で電源を切ってしまった

A

1 分程度待ってから電源を入れ直し、最初からセットアップを行ってください。

Q ハードウェアの検出中に画面が動かなくなってしまった

A

ハードウェアの検出には、数分から十数分かかることがあります。あわてて電源を切らず、しばらく待ってください。
十数分以上待っても画面が変わらないときは、電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切ります。1 分程度待ってから電源を入れ直し、セットアップを行ってください。

Q スタンバイ状態からもとに戻らない

A

アプリケーションや周辺機器がスタンバイ機能に対応していません。いったん電源を切ってから、スタンバイ機能をオフにしてお使いください。

参照

・ スタンバイ状態からの復帰について→ 11 章の「節電状態から復帰する」（P.161）

Q パソコンが異常に熱い、煙が出た、異臭がする

A

万一異常が発生した場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
そのまま使用すると、感電、火災の原因になります。また、すぐに電源プラグを抜けるように、コンセントの周りには物を置かないでください。お問い合わせ先にご連絡ください。

Q 操作していないのに、カリカリと音がする

A

Windows には、一定時間操作しないとき、ハードディスクを最適な状態にするプログラムを自動的に起動させる機能があります。いつも操作しているときと同じ程度の音が聞こえても、心配はありません。あまりにも大きな音がしたり、音がしだいに大きくなっていくような場合は、すぐに電源を切り、購入店かお問い合わせ先にご連絡ください。

Q 使用中に突然、回転音がする

A

装置内部を冷却するためにファンが回転しています。また、内部温度によってファンの回転数を変更しますので、音が大きくなったり、小さくなったりしますが、故障ではありません。

Q パソコンに飲み物をこぼしてしまった

A

すぐに Windows を終了し、電源を切ってください。電源プラグをコンセントから取り外してください。お問合せ先にご連絡ください。キーボードやマウスに飲み物をこぼした場合も、同様にしてください。

ディスプレイ

Q ディスプレイに何も表示されない／画面にゴミが表示される

A

- ディスプレイの「明るさ」、「コントラスト」が暗すぎる設定になっていませんか？
- 節電機能が働いていませんか？
  節電機能を終了するには、[Shift] キーを押したりマウスを操作したり、電源スイッチを押してください。
- 電源プラグがコンセントに正しく接続されていますか？
- 電源コードなどは、正しく接続されていますか？
- 電源コードは、AC100V のコンセントに接続してありますか？
- メモリーボードが正しく取り付けられていますか？ メモリーボードは純正品ですか？
  純正品のメモリーボードを正しく取り付けてください。
- 表示するパターンによっては、微妙な輝点（指定の色と関係なく光る）や、黒点（指定の色が表示できない）が見えたり、罫線や文字の一部が欠けることがあります。ただし、輝点や黒点の数については、弊社の規格によって制限しています。ご使用中、著しく増加することはありません。

参照

・ 詳細について→9 章の「重要事項」(P.120)

Q カーソルだけが表示される／電源が切れているのに、何か表示されている

A

原因が特定できません。お問い合わせください。

参照

・ お問い合わせ先について→「お問い合わせ先」(P.4)

Q ディスプレイの表示が読めない、または歪んでいる

A

リフレッシュレートの設定がディスプレイの仕様を超えていませんか？
リフレッシュレートは、ディスプレイ付属のマニュアルをご参照ください。

参照

・ 設定の方法について→ 10 章の「ディスプレイの表示を変える」(P.130)

Q 表示される画面が乱れる

A

・パソコンの電源を一度切り、立ち上げ直してください。
・パソコンの周辺に、電源の入っている精密機器を置いていませんか ?
・CRT ディスプレイを接続してお使いの場合、パソコンの使用中に、パソコンや CRT ディスプレイの位置を変えていませんか ?
　CRT ディスプレイは、地磁気の影響で色ムラが発生することがあります。一度電源を切り、30 分以上時間をおいてから再びご使用ください。
・CRT ディスプレイを接続してお使いの場合、パソコンとディスプレイを近接して置いていませんか ? パソコンとディスプレイを離すか、リフレッシュレートの設定値を上げてください。
・Windows の解像度と、ディスプレイがサポートしている解像度が一致していない場合があります。正しい設定に直してください。

Q パソコンを立ち上げたときに、「HITACHI」ロゴやメッセージが表示されない

A

ディスプレイによっては、パソコンに電源を入れた直後の画面表示に時間がかかり、「HITACHI」ロゴやメッセージが表示されない場合があります。BIOS メニューや Boot Menu を立ち上げるタイミングが分かりにくい場合は、次のやり方で立ち上げてください。

・BIOS メニュー：電源を入れてから約 10 秒間、[Delete] キーを押し続ける。
・Boot Menu：電源を入れてから約 10 秒間、[F12] キーを押し続ける。

「HITACHI」ロゴの表示時間を変更することで、BIOS メニューや Boot Menu を立ち上げやすくすることもできます。この場合、パソコンの起動時間は若干長くなります。次のやり方で設定してください。

・BIOS メニュー「Boot Settings Configuration」画面で、「Boot Logo Show」を「Long」に設定する。

参照

・ BIOS メニューの立ち上げについて→ 10 章の「BIOS の設定を戻す」(P.136)

Q 液晶ディスプレイの文字がぼやける

A

液晶ディスプレイの画面を高解像度で使う場合、文字がかすかにぼやける場合があります。これは仕様ですが、どうしても気になるときは、解像度を落としてお使いください。

Q 表示色がおかしい、色数が少ない

A

・プリンター、パソコンの順に電源を入れると、ディスプレイの表示色がおかしくなることがあります。そのときは両方の電源を切り、パソコン、プリンターの順に電源を入れ直します。
・画面の表示色を正しく設定します。[コントロール パネル] の [画面] アイコンをダブルクリックしてプロパティーを開き、[設定] タブで、画面の表示色を調整します。ディスプレイを接続し、電源を入れたあと、画面の領域、色を設定し直してください。

参照

- 設定方法について→ 10 章の「ディスプレイの表示を変える」(P.130)

Q 表示がちらついたり色がずれたりする

A

- テレビなど、近くに強い磁気を発生するものがあります。ディスプレイから離してご使用ください。
- ケーブルを正しく接続し直します。
- 明るさなどを正しく設定します。
- リフレッシュレートを正しく設定します。

Q ディスプレイが熱くなる

A

ディスプレイの周囲に置いてある物を取り除きます。ディスプレイの放熱を妨げる物は、周囲に置かないようにしてください。

Q おかしな文字が表示される

A

- Windows やアプリケーションを正しくインストールします。各ソフトに付属のマニュアルやヘルプを参照して、設定や制限事項などを確認します。
- 文字が英文フォントに設定されている場合、おかしな文字を選択し、日本語のフォントに変更します。
- [コマンドプロンプト] 画面の場合、表示が日本語モード、英語モードのどちらに設定されているか確認します。

Q タスクバーが表示されない

A

- 画面の端に隠れるほど、タスクバーの幅を細くしています。画面の下端などにマウスを動かし、マウスポインターが矢印に変わったら、ドラッグしてタスクバーの幅を広げます。
- タスクバーの設定を変えています。[スタート] ボタン－[タスクバーと [スタート] メニュー] をクリックしてプロパティーを開き、[全般] タブの [自動的に隠す] のチェックを消してください。

Q デスクトップがアイコンで乱雑になった

A

- アイコンを自動整列します。

1　デスクトップでアイコンのないところを右クリックし、[アイコンの整列] － [アイコンの自動整列] を選択する。

- 不要なアイコンを削除します。

1　削除するアイコンを右クリックし、[削除] を選択し、[はい] ボタンをクリックする。

Q 画面の文字が小さい

A

- 画面に表示するフォントサイズを大きくします。

1　デスクトップのアイコンのないところを右クリックし、[プロパティ] を選択する。
　[画面のプロパティ] 画面が表示される。
2　[デザイン] タブをクリックし、[フォントサイズ] で [大きいフォント] を選択する。
3　[OK] ボタンをクリックし、[閉じる] ボタンをクリックする。
4　立ち上げ直しのメッセージで [はい] ボタンをクリックする。

・画面の解像度を下げます。

1　デスクトップのアイコンのないところを右クリックし、[プロパティ] を選択する。
　[画面のプロパティ] 画面が表示される。
2　[設定] タブをクリックし、[画面の解像度] で「小」に変更する。

Q 動画の再生が終わっても、画像が残ったままになる

A

再生するアプリケーションによっては、再生を停止しても画面が残ったままになることがあります。このときは、別のウィンドウを最大化するなど画面の切り替えを行います。なお、動画ファイルを再生しているときは、コマンドプロンプトを起動してから Windows 側に切り替えたり、コマンドプロンプトのウィンドウを最大化してから終了しないでください。これらの操作を行うと、パソコンの動作が異常になることがあります。

マウス

Q マウスカーソルが動かない

A

・マウスケーブルが正しく接続されていますか ?
　接続し直す場合は、一度パソコンの電源を切ってからマウスケーブルを接続してください。

重 要

・PS/2 タイプの場合、パソコンの電源が入っている状態で、マウスケーブルを取り付けたり取り外したりしないでください。

・コマンドプロンプトまたは、Safe モードで立ち上げていませんか ?
　USB マウスの場合、Safe モードで立ち上げると、マウスが動かなくなることがあります。キーボードのキーで操作するか、パソコンを立ち上げ直して、通常のモードでお使いください。
・Windows か、実行中のアプリケーションに何らかの異常が発生しているかもしれません。次のようにして、異常が発生していると思われるプログラムを終了してください。
・[Ctrl] キーと [Alt] キーを押しながら、[Delete] キーを押します。
　[Windows タスクマネージャー] が開きます。異常が発生していると思われるプログラムを選び、[タスクの終了] ボタンをクリックします。

重 要

・[プログラムの強制終了] で強制終了した場合、直前の作業内容は保存されていません。

・そのまま、しばらく待ってください。アプリケーションの動作中、通信中や印刷中にもマウスが動かないことがあります。
・光学式マウスをご使用のときは、光学式マウスに適したマウスパッドをご使用することをお勧めします。

参照

・ 詳しくは→ 9 章の「光学式マウスについて」(P.122)

Q マウスカーソルが動かしたい方に動かず、突然移動する

A

・マウスのボールにゴミが付着している場合があります。マウスをクリーニングしてください。

参照

・ マウスのクリーニングについて→ 8 章の「お手入れ」(P.100)

・AC 電源に問題があるかもしれません。系統の違う AC コンセントに変更するか、ノイズフィルター付き OA タップをご使用ください。
・周囲または体が静電気を帯びているかもしれません。静電気を取り除いてからご使用ください。

Q マウスがなめらかに動かない

A

マウスの内部や内部のローラーに異物が入っているか、マウスのボールが汚れています。汚れていた場合はボールを取り出し、水で薄めた中性洗剤で洗います。

参照

・ マウスのボールのお手入れについて→ 8 章の「お手入れ」(P.100)

Q マウスカーソルの動きが遅い

A

マウスカーソルの速度を速くします。

1 [スタート] ボタン－ [コントロールパネル] を選択する。
2 [マウス] アイコンをダブルクリックする。
3 [ポインタオプション] タブをクリックし、[速度] でマウスカーソルの動きを速くする。

Q マウスカーソルが小さい

A

マウスカーソルのサイズを大きくします。

1 [スタート] ボタン－ [コントロール パネル] を選択する。
2 [マウス] アイコンをダブルクリックする。
3 [ポインタ] タブをクリックする。
4 [通常の選択] をダブルクリックする。
5 「 ARROW_M.CUR 」を選択し、[開く] ボタンをクリックする。
6 [OK] ボタンをクリックする。

キーボード

Q キーを押しても入力できない

A

・キーボードケーブルを正しく接続します。接続し直すときは、一度パソコンの電源を切ってから、キーボードケーブルを接続してください。

重要

・PS/2 タイプの場合、パソコンの電源が入っている状態で、キーボードケーブルを取り付けたり取り外したりしないでください。

参照

・キーボードケーブルの接続について→「3 章　パソコンを接続しよう」(P.37)

・[Num Lock] キーを押し、[Num Lock] ランプを点灯させます。[Num Lock] ランプが消灯している状態では、テンキーで数字の入力ができません。
・大容量のデータのコピー中であったり、ダイアログボックスを開いてマウスで設定している場合は、一時的にキーボードからの入力を受け付けなくなります。
・USB キーボードを使用する場合、BIOS メニューで USB キーボードを使用する設定にしてありますか？
BIOS メニューの [Advanced] ー [USB Configuration] 画面で、[Legacy USB Support] が「Enabled」に設定してあるかご確認ください。
・Windows のスタンバイ状態から復帰したあとは、キー入力ができない場合があります。

Q 正しい文字入力ができない

A

キーボードを正しく設定します。

1 [コントロールパネル] の [キーボード] アイコンをダブルクリックして開き、[ハードウェア] タブをクリックします。
2 [デバイス] が次のように設定されているか確認します。
・109 キーボードの場合：「日本語 PS/2 キーボード (106/109 キー)」
・USB キーボードの場合：「HID keyboard(Japanese 106/109-key)」
3 違っていた場合はプロパティーを開き、[ドライバ] タブで [ドライバの更新] ボタンをクリックして、[デバイスドライバのアップグレードウィザード] を立ち上げ、キーボードに対応するドライバーをインストールしてください。
4 ドライバーインストール後、パソコンを立ち上げ直すとキーボードの種類が変更され、キー入力ができるようになります。

ヒント

・USB キーボードをお使いの場合は、USB キーボードドライバーをセットアップしてください。
・出荷状態では、[コントロールパネル] の [キーボード] に「 101/102 英語キーボードまたは、Microsoft Natural PS/2 キーボード」と表示されます。

電源

Q 電源スイッチを入れたが、電源が入らない

A

・電源コードが、コンセントとパソコンの両方に正しく接続されていますか？

・頻繁に発生する場合は、AC 電源に問題があるかもしれません。系統の違う AC コンセントに変更してください。
・コンセントは正常に通電していますか ?
ほかの電源が必要な器具を接続してご確認ください。

Q 電源スイッチを入れたら、「Invalid system disk 〜」または「Non-System disk or disk error」と表示されてパソコンが立ち上がらない

A

・Windows が壊れているかもしれません。Windows を再セットアップします。

参照

・ Windows の再セットアップ→「5 章　ご購入時の状態に戻すには」(P.51)

・故障の可能性があります。お問い合わせ先にご連絡ください。

参照

・ お問い合わせ先について→「お問い合わせ先」(P.4)

Q エラーメッセージが表示された

A

・エラーメッセージの内容をご確認ください。

参照

・ エラーメッセージについて→「電源を入れたときの異常」(P.196)

・BIOS メニューの設定に問題があるかもしれません。BIOS メニューを開いて、ご購入時の状態に戻してください。

参照

・ 詳しくは→ 10 章の「BIOS の設定を戻す」(P.136)

・周辺機器を正しく接続していますか ?

システムの動作がおかしい

Q Windows の動作が不安定

A

・Safe モードで立ち上げ、チェックディスクを実行します。

1 パソコンの電源を入れ、起動画面が表示されたらすぐに、アラーム音が鳴るまで [F8] キーを押す。
2「Safe モード」を選択し、[Enter] キーを押す。
3「Microsoft Windows XP Professional」を選択し、[Enter] キーを押す。
4 ユーザーを選択しログオンすると、Safe モードで起動するメッセージが表示されるので、[はい] ボタンをクリックする。
5 [スタート] ボタン－[マイコンピュータ] を選択する。
6 [ローカルディスク (C：)] アイコンを右クリックして、[プロパティ] をクリックする。
7 [ツール] タブをクリックし、[エラーチェック] の [チェックする] ボタンをクリックする。

8 [ファイルシステムエラーを自動的に修復する] と [不良セクタをスキャンし、回復する] をチェックし、[開始] ボタンをクリックする。
9 「次回のコンピュータの再起動後に、このディスクの検査を実行しますか ?」と表示されるので、[はい] ボタンをクリックする。
10 Windows を立ち上げ直す。

Q Windows やアプリケーションが終了できない

A

・アプリケーションを強制終了させます。
　アプリケーションを立ち上げている場合は、タスクバーを右ボタンでクリックし、ショートカットメニューの [タスクマネージャ] をクリックします。[アプリケーション] タブをクリックし、終了させたいアプリケーションを選び、[タスクの終了] ボタンをクリックします。そのあと、[タスクマネージャ] を [×] ボタンで終了します。
・パソコンを強制終了させます。
　タスクバーを右ボタンでクリックし、ショートカットメニューの [タスクマネージャ] から「シャットダウン」ボタンをクリックし、Windows を終了します。それでも立ち上げ直すことができない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切ります。

Q 立ち上げ時、ピーといって立ち上がらない

A

・キーボードの上に物が乗っていませんか ?
キーボードに物が乗っている場合、物を取り除いてください。
・キーを押し続けていませんか ?
キーボードを押し続けている場合、キーから手を離してください。
・メモリーボードは正しく取り付けられていますか ?
増設したメモリーボードが不完全に取り付けられている場合、正しく取り付け直してください。

参照

・メモリーボードの取り付けについて→ 7 章の「メモリーボードを取り付ける」(P.91)

Q キーボードなどを操作しても画面の表示が変わらない

A

・アプリケーションを強制終了させます。
　アプリケーションを立ち上げている場合は、タスクバーを右ボタンでクリックし、ショートカットメニューの [タスクマネージャ] をクリックします。[アプリケーション] タブをクリックし、終了させたいアプリケーションを選び、[タスクの終了] ボタンをクリックします。そのあと、[タスクマネージャ] を [×] ボタンで終了します。
・パソコンを強制終了させます。
　タスクバーを右ボタンでクリックし、ショートカットメニューの [タスクマネージャ] から「シャットダウン」ボタンをクリックし、Windows を終了します。それでも立ち上げ直すことができない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切ります。
・ドライブ C の不要なファイルを削除して空き容量を増やします。
・メモリーを増やします。
・決まったアプリケーションを使用しているときに起きるときは、そのアプリケーションを削除し、再インストールします。
・HDD を修復します。

Q 電源を入れたら「ドライブのエラーをチェックしています」と表示された

A

ドライブのエラーをチェックするためにチェックディスクが立ち上がっています。数分で終了します。終了するまでは、パソコンを操作したり電源を切ったりせず、そのまま待ちます。

Q Windows を立ち上げるたびにチェックディスクツール(チェックディスク)が実行される

A

・ドライブのエラーが修復されないまま残っています。チェックディスクを実行してエラーを修復します。
・付属や市販のコンピューターウイルスソフトでウイルスチェックします。
・Windows を再セットアップします。

参照

・ 再セットアップについて→「5 章　ご購入時の状態に戻すには」(P.51)

・パソコンを修理に出します。

Q コマンドプロンプト画面が全画面表示になってしまった

A

[Alt] キーを押したまま [Enter] キーを押します。

Q 拡張ボードを取り付けてから動作が不安定になった

A

・拡張ボードが正しく取り付けられているかご確認ください。

参照

・ 拡張ボードの取り付けについて→ 7 章の「拡張ボードを取り付ける」(P.95)

・拡張スロットに拡張ボードを増設している場合、拡張ボードどうしが接触していないか、ご確認ください。
・節電機能が働かないように設定されているかご確認ください。

参照

・ 節電機能が働かないようにするには→ 11 章の「節電機能を使わないようにする」(P.162)

・割り込み (IRQ) が既存のデバイスと同じではありませんか ?
Windows のデバイスマネージャで、IRQ をご確認ください。

Q 拡張ボードが断続的に作動する

A

・拡張ボードが抜けかかっていませんか ?
いったん拡張ボードを取り外し、正しく取り付け直します。
・割り込み (IRQ) や I/O ポートアドレスが同じではありませんか ?
Windows のデバイスマネージャで、IRQ や I/O ポートアドレスをご確認ください。

Q 外付けシリアルモデムを接続したら、パソコンが立ち上がってしまうことがある

A
BIOS メニューの [Power] − [APM Configuration] 画面で「Power On By External Modems」が「Enabled」に設定されている時の動作です。
電話の呼び出しなどでシリアルモデムが RI 信号を発信すると、接続されているパソコンが自動で立ち上がります。
自動で立ち上げたくない場合は「Power On By External Modems」を「Disabled」に変更してください。

参照
・ BIOS メニューの立ち上げについて→ 10 章の「BIOS メニューを表示する」(P.136)

アクセスランプ

Q ランプが点灯したままになっている

A
・ HDD が壊れていませんか ?
[チェックディスク] を実行して HDD にエラーがないかチェックしてください。[チェックディスク] は、ディスクのプロパティーで [ツール] タブの [チェックする] ボタンをクリックすると立ち上がります。
・ 実行しようとしたアプリケーションが壊れていませんか ?
別のアプリケーションを実行してみてください。

Q FDD ランプが点灯したままになっている

A
FD が壊れていませんか ?
別の FD を FDD にセットし、[マイ コンピュータ] の [3.5 インチ FD] アイコンをダブルクリックして FD を読み直してみてください。

BIOS メニュー

Q BIOS メニューの設定を変更したら、正しく動作しなくなった

A
増設した拡張ボードなどの増設機器がある場合は取り外し、BIOS メニューの設定値を出荷時の状態に戻します。

重要
・ HDD パスワード設定など、一部出荷時の状態に戻らない項目があります。それらの項目は、手動で出荷時の設定に戻してください。

参照
・ BIOS メニューの立ち上げについて→ 10 章の「BIOS メニューを表示する」(P.136)

Q セットアップの実行エラーが表示される

A

パソコン内部に設置されているリチウム電池が消耗している可能性があります。お問い合わせの上、リチウム電池の交換を依頼してください。お客様自身で交換することはできません。リチウム電池を取り外すと、メモリーに入っている BIOS メニューで設定した情報が消えます。BIOS の設定を変更してお使いの場合は、変更時の設定内容をあらかじめ控えておいてください。

参照

・ お問い合わせ先について→「お問い合わせ先」(P.4)

音が聞こえない、録音できない

Q スピーカーから音が出ない

A

・外付けスピーカーの場合、スピーカーのジャックをパソコンに正しく接続します。ラインアウト端子に、スピーカーのジャックが正しく接続されているか確認します。

参照

・ スピーカーの接続について→ 6 章の「スピーカー、マイクを接続する」(P.82)

・スピーカーに電力を供給します。パソコンと別に電源が必要なタイプのスピーカーの場合、電源に接続しているか、スピーカーの電源が入っているかを確認します。
・スピーカーの音量が低くなっています。[マスタ音量] で音量を調整します。

参照

・ 音量の調整について→ 10 章の「音量を調整する」(P.133)

・再生しようとする音声ファイルの録音レベルが低くなっています。適切な録音レベルに調整して録音します。
・サウンドドライバーを正常に動作させます。

1 [コントロールパネル] の [システム] アイコンをダブルクリックする。
2 [システムのプロパティ] の [ハードウェア] タブの [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする。
3 リストの [サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ] のドライバーに「!」マークが付いていないか確認する。「!」が付いていた場合は、ドライバーを再セットアップする。

参照

・ サウンドドライバーの再セットアップについて→ 12 章の「サウンドドライバー」(P.169)

Q マイクで録音できない

A

・マイクのジャックが、パソコンに正しく接続されていません。マイクイン端子にマイクのジャックが正しく接続されているか確認します。

参照

・ マイクの接続について→ 6 章の「スピーカー、マイクを接続する」(P.82)

・マイクの録音レベルが低くなっています。[マスタ音量] でマイクの録音レベルを適切に調整して録音します。

参照

・ 録音レベルの調整について→ 10 章の「音量を調整する」(P.133)

Q 音声認識アプリケーションのマイク調整が適切に設定できない

A

マイクの感度設定が不適切です。[マスタ音量] でマイクの感度を調整します。

Q タスクバーにスピーカーのアイコンが表示されない

A

スピーカーのアイコンをタスクバーに表示する設定にします。

1　[コントロール パネル] の [サウンドとオーディオデバイス] アイコンをダブルクリックする。
2　[音量] タブをクリックする。[タスクバーに音量アイコンを配置する] に、チェックが付いているか確認する。チェックが付いている場合は、Windows を立ち上げ直す。

Q 音声が途切れたり、繰り返したりする

A

ディスクに読み書きしています。ディスクに読み書きしている状態で、再生時間の長い音を再生すると、音が途切れたり、繰り返したりする場合がありますが問題はありません。パソコンの立ち上げ音が途切れる場合は、次の操作を行ってください。

・[コントロールパネル] の [サウンドとオーディオデバイス] の [音量] タブで、再生時間の短い音を設定するか、サウンド名を「なし」に設定します。

プリンターで印刷できない

Q プリンターが使えない

A

・プリンターの電源を入れます。
・パソコンとプリンターの電源を切り、プリンターの電源を入れたあとで、パソコンの電源を入れます。
・プリンターに異物や用紙が詰まっています。プリンターの表示ランプを確認します。
・プリンターケーブルを正しく接続します。
・プリンターケーブルが絡んでいます。信号妨害のないように、ケーブルどうしはできるだけ離しておきます。
・プリンターをパソコンに接続したあと、[プリンタ] ウィンドウの [プリンタの追加] でプリンターを使用できるようにします。
・複数のプリンターを使用しています。使用するプリンターのアイコンを右クリックして、[通常使うプリンタに設定] にチェックが付いているか確認します。

・スタンバイ、休止状態から復帰したとき、プリンターのパネル操作が有効にならない場合があります。この場合は、パソコンより印刷してください。パソコン操作が有効になります。

Q 正しくプリントできない

A

正しいプリンターを選びます。アプリケーションの[ファイル]−[印刷]ダイアログボックスなどで、正しいプリンターが選ばれているか確認します。

Q 途中までしか印刷しない

A

用紙がなくなっていないかを確認します。

CD/DVD ドライブの異常

Q DVD-ROM/CD-ROM を読み込めない

A

・読み込めないディスクの規格を確認します。対応していない規格のディスクは読み込めません。読み込み可能なディスク規格は、『9 章技術情報』「ドライブとディスクの仕様」(P.107) でご確認ください。
・このパソコンに付属の CD-ROM をセットし、読み込んでみてください。読み込めない場合は、ドライブ内部のピックアップレンズが汚れているかもしれません。クリーニングしてください。

参照

・ クリーニング方法について→「お手入れ」(P.100)

・書き込み可能なディスクの場合、このパソコンで書き込みましたか？
ほかのパソコンで書き込んだディスクは、読み込めないことがあります。

Q CD-ROM/DVD-ROM/DVD-RAMディスクをドライブに入れると「Not Ready」など準備ができていないことを示すエラーメッセージが表示される

A

ドライブの準備ができていないときに表示されることがあります。ディスクアクセスランプが消えるまでそのまま待ちます。

Q DVD-Video が再生できない

A

・DVD-Video 再生ソフトがインストールされていないと、DVD-Video を再生できません。
・ご使用のドライブが DVD 対応ドライブでないと、DVD-Video を再生できません。
・海外製の DVD-Video は、地域コードを変更しないと再生できません。地域コードは一定回数以上変更すると変更できなくなり、設定以外の地域コードを持つ DVD-Video は再生できなくなります。

・DVD-Video のディスクが壊れていませんか？ほかの DVD プレーヤーで再生できるかご確認ください。
・DVD-Video の種類によっては、再生できないものがあります。

Q CD-R/RW に書き込みできない

A
・CD 書き込みソフトがインストールされていないと、CD-R/RW への書き込みができません。
・ご使用のドライブが CD-R/RW 書き込み対応ドライブでないと、CD-R/RW への書き込みはできません。
・すでにほかのパソコンで書き込んだ CD-R/RW ですか？ほかのパソコンで書き込んだ CD-R/RW には追記できないことがあります。
・CD-R/RW に残り容量以上の書き込みをしようとしていませんか？別の CD-R/RW を使用してください。
・CD-R/RW のディスクが壊れていませんか？ほかのパソコンで読み込みできるか、ディスク面に傷が無いか確認してください。
・CD-R/RW のディスクは推奨ディスクですか？推奨ディスク以外のディスクでは、正常に書き込みできないことがあります。

FD の異常

Q FD にデータが書き込めない

A
・ディスクのライトプロテクトノッチが、「書き込み禁止」側に入っています。
「書き込み可能」側に倒します。

参照

・　書き込み禁止について→ 6 章の「書き込みを禁止する」（P.79）

・ディスクの容量がいっぱいになっています。[マイ コンピュータ] の [3.5 インチ FD] のプロパティーを開き、ディスクの容量がいっぱいになっていないか確認します。

Q FD からデータが読み込めない

A
・このパソコンで読み込めない種類の FD です。読み込めるのは、720KB ／ 1.25MB ／ 1.44MB の FD です。
・Macintosh でフォーマットした FD は、読み込めません。
・弊社のパソコン以外でフォーマットした FD は、読み込めないことがあります。
・FD がフォーマットされていません。新しい FD には、そのままでは使用できないものもあります。
・1.25MB の FD が読み込めない場合は、3 モード FD ドライバーがインストールされていません。
3 モード FD ドライバーが添付されていない機種では、1.25MB の FD は読み込めません。
他の機種で読み込んでください。

Q FD が認識されない

A

・ FD を FDD に正しくセットします。FDD の中に引っかかっている場合は、FD を軽く押します。
・ 別の FD を読み込んでみて、正しく読み込める場合は、その FD が壊れています。FD は直射日光や磁気を発するもの、高温を避け、湿気・水にさらされないように保管します。

HDD のトラブル

Q HDD の空き容量が少なくなった

A

・ 不要なファイルを削除します。
・ 不要なアプリケーションを削除します。
・ HDD を増設し、ファイルを移動します。
・ MO ドライブ装置などのファイル装置を増設し、ファイルを移動します。

Q 1 台の HDD に、複数のドライブを作りたい

A

再セットアップの際に複数の領域 (パーティション) を作成し、フォーマットすると、複数のドライブができます。

重要

・ パーティションを作成すると、HDD 内のデータはすべて消去されます。

参照

・ 複数の領域の作成について→ 5 章の「一括セットアップする」(P.55)、Windows のヘルプ

その他の周辺機器のトラブル

Q 取り付けたあと、周辺機器が使えない

A

・ いったん周辺機器を取り外し、正しく取り付けます。
・ パソコンと周辺機器の電源を切り、周辺機器の電源を入れたあとでパソコンの電源を入れます。
・ ケーブルなどを正しく接続します。
・ 周辺機器の取扱説明書をご参照ください。

参照

・ 周辺機器の接続について→「6 章　パソコンに機器を接続する」(P.75)

Q 増設したメモリー容量が増えていない、起動時に表示されるメモリー容量が異常である

A

・ メモリーボードを正しく取り付けます。

参照

・　メモリーボードの取り付けについて→ 7 章の「メモリーボードを取り付ける」(P.91)

・[マイコンピュータ] アイコンを右クリックし、プロパティーを選択します。表示される[システムのプロパティ] 画面でメモリー容量を確認します。

ヒント

・　[システムのプロパティ] で表示されるメモリー容量は、実際のメモリー容量から、ビデオメモリー使用分 (標準で 8MB 使用) を引いたものが表示されます。
・　実装容量は、BIOS メニューの [Main]-[System Information] の [System Memory] でもメモリー容量を確認することができます。実際のメモリー容量から、ビデオメモリー使用分 (標準で 8MB 使用) を引いたものが表示されます。

参照

・　BIOS メニューの立ち上げ方→ 10 章の「BIOS メニューを表示する」(P.136)

Q LAN で通信できない

A

・接続する HUB と通信モード (速度や全二重 / 半二重の設定) を合わせます。接続する HUB にオートネゴシエーション機能がない場合は、10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T などの設定を正しく合わせます。
・接続している HUB の電源を入れます。
・サーバーが起動していることを確認します。
・ケーブルなどを正しく接続します。
・100BASE-TX で使用しているときは、100BASE-TX で動作可能なケーブルをご使用ください。
・1000BASE-T で使用しているときは、1000BASE-T で動作可能なケーブルをご使用ください。
・BIOS メニューの [Boot] ─ [I/O Security] 画面で、[LAN Controller] が「 Enabled 」に設定されているかご確認ください。
・LAN ドライバーがインストールされているかご確認ください。
・ネットワークで使用するプロトコルが組み込まれているかご確認ください。
・NetWare サーバーとの接続に失敗する場合は、パソコンで IPX/SPX 互換プロトコルのフレームタイプを NetWare サーバーで使用しているフレームタイプに合わせてください。標準では「 auto 」です。

Q 10BASE5/10BASE-T を組み合わせたネットワークで通信できない、または遅い

A

ネットワークのトランシーバーや HUB の設定が正しくありません。10BASE5 のイエローケーブルと 10BASE-T の HUB を接続するトランシーバーの SQE スイッチが OFF に設定されているかご確認ください。その場合、トランシーバーケーブルにパソコンを直接接続しているならば、トランシーバーの SQE スイッチは ON に設定してください。
ただし、SQE スイッチを ON に設定すると、複数のメーカーのパソコンが 10BASE-T を使用している場合、LAN 機能の特性の違いで通信できないパソコンがあります。HUB の多段接続を行った場合、1 段目と 2 段目で通信状態が変わることがあります。

Q データの送受信が遅くなる

A

・HUB のコリジョンランプが点灯していませんか？
　よく点灯する場合は、スイッチング HUB をご使用ください。
・Windows のコマンドプロンプトで、ファイルを転送していませんか？
　コマンドプロンプトで、ファイル転送などを長時間行っていると、データの送受信が遅くなることがあります。

ファイルがうまく管理できない

Q エクスプローラで探しているファイルが見つからない

A

・正しいフォルダーを選択します。
・どのフォルダーに保存したか不明のときは、ファイルを検索します。

1　[スタート] ボタン－[検索] －[ファイルやフォルダ] を選択する。
2　ファイル名を入力し、[検索] ボタンをクリックする。
3　検索されたファイルのフォルダーを確認する。

・新規文書を保存すると、文書を作成したアプリケーションのフォルダーに入ることがあるので、このフォルダーを確認します。

Q CD-ROM/DVD-ROM からコピーしたファイルを上書きできない

A

ファイル属性の読み取り専用を解除します。

1　エクスプローラでファイルを右クリックし、[プロパティ] を選択する。
2　[読み取り専用] のチェックを外す。
3　[適用] ボタンをクリックし、[閉じる] ボタンをクリックする。
4　エクスプローラのウィンドウ右上の [×] ボタンをクリックして、エクスプローラを終了する。

インターネット使用中のトラブル

Q インターネットに接続できない

A

・外付けのモデムを使用しているときは、モデムの電源が入っているかを確認します。
・接続が混んでいる時間帯では、すぐに接続できないことがあります。しばらくしてからもう一度接続します。
・接続先のサーバーが停止していないかを確認します。
・接続先の電話番号が変わっていないか確認します。
・設定してある接続先の電話番号を確認します。

1　[スタート] ボタン－[コントロールパネル] をクリックする。
2　[電話とモデムのオプション] アイコンをダブルクリックする。
3　[ダイヤル情報] タブで使用している接続先の項目を選択し、電話番号を確認する。

・ユーザー ID やパスワードを確認します。

1　デスクトップの [Internet Explorer] アイコンを右クリックし、[プロパティ] を選択する。
2　[接続] タブをクリックし、[ダイヤルアップの設定] で使用するダイヤルアップが選択されていることを確認し、[設定] ボタンをクリックする。

3　ユーザー名を確認し、正しいパスワードを入力する。パスワードを入力するときは小文字、大文字を確認する。

・モデムの設定が正しいかを確認します。

1　[スタート] ボタン－ [コントロールパネル] をクリックする。
2　[コントロール パネル] 画面を開く。
3　[電話とモデムのオプション] アイコンをダブルクリックする。
4　[ダイヤル情報] タブの [編集] ボタンをクリックし、国／地域、市外局番、ダイヤル方法を確認する。
5　[OK] ボタンをクリックし、[モデム] タブをクリックし、使用しているモデムが選択されているかを確認する。
6　[プロパティ] ボタンをクリックし、[プロパティ] の [詳細設定] タブをクリックする。
7　[既定の設定を変更] ボタンをクリックし、[詳細設定] タブをクリックしてハードウェアの設定を確認する。

・ネームサーバーや IP アドレスなどの TCP/IP の設定を確認します。

1　[スタート] ボタン－ [コントロール パネル] を選択する。
2　[ネットワーク接続] アイコンをダブルクリックする。
3　使用している接続先のアイコンを選択し、[ファイル] － [プロパティ] を選択する。
4　[ネットワーク] タブの [インターネットプロトコル (TCP/IP)] を選択し、[プロパティ] ボタンをクリックする。
5　IP アドレス設定、ネームサーバーを確認する。

Q 接続中に突然回線が切れる

A

・データを送受信していない状態が一定の時間以上続くと、自動的に回線が切れます。通信していない時間を長くするときは、次のようにします。

1　デスクトップの [Internet Explorer] アイコンを右クリックし、[プロパティ] を選択する。
2　[接続] タブをクリックし、[ダイヤルアップの設定] で使用するダイヤルアップが選択されていることを確認し、[設定] ボタンをクリックする。
3　「ダイヤルアップの設定」の [詳細] ボタンをクリックする。
4　[アイドル時間が次の場合、切断する] にチェックが入っていることを確認し、アイドル時間を長くする。

・キャッチホンを使用すると、通信が切れます。キャッチホン II に切り替えると解消します。
・接続先のサーバーがダウンしました。
・Outlook Express の使用時では、[送受信が終了したら切断する] をチェックしていると、メールの送受信後自動的に回線が切れます。
・回線にノイズが発生しました。
・システムスタンバイをオフにします。

Q 接続中にパソコンの電源を切ってしまった

A

電話回線は強制的に切断されます。ダウンロード中のファイルがある場合は、正常に保存されないことがあります。

Q ホームページが開かない

A

・URL の入力が正しいか確認します。
・指定した URL のホームページがなくなっています。
・指定した URL のホームページは、インターネットエクスプローラで設定したセキュリティーのレベルの範囲外です。次の手順を行って、セキュリティーレベルを調整します。

1　デスクトップの[Internet Explorer]アイコンを右クリックし、[プロパティ]を選択する。
2　[セキュリティ]タブをクリックし、[Web コンテンツのゾーンを選択してセキュリティのレベルを設定する]で、[インターネット]が選択されていることを確認する。
3　[このゾーンのセキュリティのレベル]に表示されているつまみをドラッグしてレベルを下げる。つまみが表示されていないときは、[既定のレベル]ボタンをクリックしてつまみを表示する。
4　「セキュリティのレベルを変更しますか ?」という警告が表示される。[はい]ボタンをクリックする。
5　[適用]ボタンをクリックし、[OK]ボタンをクリックする。

Q モデムの発信音がうるさい

A

モデムの発信音を消します。

1　[スタート]ボタン－[コントロール パネル]を選択する。
2　[電話とモデムのオプション]アイコンをダブルクリックし、[モデム]タブで使用するモデムが選択されていることを確認し、[プロパティ]ボタンをクリックする。
3　[詳細]タブをクリックする。
4　[追加設定]領域に、ATM0 と入力し、[OK]ボタンをクリックする。
5　[OK]、[閉じる]の順にボタンをクリックして終了する。

ヒント

・　再び音を出す場合は、手順 4 で入力した「ATM0 」を削除してください。

Q 転送スピードが遅い

A

・回線が混んでいます。時間帯によっては、転送スピードが遅くなる場合があります。しばらく時間をあけてからご使用ください。
・モデムの設定が間違っています。正しいモデムを選択します。

1　[スタート]ボタン－[コントロール パネル]を選択する。
2　[電話とモデムのオプション]アイコンをダブルクリックし、[モデム]タブで使用するモデムを選択する。

インターネットブラウザーのトラブル

Q 「お気に入り」が増えすぎた

A

・フォルダーを作成してお気に入りのページをフォルダーに移動します。
・お気に入りのページを削除します。

1　インターネットエクスプローラを起動し、[お気に入り]－[お気に入りの整理]を選択する。
2　削除するホームページを選択し、[削除]ボタンをクリックし、[はい]ボタンをクリックする。

参照

・　お気に入りの整理について→インターネットブラウザーのヘルプをご覧ください。

Q 開いたホームページが更新されていない

A

・キャッシュに保存されている一時ファイルを更新するように設定を変更します。

1　インターネットエクスプローラを起動し、[ツール] − [インターネットオプション] を選択する。
2　[全般]タブをクリックし、[インターネット一時ファイル]の[設定]ボタンをクリックする。
3　[保存しているページの新しいバージョンの確認] で [ページを表示するごとに確認する]、[Internet Explorer を起動するごとに確認する]、[自動的に確認する] のいずれかを選択する。

・一時ファイルを削除します。

1　インターネットエクスプローラを起動し、[ツール] − [インターネットオプション] を選択する。
2　[全般] タブをクリックし、[インターネット一時ファイル] の [ファイルの削除] ボタンをクリックし、[OK] ボタンをクリックする。

Q ホームページが文字化けする

A

・表示している文字の種類を日本語に変更します。

1　インターネットエクスプローラを立ち上げ、[表示] − [エンコード] − [日本語 (シフト JIS)] または [日本語 (自動選択)] を選択する。

・日本語を優先して表示する設定に変更します。

1　インターネットエクスプローラを立ち上げ、[ツール] − [インターネットオプション] を選択する。
2　[全般] タブをクリックし、[言語] ボタンをクリックする。
3　[日本語 [ja]] を選択し、[上へ] ボタンをクリックし、一番上に移動する。[日本語 [ja]] がないときは、[追加]ボタンをクリックし、[日本語[ja]]を選択し[OK]ボタンをクリックする。

Q ホームページの表示が遅い

A

・プロキシサーバーを利用します。

1　[スタート] メニューの「インターネット」を右クリックし、「インターネットのプロパティ」を選択する。
2　[接続] タブをクリックし、使用しているダイヤルアップが選択されていることを確認し、[設定] ボタンをクリックする。
3　[プロキシサーバーを使用する] をチェックし、アドレスとポートを入力する。

・画像の表示をやめます。

1　インターネットエクスプローラを起動し、[ツール] − [インターネットオプション] を選択する。
2　[詳細設定] タブをクリックし、「マルチメディア」の [画像を表示する] のチェックを外す。
3　[OK] ボタンをクリックする。

Q ホームページがいつ更新されたかいちいち調べるのは大変

A

ホームページの内容が更新された通知をメールで受け取ることができます。ホームページをお気に入りに追加し、更新通知を送信するように設定します。

1　インターネットに接続し、更新された通知を送信させるホームページを表示する。
2　[お気に入り] − [お気に入りに追加] を選択し、フォルダーを選択して [OK] ボタンをクリックする。
3　[お気に入り] − [お気に入りの整理] を選択する。
4　更新通知を送信させるホームページを選択し、[オフラインで使用する] をチェックする。[プロパティ] ボタンが表示される。

5　[プロパティ] ボタンをクリックする。[XXX のプロパティ] 画面が表示される。
6　[ダウンロード] タブをクリックする。
7　[このページが変更された場合、電子メールを送信する] をチェックし、電子メールアドレスと電子メールサーバー名を入力し、[OK] ボタンをクリックする。
8　[閉じる] ボタンをクリックする。インターネットに接続し、同期化される。

メールの送受信がうまくいかない

Q メールの送受信ができない

A

・サーバーが停止していないかを確認します。
・受信メール (POP3) サーバー、送信メール (SMTP) サーバー、アカウント名、パスワードが正しいか確認します。

1　Outlook Express を立ち上げ、[ツール] ー [アカウント] を選択する。
2　[メール] タブをクリックし、使用するアカウントが選択されていることを確認し、[プロパティ] ボタンをクリックする。
3　[サーバー] タブをクリックし、正しい受信メール (POP3) サーバー、送信メール (SMTP) サーバー、アカウント名、パスワードを入力する。
4　[OK] ボタンをクリックする。

Q 送信したメールが相手に届いていない

A

・宛先のメールアドレスが正しいかを確認します。
・メールサーバーが停止していないかを確認します。
・添付されているデータのサイズが大きすぎ、メールサーバーで受信できる範囲を超えています。添付したデータのサイズを小さくしてもう一度送信します。

Q 受信したメールが文字化けしている

A

・表示するフォントを日本語にします。Outlook Express で、[表示] ー [エンコード] ー [日本語 (自動選択)] を選択します。
・添付データの送信形式を MIME の「Base 64 形式」または「なし」で送信するように送信相手に依頼します。

Q 受信メールをいちいち手作業で分類するのは手間がかかる

A

受信メールを自動的に振り分けることができます。ここでは、Outlook Express で、指定した送信者からのメールを自動的に振り分ける場合を例に説明します。

1　Outlook Express を立ち上げ、[ツール] ー [メッセージルール] ー [メール] を選択する。[メッセージルール] の [メールルール] タブが表示される。
2　[1.ルールの条件を選択してください]の[送信者にユーザーが含まれている場合]をチェックする。
3　[3. ルールの説明] の「送信者にユーザーが含まれている場合」をクリックする。
4　[アドレス帳] ボタンをクリックし、送信者を選択し [送信者] ボタンをクリックし、[ルールのアドレス] に表示する。ほかの送信者も選択する場合は、同様にする。[OK] ボタンを 2 回クリックし、[新規のメールルール] に戻る。

5　[2. ルールのアクションを選択してください] の [指定したフォルダに移動する] をチェックし、[3. ルールの説明 (下線をクリックすると編集できます)] の「指定したフォルダ」をクリックする。
6　[アイテムの移動先] で受信メールを移動するフォルダーを選択し、[OK] ボタンをクリックする。
7　[4. ルール名] に分類する名称を入力し、[OK] ボタンを 2 回クリックする。

時計精度

Q 時計が遅れる

A

・パソコンのリチウム電池が消耗すると、パソコンの時計が遅れたり、BIOS メニューの設定が正しく表示されなくなります。また、「 CMOS Date/Time Not Set 」などと表示されます。このようなときは、リチウム電池を交換する必要があります。
・寿命で交換する場合はお問い合わせ先までご連絡ください。お客様自身で交換できません。なお、リチウム電池を取り外すとメモリーに入っている BIOS メニューで設定した情報が消えます。設定内容はあらかじめ控えておいてください。

参照

・　リチウム電池の寿命について→ 9 章の「有寿命部品」(P.117)

Q タイムサーバーと同期をとりたい

A

[スタート] ボタン－[コントロールパネル]－[日付、時刻]－[インターネット時刻] でタイムサーバーを設定できます。設定方法の詳細は「ヘルプとサポート」で「インターネット時刻」の項目をご参照ください。

その他のソフトウェアのトラブル

Q アプリケーションが実行できない

A

・このパソコンおよびインストールされている OS で使用できるアプリケーションですか ?
・そのアプリケーションの実行に必要なメモリー容量が実装されているか、Windows のバージョンを正式にサポートしているアプリケーションであるかなどをご確認ください。
・どのアプリケーションも正しく実行できなければ、Windows が壊れているかもしれません。フロッピーディスクやその他の媒体に必要なファイルのバックアップを取り、Windows を再セットアップしてください。

参照

・　Windows の再セットアップについて→「5 章　ご購入時の状態に戻すには」(P.51)

Q アプリケーションのインストール時、バージョン競合のメッセージが表示された

A

通常は、[はい] ボタンをクリックして新しいファイルを使用します。アプリケーションによって個別に指示がある場合は、その指示に従います。

Q システムが不安定である

A

Hyper-Threading Technology 機能に対応していないアプリケーションを使用した場合に、システムが不安定になる場合があります。システムが不安定な場合は、BIOS の設定で Hyper-Threading を OFF に変更してご使用ください。BIOS の設定の変更方法は次のとおりです。

1 パソコンの電源を入れ、BIOS を立ち上げる。

BIOS メニューが表示される。

参照

・ BIOS の立ち上げ方法→ 10 章の「BIOS メニューを表示する」(P.136)

2 [←]、[→]キーで [Advanced] を選ぶ。

3 [↑]、[↓]キーで [CPU Configuration] を選び、[Enter] キーを押す。

[Configure advanced CPU settings] 画面が表示される。

4 [↑]、[↓]キーで [Hyper Threading Technology] を選び、[Enter] キーを押す。

サブメニューが表示される。

ヒント

・ [Hyper Threading Technology] は、Pentium(R)4 モデルのみ表示されます。

5 [↑]、[↓]キーで [Disable] を選び、[Enter] キーを押す。

[Configure advanced CPU settings] 画面に戻る。

6 [F10] キーを押す。

設定内容を保存する確認のメッセージが表示される。

ヒント

・ [F10] キーを押しても確認メッセージが表示されない場合は、次の手順を行ってください。
  1 [←]、[→]キーで [Exit] を選ぶ。
  2 [↑]、[↓]キーで [Exit & Save Changes] を選び、[Enter] キーを押す。

7 [Ok] を選び、[Enter] キーを押す。

設定した内容が保存され、セットアップメニューが終了し、パソコンが立ち上げ直される。

電子マニュアル

Q 電子マニュアルが立ち上がらない

A

次のいずれかの手順で Adobe Reader をインストールします。

・HDD リカバリーモデルの場合

e:¥programs¥adobereader フォルダー中の [adberdr70_jpn_full] をダブルクリックする。

＊ e はリカバリー領域のドライブ名です。

・CD-ROM リカバリーモデルの場合
『活用』CD を CD/DVD ドライブに入れ、e:¥programs¥adobereader フォルダー中の
[adberdr70_jpn_full] をダブルクリックする。
＊ e は CD/DVD ドライブ名です。

サポート＆サービスのご案内

1. 納入時の欠品や初期不良について

製品納入時には、製品および付属品の内容を必ずご確認ください。
納入時の欠品や初期不良（納入後 1 週間以内）については、日立コールセンタまでご連絡ください。代品と交換させていただきます。なお、欠品や初期不良の内容によっては、欠品部品送付または修理対応となる場合があります。

2. 困ったときは

STEP1 「マニュアル」を見る

製品同梱の紙マニュアルや電子マニュアルをご利用ください。

STEP2 最新情報を Web サイトで入手

FLORA ホームページで、Q&A や技術情報、ダウンロードなどの最新情報を提供しております。
FLORA ホームページの「サポート」をクリックしてください。

● Q&A（よくある質問と回答）

電話や Web で寄せられるお問い合わせの中から、よくあるご質問とその回答を掲載しています。随時最新の情報を追加・更新しておりますので、電話や Web でお問い合わせいただく前に一度ご確認ください。

●ダウンロード

最新のドライバーやユーティリティー、BIOS アップデートプログラムを提供しています。
必要に応じてご利用ください。

● Web によるお問い合わせ

専用の入力フォームへ必要事項とお問い合わせの内容を入力していただきますと、後日メールで回答いたします。

＊ 回答のメールについて再度ご質問がある場合は、再度受付フォームから入力してください。回答メールの返信機能を利用することはできません。
＊ お問い合わせの内容によっては、回答までにお時間をいただく場合があります。

STEP3 お電話でお問い合わせください

●パソコンの操作や使いこなしについて

HCA センタへお問い合わせください。

●故障かな？と思ったら

【販売会社からご購入いただいた場合】
販売会社で修理を承ることがございます。販売会社へ修理の窓口をご確認ください。
【上記以外の場合】
日立コールセンタへお問い合わせください。

3. 製品保証について

●保証規定
保証書の裏面に記載されていますので、よくお読みください。

●保証期間
・製品の保証期間は、保証書に記載されています。
・本保証書に基づいて修理または交換した部品の保証期間は、修理完了後 90 日間または当該部品が組み込まれた装置の残余保証期間のうち、いずれか長い方とします。その期間内に修理または交換した部品に瑕疵があった場合、弊社は、再修理または交換の責任を負うものとします。なお、弊社は、当該瑕疵について、当該再修理または交換の責任以外、損害賠償その他一切の責任を負わないものとします。交換された旧部品および装置は弊社が任意に処分できるものとします。
・ディスプレイ装置以外の弊社標準オプション製品 (製品に内蔵または接続される弊社製のオプション製品) の場合は、当該オプション製品が内蔵または接続されている日立パーソナルコンピュータ製品の保証期間が適用されます。

●修理サービス
保証期間中の修理サービスは引取修理サービスです。
お電話でトラブルの状況を確認し、修理が必要と判断された場合は、対象製品をお客様ご指定の場所まで宅配業者が引き取りにうかがい、修理完了後ご返却するサービスです。修理はハードウェア部分に限らせていただきます。また、ディスプレイ装置以外の弊社標準オプション製品の修理サービスについても、引取修理サービスとなります。
引き取り修理もしくは持ち込み修理以外の保守サービスをご希望の場合には、それに要する費用はお客様のご負担となります。持ち込み修理時の運搬費用についてもお客様のご負担とさせていただきます。

修理依頼時のご注意

（1）修理依頼品に必ず修理依頼票 (本書の巻末) のコピーと保証書か保証書のコピーを添えて、ご依頼ください。
（2）FD、MOなどの記録媒体、および製品保証の対象とならない弊社製でない付加物などは事前に取り外してご準備ください。これらが本製品に付加された状態で引き渡された場合、弊社はこれらに対する責任を負いません。
（3）HDD内のプログラムやデータ、各種設定内容は保証いたしかねますので、必ずバックアップをお取りください。
（4）HDD交換後の回復サービス (OSリカバリー) については有料となります。ご依頼の際は、「Product Recovery CD-ROM」または「BackUP CD-ROM」を添付していただく必要があります。
詳しくは修理受付窓口へお問い合わせください。

修理受付窓口

【販売会社からご購入いただいた場合】
販売会社で修理を承ることがございますので、販売会社へ修理の窓口をご確認ください。
【上記以外の場合】
日立コールセンタへお問い合わせください。

受付時間と訪問日

修理受付窓口のテクニカルスタッフが修理を必要と判断した場合、原則翌営業日午後以降のご希望の時間帯に宅配業者が引き取りにうかがいます。

＊　離島や山間部、遠隔地については、翌々日以降となります。
＊　交通事情・天候などにより、ご希望の時間帯にうかがえない場合があります。

修理返却までの期間

装置のお引き取り後、修理完了品をお届けするまで約 1 週間かかります。なお、故障の内容によってはそれ以上かかる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

4.　有償サポートについて

● (1) 契約保守

「当日オンサイト修理」、「翌日オンサイト修理」や「引き取り修理」などの契約保守サービスメニューがあります。ご契約いただきますとその契約範囲の保守サービスについて修理ごとの追加料金は発生しません。詳しくはご購入先か日立コールセンタへお問い合わせください。

● (2) パーコール保守

修理のつど、その内容で所定の修理料金を申し受けます。

5.　補修用性能部品について

補修用性能部品の保有期間は、製造終了後原則として 6 年です。
ただし、諸般の事情により補修用性能部品の入手ができない場合に限り、本製品の機能を修復するために、同等機能の代替品や再生部品を使用したり、また修理についてご相談させていただくことがあります。あらかじめご了承ください。

6. FLORA シリーズ修理依頼書

<table>
<tr><td colspan="3">FLORAシリーズ修理依頼書</td><td colspan="2">管理 No
年　月　日</td></tr>
<tr><td>お名前</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>会社名</td><td colspan="2"></td><td>部署名</td><td></td></tr>
<tr><td>ご住所</td><td colspan="4">〒
お電話番号　　　　FAX番号</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ご使用の
パソコン</td><td>製品名(形名)</td><td></td><td>ご購入先</td><td></td></tr>
<tr><td>製造番号</td><td></td><td>ご購入日</td><td>年　月　日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">症状</td><td>どこが
(パソコン・ディスプレイなど)</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>いつ
(毎回・時々・まれに)</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>どのように</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="5">修理限度額(有償修理＊1時、この金額を超えそうな場合は事前に、連絡いたします。)</td></tr>
<tr><td colspan="5">修理会社記入欄(修理内容など)</td></tr>
</table>

ご注意：

1. 修理依頼品に<u>必ず本票のコピーと保証書か保証書のコピーを添えて、</u>ご依頼ください。＊2
2. 修理をご依頼の際、一切の増設機器およびケーブル類を外した状態でご準備ください。
3. HDD 内のプログラムやデータ、各種設定内容は保証いたしかねますので、必ずバックアップをお取りください。
4. HDD 交換後の回復サービス（OS リカバリー）については、有料となります。ご依頼の際は、「Product Recovery CD-ROM」または「BackUP CD-ROM」を必ず添付してください。
5. その他、保証書に記載の保証規定をご覧ください。

＊1：有償修理となるのは次の場合です。
・保証期間を経過したあと
・保証規定の範囲外の原因による故障の場合（天災や、お客様の不注意に起因する故障の場合など）
＊2：本票は、保守会社や販売会社では不要の場合があります。あらかじめお問い合わせ先へご確認ください。

さくいん

数字

3 モード FD ドライバー 171

A

Adobe Reader 188

B

B's Recorder GOLD8 BASIC for HITACHI 186
BackUP CD-ROM 58, 69
BACKUP-DA FLORA Edition 182
BEAMSTAR 用ドライバー 176
BIOS 136, 137
Boot Menu 151

C

Caps Lock キー 129
CD 69
CD/DVD ドライブのクリーニング 100
CD-ROM ドライブ 107
CLEAR-DA FLORA Edition 182

D

DMA 転送 135
DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ 109
DVD-ROM ドライブ 108
DVD-Video 135
DVD スーパーマルチドライブ 110

F

FD 113

H

HITAC カスタマ･アンサ･センタ 4

J

Java 2 Platform Standard Edition
Runtime Environment 181
JP1/NETM/DM Client FLORA Edition 181

L

LAN ケーブル 81
LAN ドライバー 169

M

MS-IME のツールバー 128

N

Norton AntiVirus 2006 (90 日版) 179
Norton Ghost 2003 180

O

Office Personal 2003 187
OS 4

P

POWER-DA 186
PowerDVD 6 187
Product Recovery CD-ROM 56, 69

S

SAVINGDA 185
SECUREDA 184
Security Chip 152
Security Chip ドライバー 177
Security Chip ユーティリティー 187
Shift キー 128

U

Universal Serial Bus 84
USB 機器 84

W

Wake On LAN 149

あ

アナログディスプレイ 42
アプリケーション 178

い

一括セットアップ 55
インターネットマーク 179

え

英大文字と英小文字 129

お

置き場所 38
音量 133

き

キーボード 43
キーボードケーブル 42
基本ソフト 4

強制取り出し 77

さ

サウンドドライバー 169

し

姿勢 38
使用許諾契約 46

す

スピーカー 82

せ

セットアップ 51

た

ダブルクリックの速度 126

ち

地域コード 135

つ

追加セットアップ 189

て

ディスプレイ 122
ディスプレイ用電源コード 42
電源スイッチ 44
電源を入れ直す 49
電子マニュアル 22, 23

と

特殊文字 128

に

日本語入力 128

は

パーティション 56
バイオス 136
はじめて電源を入れる 46
パスワード 139
パソコン 120, 121
パソコン用電源コード 42
バックアップ 52

ひ

日立コールセンタ 4
日立リサイクルホットライン 5
表示ドライバー 167

ふ

フォーマット 79
フロッピーディスクドライブ 101

ほ

ホイールマウスドライバー 170

ま

マイク 82
マウス 102
マウスケーブル 42
マウスポインター 46
マウスポインターの動く速さ 127
マニュアル 22

め

メモリーボード 116

り

リカバリーイメージデータ 64
リフレッシュレート 131

ろ

ローマ字／かな入力 128

他社製品の登録商標および商標についてのお知らせ

このマニュアルにおいて説明されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティー契約のもとに供給されています。ソフトウェアおよびマニュアルは、そのソフトウェアライセンス契約に基づき同意書記載の管理責任者の管理のもとでのみ使用することができます。
それ以外の場合は該当ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。

- ENERGYSTAR はアメリカ合衆国の登録商標です。
- Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corp. の登録商標です。
- その他、各会社名、各製品名は、各社の商標または登録商標です。

FLORA 活用百科

第 3 版　2007 年 4 月

株式会社　日立製作所

エンタープライズサーバ事業部

〒 259-1392 神奈川県秦野市堀山下 1 番地

お問い合わせ先：HCA センタ 0120-2580-91

DX0101000-3